

協同教育実践資料 23

# 生き生きと学ぶ生徒の姿の追求

—鳥取県中・西部4中学校の挑戦

鳥取県湯梨浜町立東郷中学校・鳥取県伯耆町立溝口中学校  
鳥取県南部町立南部中学校・鳥取県大山町立名和中学校 著  
杉江修治 監修

## 生き生きと学ぶ生徒の姿の追求

—鳥取県中・西部4中学校の挑戦

鳥取県湯梨浜町立東郷中学校・鳥取県伯耆町立溝口中学校  
鳥取県南部町立南部中学校・鳥取県大山町立名和中学校 著

杉江修治 監修



## 目次

はじめに .....	3
1 湯梨浜町立東郷中学校 .....	5
2 伯耆町立溝口中学校 .....	55
3 南部町立南部中学校 .....	73
4 大山町立名和中学校 .....	85





## はじめに

私が鳥取県中・西部の教育実践づくりに関わって長い。2004年から米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校の授業づくりに参加したのがこの地域に何うようになった最初であった。さらに、2007年から米子市立加茂中学校、倉吉市立鴨川中学校の授業改善へと関わりが広がり、「協同教育実践資料集」の第1巻として箕蚊屋中学校の実践をまとめた『豊かな心を育み、共に支え合い高め合う生徒の育成』を、さらに第5巻として加茂中学校の実践をまとめた『未来につながる確かな学力と豊かな人間性の育成』を刊行した。

現在は、本書に実践を寄せた湯梨浜町立東郷中学校(2009年から)、伯耆町立溝口中学校(2008年から)、南部町立南部中学校(2011年から)、大山町立名和中学校(2010年から)にはそれぞれ年に1~3回の授業研究会に参加してきている。

今回実践を本書に提供いただいた4校は、出かけるごとに私が考える素晴らしい実践、すなわち、生徒が授業にわが事として参加している姿、楽しそうに学ぶ姿を多く見ることのできる中学校である。協同学習は技法ではなく、考え方であることを踏まえ、実践の基盤に学級内の人間関係、それも単なる仲良しではなく、高め合う集団づくりに力を注いだ成果であると受け止められる。あわせて、教師集団が研修を通して、生徒の授業と同様、わが事として、高め合う意見交換を通して学校体制の実践づくりをしよう、そして個人の指導論を鍛えようという、教師の協同を実現してきているところも特徴である。

今回は4校ともに2016年度の試みを紹介していただいた。私は昨年度は東郷中学校へは6月と12月、溝口中学校へは6月と1月、南部中学校へは6月、名和中学校へは5月と11月に伺った。いずれの学校も全教職員が参加する研究授業の前の2~3時間、予め指導案を送っていただいた複数の通常授業の参観からそれらの研修会ははじまる。ターゲットとなる研究授業以外の授業でも、協同学習をそれぞれの実践者が捉え返した授業を参観できるのである。研究授業だけでは見えない課題や成果を見ることができる。

研究授業参観後の協議会は、形式に流れることのない、教職員全員参加が可能なスタイルをどの学校もとっている。研究主任が核となり、協議の視点があらかじめ示されており、視点を共有した議論が進められてきている。小集団形態での協議が通常スタイルとなっている。協議の結果は研究主任らがしっかりとまとめ、次につながる資料を積み上げていく。

また、この地域の特徴かもしれないのだが、1校の研修会は回りの学校に案内が出され、常に複数の外部の学校からの参観者がいる。同じ学区の小学校からの参観も頻繁になされている。研究協議にも外部の参加者が参加し、たがいにとって良い刺激となっているのである。

本書にある4校との関わり以降にも、倉吉市立倉吉東中学校、北栄町立北条中学校、また東部の若桜学園など、さらには県立倉吉農業高校と、協同学習を基礎に置いた実践づくりへの挑戦を行っている学校の手伝いをさせていただいている。

名古屋から鳥取県への移動は正直言って楽ではない。昨年度は4校以外の研修会も合わせると、延べ16校、14回の名古屋―鳥取往復を重ねた。しかし、ここに来ると教育の明るい可能性に出会うことができるのである。教師一人ひとりの姿からも、自立した教師、自分の教育理論を追究する教師という力強さを感じることもできるのである。

本書の編集をする過程で、この内容ではなかなか4つの学校の素晴らしい実態を納得のいく形では伝えきれないという思いが付きまとった。実際できあがってもその感は強い。しか

し、ここでこれまでの日本の学校文化を明らかに打ち破ってきている実践校があるのだという跡は残したいと思っており、本書は理解の足がかりとしての役割はもち得たのではないかと思っている。

なお、本書の4校は、いずれも比較的小規模の学校である。全校生徒数は東郷中学校が120～130名、溝口中学校は80～90名、南部中学校、名和中学校は100～110名ほどであり、各学年はほぼ2学級の構成となっている。よりよい実践を作るための教師や学校の自立的な活動に対する許容的な教育文化がこの鳥取県中・西部にはあるような印象をもつが、一方で学校規模も要因の一つかもしれないと感じられる共通性がここにはある。

本書では、各学校の2016年度の研究主任、東郷中学校の美坂朗生先生、溝口中学校の隠樹恭衣先生、南部中学校の十河卓史先生、名和中学校の池信直佳先生に資料作成をお願いした。学年末のお忙しい時期にもかかわらず、依頼にお応えいただいたことに深く感謝いたします。また、このような実践づくりを可能にした学校経営を進められた東郷中学校の小椋勝美前校長先生(2016年度ご退職)、溝口中学校の遠田佳代子前校先生((2016年度ご退職)、南部中学校の伊藤静也校長先生、名和中学校の狩野実先生には、本報告の公開を許可いただいた事とあわせて、厚くお礼申し上げます。

編 者

# 1 湯梨浜町立東郷中学校

## 1 前書き

### (1) 本校の協同学習への取り組みの経過

本校は鳥取県の中部に位置し、東郷池の南側、梨畑が広がる山の斜面の麓にある。校区は古くから温泉地と梨の産地として栄えてきた。平成 28 年度は、学級数 8（特別支援学級 2）、生徒数 127 人、教職員数 26 人の小規模校である。

本校では、平成 21 年度から中京大学の杉江修治教授を招聘して「協同学習」に取り組み、今年で 8 年目を迎えている。生徒の学力と教師の授業力の向上、そして本校生徒の課題「主体的に関わり合う力」の育成を目指してのことである。

本校では、毎年年度初めの休業日に、移動してきた教職員を含めて最初の校内研究会をもち、研究主任を講師として自前の協同学習ミニワークショップも実施している。また、着任 1 年目の教師全員が日本協同教育学会主催の協同学習ワークショップに参加して協同学習の理論と手法を学び持ち帰り、協同学習を実践してきた。県外研修のほとんどを協同学習の研修に充ててきたと言っても過言ではない。またさらに、校内授業研究会には、事務主幹や図書支援員、学校栄養主任も加わり全員で授業改善に取り組んできた。まさしく学校全身体制で「協同学習」に取り組んできている。

(経年)	(研究主題)
1 年目 (H21)	協同学習とは・・・
2 年目 (H22)	授業実践の充実と改善
3 年目 (H23)	目指す生徒像の実現
4 年目 (H24)	協同学習の研究を深め、授業改善を図る。
5 年目 (H25)	関わり合い伝え合う生徒の育成
6 年目 (H26)	主体的に関わり合い、伝え合う生徒の育成
7 年目 (H27)	主体的に関わり合い、伝え合う生徒の育成
8 年目 (H28)	主体的に関わり合い、伝え合う生徒の育成

協同学習に取り組み 4 年が経過した平成 24 年には「仲間との関わりを意識した授業ができるようになった」「生徒たちがペアやグループの学習に抵抗がなくなってきた」「授業以外の場面でも主体的に活動する場面が増えた」「人に教えることによる達成感が持てるようになってきた」「分からないからと言って諦める生徒が少なくなってきた」「生徒にも協同学習の意味が浸透してきた」などの手応えを感じるようになってきていた。

ところが、平成 25 年度 6 月の校内授業研究会に来られた杉江教授から「東郷中は授業改善の変化が遅い。かなり緩やか。そして、子どもへの期待度が低い」の言葉をいただいたのである。教師は、生徒の力はまだまだこんなものではないと「高い期待」をし、明確な課題を示し、学ぶための仕掛けを施し、チャレンジする。生徒はいきいきとした表情で高いレベルの学ぶ楽しさを実現する。東郷中の授業はそんな授業には程遠いということであった。

過去 4 年間の協同学習の取り組みは何だったのかと自問自答を繰り返し、指摘していただいたことを課題として、新たにスタートを切るべく改善への模索が始まった。

### 1) 事前研の実施

平成 25 年度からは年 6 回の授業研究会を実施し、本務者全員の校内授業研究会を実施した。その際、授業研の前に、職員全員による指導案事前検討会（事前研）を必ず行うことにした。小学校では当たり前の事前研だが中学校ではほとんど実施されていない。教科担任制で教科の壁が原因と思われる。

そこで、次の方針で事前研を行うこととした。

- ①実施は 30 分
- ②全員参加が基本（都合が悪ければ無理しない）
- ③勤務時間内実施
- ④指導案は途中でよい（迷い、困りは大歓迎！）

全ての授業で事前研を実施したことで、回数を重ねるごとに担当教科に関係なく教科の壁を越えて授業について語り合えるようになった。様々な教科の担当者が集まることで、思いもよらない切り口の意見や授業アイディアが出されることが多く、授業者には大変好評であった。また、全員が熱心に議論するあまり時間がオーバーすることがほとんどであった。そして、そこで出た様々な意見は授業者が持ち帰り再度自分で授業構想を練り上げることになるのである。

その結果、公開授業は、皆で議論したことを授業者が最終的にどう料理したのかを発表する場になり、参観者は予め指導案を読み、自分の意見がどう授業に反映されたのかを楽しみに授業に集まるようになった。そして事前研の結果は生徒の姿で判断されることになるのである。

もちろん、事後の研究協議が大変活性化するようになったのは言うまでもない。

### 2) 授業研究会の視点を固定し、外の風を取り入れる

研究の方向がぶれないよう、授業研究会のねらいと授業参観の視点を以下のように固定してスタートした。

#### 【授業研究会のねらい】

- 協同学習について共通理解し、めざす授業像をイメージする。
- 関わり合いながら自分の思考を「伝える」学習について全職員で考える。

#### 【授業参観の視点】

- 「伝える活動」は適切であったか？
- 本時のねらいは達成されたか？

複数回の授業研究会に、中部教育局や県教育センターの協同学習に詳しい指導主事や杉江教授を招き、全国や県内の実践、最新の教育情報などの刺激を受けながら指導助言していただいた。

### 3) 協同学習ワークショップへの参加

毎年、異動で転入した教職員は、日本協同教育学会主催の「協同学習ベーシック研修」に参加し、基本的な理論と手法を学び、協同学習の手法を取り入れた授業を 1 年目から展開することができるようにした。

ここまでの取り組みを通して、講師の指導助言に啓発されながら、全員の共通理解のもと協同学習を実践する機運は醸成された。しかし、協同学習の手法を取り入れて本時目標を達成させるべく研究会は盛り上がるものの、研究会の度に同じことの繰り返りで前に進まない状況も



感じていた。先生方のやる気はあるのにも関わらずである。

さらに、11月には杉江教授から、「教師は協同学習を実践しているが、挑戦や踏み込みが少ない。だから授業改善が進まない！」と再指摘された。

#### 4) 先進校視察

行き詰まりを感じていたところに転機が訪れた。協同学習の先進校である愛知県「犬山市立犬山中学校」への視察研修である。今後研究の核になるであろう4名（2学年主任、生徒指導主事、研究主任、視聴覚主任）が訪問した。

結果は「目からウロコ」であったと報告された。犬山中で得たものは次のとおりである。

- ・教師集団に切磋琢磨しようとする勢いがある。
- ・学校としてのめざす教育や生徒に育てたい力を全校（生徒も教師も）で共通理解し、実践されている。
- ・学年ごとにめざす授業の姿が教室の黒板上に掲示しており、生徒にも共有されている。
- ・「協同学習」は実践されているが、協同学習の言葉はほとんど出てこない。
- ・協同学習を目標にするのではなく、めざす教育に迫るために協同的な考え方を取り入れている。

本校では今まで、授業の先にあるものに意識が及ばず、協同学習の技法の習得といった表面的なものばかりにとらわれていたことにはっきり気付かされた。授業の先にある、「育てたい生徒像」「めざす授業の姿」を実現するために協同学習を取り入れるのだということを再確認した。

また、「めざす授業の姿」は、教師が心に秘めるものでなく、生徒とも共有し、共にめざすものであることも再確認した。

本校で今後取り組むべきは次の2点に集約された。

1. 協同学習にとらわれず「めざす授業の姿」に向かい、本校教師自らの力で共通実践し、スパイラルアップしていく。  
（※協同学習が有効なら取り入れる）  
（※指導助言は取り組みへの評価と位置づける）
2. 生徒と「めざす授業の姿」を共有し、生徒も実践に巻き込むよう仕組む。

#### 5) 目指す授業の姿の設定

【めざす授業の姿】（※全教室掲示）

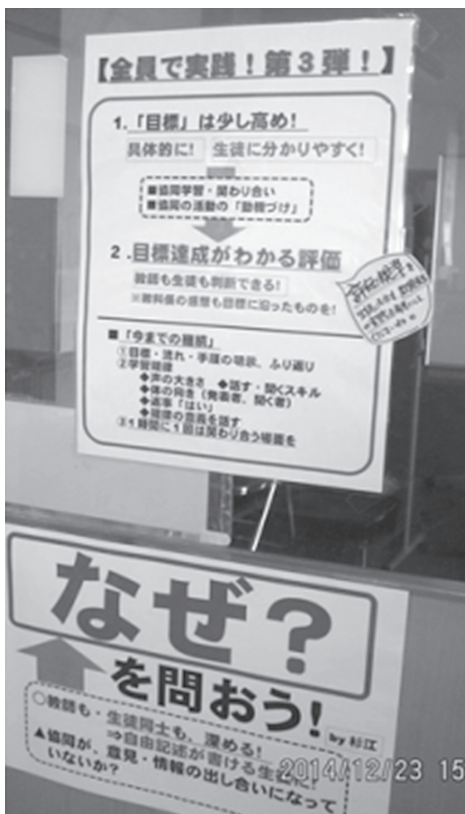
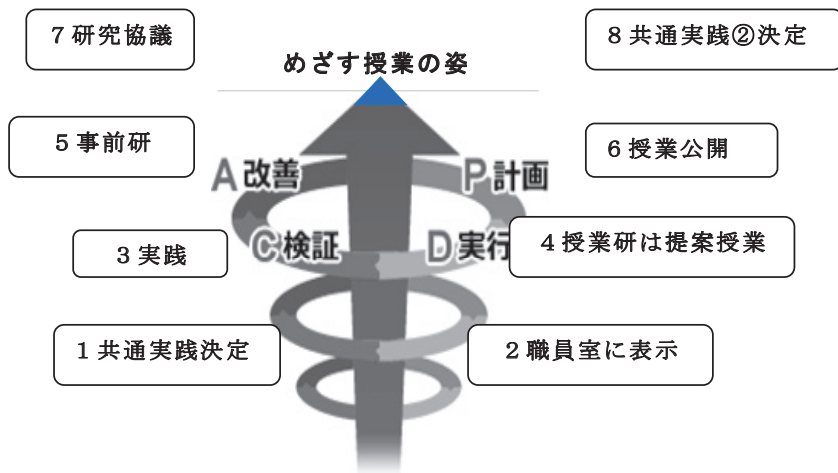
仲間の意見に耳を傾け、仲間の意見に+α！ 自分の意見に+α！ つなげよう、深めよう、みんなの思考！

これを全校集会で生徒に紹介し、意義を説明したり、授業で暗唱したり、1年生の宿泊学習でめざす授業をシュミレーションしたりして、教師も生徒も共にめざすことを意識づけた。

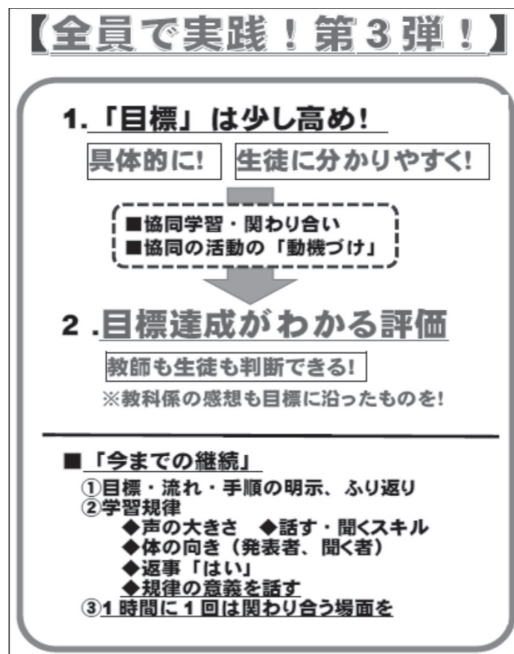
#### 6) 共通実践のスパイラルアップ

指導助言を受けた事柄の遂行でなく、本校教師自らが共通実践を決定し実践に取り組んだ。そのためのサイクルモデルも設定し共有化した（次頁図）。

1. 共通実践の決定→2. 職員室出口に掲示→3. 実践→4. 授業研（年6回：共通実践に対する提案授業）→5. 全員事前研→6. 授業公開→7. 研究協議→8. 新たな共通実践の決定



職員室出口に掲示



共通実践の内容例

## 7) 授業改善週間

授業改善に生徒を巻き込むため、授業改善週間を年2回、学校公開の週に仕組み、生徒会や委員会、学級委員とコラボし、全校で授業改善に取り組んだ。

### 授業改善週間【6/9(月)～13(金)】 各学級の取り組み

東郷中学校 「目指す授業の姿」

**仲間の意見に耳を傾け、仲間の意見に+α！ 自分の意見に+α！  
つなげよう、深めよう、みんなの思考**

#### ■『短期目標』と『評価基準』

**1 A | 1人はみんなのために みんなははひとりのために 21人が授業の主役**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①みんなに聞こえる声で発表する。 ②みんなが発言した人に対してよい反応をする。

**1 B | 人が話すときは「シッ」となって、目と耳と心で見守り、反応する**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①リアクションを返す。 ②3秒以内に「シッ」となる。

**2 A | 暑さに負けず、あたってくださいろ、めざせ ALL◎**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①授業の評価で◎が4つ以上でOK。 ②3分前着席ができたならOK  
③全員挙手できたらOK

**2 B | One for all, All for one  
教え合いでは No.1 !!～まちがえても、ええじゃないか～**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①班の中で一人でも教え合いができたならOK! ②班で二人は発表する。

**3 A | 届けよう自分の意見 授業中では私語は STOP**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①挙手・発言 1クラスの半分以上。 ②私語がなく静かに授業を受けている。

**3 B | 挙手ぶしゃ～ 反応ぶしゃ～ 忘れ物なっし～**

◆評価基準（こんな姿が見られたら達成!）

①1人、1日5回挙手。  
②忘れ物、1週間で3回以内（授業準備、宿題忘れの数を日誌に記入）。  
③発表後に全体の8割以上の人々が反応する（「わかりました」「同じです」など・・・）

## 8) さらに外の風（学び）を取り入れ、プチ実践発表

日本協同教育学会主催の協同学習ベーシック研修だけでなく、さらに上のレベルのアドバンス研修にも参加し、協同学習の新しい視点を持ち帰り職員会で報告した。その後、それも踏まえて実践し、有効だった取り組みを共通実践に加えた。さらに短時間のプチ実践発表を実施し、全員で共有した。

(例) 評価基準を予め生徒に示してから授業を展開

→評価まで生徒に見通しを持たせる

→生徒自身が高いレベルを目指そうとする

## 9) 行事を通して授業を改善することへの共通理解

《特別活動部とのコラボ》（夏休みの職員会）

行事（9月：運動会、11月：文化祭）が終わった11月から、学習意欲に差がつく分かれ目である。そこで、行事を通してあらゆることを生徒が自分たちの手でできる集団にして11月を迎えることが大切である。11月からの授業が活性化し意欲的に取り組める学級になっていたら行事は大成功で、「行事は練習試合、本番の試合が授業！」を合言葉に、授業の充実を目指して行事で生徒と学級を育てることを確認した。授業の基盤は学級経営であることの再確認であった。

杉江教授の指摘をきっかけに、そこから3年にわたり授業改善に取り組み、一定の成果があがってきている。その一番の理由はまさに「協同学習からの脱却」にあった。生徒の力を伸ばし、教師の授業力を向上させるためには、協同学習を実施することだけでなく、めざす授業の姿を実現することにあるという原点に気づいたからであろう。2番目の理由は、実践は誰かに与えられるものでなく、教師集団自らが『自分で、気づき！考え！決め！実践！』できたことにある。だからこそ共通実践は常に更新され、外部講師に指導・評価をうけスパイラルアップできたのだと思う。3番目の理由は、生徒も授業改善に巻き込んだことであろう。めざす授業の姿を示し、生徒会と力を合わせ授業改善できるよう仕組んだことで、教師だけで頑張るより格段の成果が上がったように思う。それがさらに教師のやる気に火をつけることにつながった。

## (2) 本校の実態

学ぶ力・生きる力

### 1) 学校経営方針から

#### ■めざす生徒像

- ・お互いの気持ちを大切に、思いやりの心を持った生徒
  - ・目標をもって主体的に取り組む生徒
  - ・困難に立ち向かい、たくましく生き抜く力を持った生徒
- 「協同学習の理念を活かし、学ぶ意欲を育てる」 →

- ◆自分の力と他の力（仲間、教師など）を合わせながら、新しい力を創造する。
- ◆持っている力（思考力、判断力、表現力）を活用できるようにする。

## 2) 生徒の実態

○生徒同士が関わり合い、意欲的に学習する姿が多く見られる。班、ペアで良い関わりができる。

△全体の場で、伝える意欲や聞く意欲、鍛え合い高め合う意識が不足。

△学力の二極化。

→全体で、関わり合い高め合うことに課題。

### 〈教師の実態〉

○協同学習を取り入れる意欲あり。班、ペア活動の充実。

○全校、全教育活動を挙げてめざす授業像に向けて取り組む雰囲気が出てきた。

△様々な取り組みの評価・振り返りが不十分。

△強い個を育てるという意識と手立て、教科としてつきたい力の再認識。

→全体で練り合い高め合う活動、意識の継続の不足。

## (3) 2016年度の研究計画

### 【研究主題】

確かな学力の定着を目指して、主体的に関わり合い、伝え合う生徒の育成

【副題】「みんなの力で、みんなが分かるようになる」授業の工夫

### 【めざす授業の姿】

仲間の意見に耳を傾け、仲間の意見に+α！ 自分の意見に+α！

つなげよう、深めよう、みんなの思考！

## 1) 研究のねらい

《生徒》

○学力向上

○めざす授業を意識し、主体的に関わり合い伝え合う学習活動を通して、学ぶ力を育成する。

《教師》

○授業力の向上

・めざす授業を実現するため、みんなの力でみんなが分かるようになる授業を展開する力の向上。

○単元を通した授業づくり

・単元全体を1つの単位としてねらいを達成する評価計画を位置づけた授業を設計する力の向上。

○7年間の積み上げの実践の継続と徹底

・学習課題・流れ・手順の明示、振り返り

・学習規律

・1時間に1回は関わり合いの場面

## 2) 研究の内容

### ①授業作りのポイント 17 (めざす授業の姿に近づくための指標—犬山中学校から)

		評価			
		GOOD←	→要改善		
子ども主体の授業づくり	①生徒は主体的に学び、参加度は100%であったか	4	3	2	1
	②生徒の主体性を引き出す工夫がされていたか	4	3	2	1
	③明確な目標があり、生徒は授業の導入で学習の手順を理解して授業に取り組めたか (※単元の導入では単元の道筋を理解できたか)	4	3	2	1
	④計画的な時間配分とピタリ終了の授業であったか	4	3	2	1
学習規律の確立	⑤望ましい学びを支える基本的な学習規律があるか	4	3	2	1
	⑥学び合いのための学習ルールが確立されているか (話型、グループ活動の手順、伝え合い・話し合い活動の手順等)	4	3	2	1
課題提示と追求の方法	⑦学びたくなる・追求したくなる課題であったか (課題提示の工夫、課題づくりの工夫、課題の選択)	4	3	2	1
	⑧追求し続けることができるようにするための手立てが施されていたか	4	3	2	1
	⑨板書はわかりやすい量と文字の大きさにレイアウトされていたか	4	3	2	1
	⑩ノートやワークシートへの適切な筆記指導がされていたか	4	3	2	1
表現活動 (言語活動) 話し合い (交流)	⑪全員の思考が活性化し、進んで表現しようとしたり、話し合ったりすることができる手立てが施されていたか	4	3	2	1
	⑫個の責任を明確にした、表現活動の工夫、話し合い活動の工夫、伝え合い活動の工夫があったか	4	3	2	1
	⑬教師は、豊かな表情・適切な声量で分かりやすい言葉づかいをしていたか	4	3	2	1
仲間で支え合う授業づくり	⑭「どの生徒も仲間と共に高め合うことができる」ための手立てが集団や個に施されていたか	4	3	2	1
	⑮「どの生徒も仲間に支えられて成長できる」ための手立てが、個へ施されていたか	4	3	2	1
自己評価 (ふり返り)	⑯学力の定着をめざしたまとめ・ふり返りができたか	4	3	2	1
	⑰ふり返りカード (自己評価・相互評価) の活用や次時への活かし方は適切であったか	4	3	2	1

### ②チャレンジ単元 (単元を通した授業づくり)

単元全体を一つの単位として、関わり合い伝え合いを位置づけた授業設計と実践。

- ・ 1人1単元 (1題材) の実践  
思考・判断・表現の観点を主なねらいとした単元 (題材) を選定して実践。
- ・ 関わり合い伝え合う学習を位置づけた単元計画



- (STEP 1) 単元で付きたい力 (=指導のねらい) の明確化 「何を」
- (STEP 2) 付きたい力 (=指導のねらい) にふさわしい協同学習の位置づけ 「どのような」
- (STEP 3) 各教科の特性をふまえた協同学習のタイミングと評価観点の明確化 「いつ」「どう評価」
- (STEP 4) 思考を促し、伝えたい発問や指示の具体化 「どう思考・伝えさせるか。」

- ・「単元学習カード」(仮称) の作成
- (ねらい) 関わり合い伝え合う活動の位置づけ、評価計画の明確化。

**「単元学習カード」(例)**

単元(題材)名 ○○○○○○○○○○○○  
年 組 番 氏 名  
( )

単元全体のねらい				
	学習のねらい	学習日	ふりかえり (自己評価)	
			ねらい の達成	意欲
1	単元の全時間分		A・B・C・ D	A・B・C・ D
2	あらかじめ記		A・B・C・ D	A・B・C・ D
3			A・B・C・ D	A・B・C・ D
単元 の ま と め	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>★「新しい単元に入るときには、その単元の学習内容と学習のスケジュールを子どもに明示する。」 ※杉江修治著『協同学習入門』工夫9より</p> </div>			

- 活用例(案)**
- ①単元の最初の授業で、生徒に「単元学習カード」を提示(配布)する。
  - ②単元のねらいを生徒に示し、単元を通じた学習の見通しをもたせる。
  - ③(単元のねらいに向けた)「学習課題」(授業ごとの学習のねらい)を明確に示して授業を行っていく。
  - ④授業後、自己評価(ふりかえり)を記入させる。←「**評価規準の共有**」
- ※点検活動ではなく、生徒自身の学習成果についての自己評価であることを意識づけることが大切。
- ⑤単元の終わりには、単元を通じて学習した内容についてのまとめ(または自己評価等)を記述(表現)させ

③授業改善週間

- ・学校公開の週、一週間(6月、10月)
- ・生徒を巻き込んだ授業改善(生徒会、学習委員会、学級委員会)
- ・めざす授業の姿に向かって各クラスが取り組みを実施する  
(クラスでめざす授業の姿を考える) → (評価基準「このような姿が見られたら達成」を設定し、毎日ふり返り) → (取り組み全体の振り返り)

④生徒、保護者へ「協同学習」の目的、良さを広める

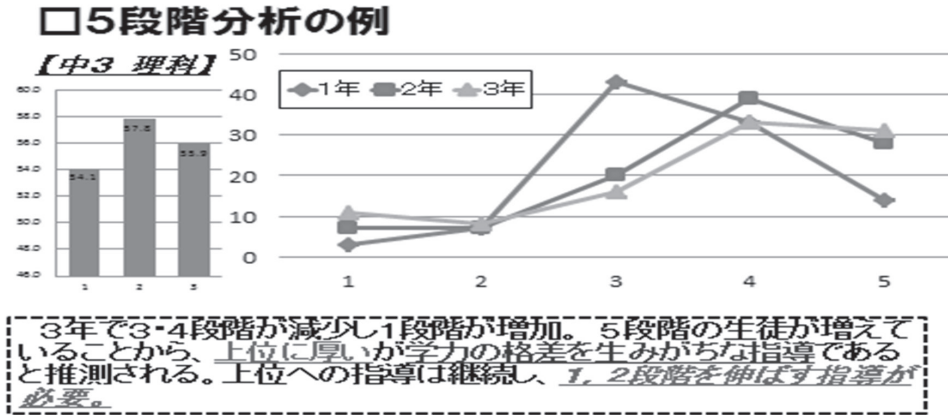
- ・「東郷中学校の学習」として全校にガイダンスをする。(1年:宿泊研修 2、3年:集会など)
- ・授業の中で(協同の場面で)、協同学習の良さを伝えていく。
- ・学校説明会、学級懇談会の中で「協同学習」を説明していく。

⑤5段階学力分析

- ・授業実践を数値で客観的に振り返り、授業改善に活かす。(5教科)

- ・総合的な学力向上の視点（分野・領域別でなく）
- ・5段階の度数分布の把握
  - 指導の重点とする学力層を意識した授業の展開（年間通して）
  - 自分が指導に力を入れがちな層を知る（自分の指導の傾向の把握）

< 1年間の成果と経年変化で評価し授業改善（NRT・CRT・全国学テ）>



< 日々の指導の自己評価（期末中間、休み明け、学年末テストなど）>

### 5段階度数分布

2年 3学期 冬休み明けテスト 国語 平成25年1月7日

入力してください

人数	素点入力	入力してください	点以下	人数	%
1	92		~ 100	12	11
2	90	4	76 ~ 89	47	43
3	77	3	60 ~ 75		
4	82	2	40 ~ 59		
5	80	1	0 ~ 39	3	109
6	91		満点	100	
7	58		想定した平均点	70	実際の平均点 73
8	63		4段階の上限界	89	設定点の妥当性 妥当
9	69		2段階の下限界	40	
10	76				
11	57				
12	49				
13	65				
14	86				
15	66				
16	83				
17	84				
18	83				
19	86				
20	40				
21	72				
22	85				
23	86				
24					
25	88				
26					
27	64				
28	90				
29	25				
30	64				
31	84				

入力してください

### 5段階度数分布

2年 3学期 冬休み明けテスト 国語 平成25年1月7日

入力してください

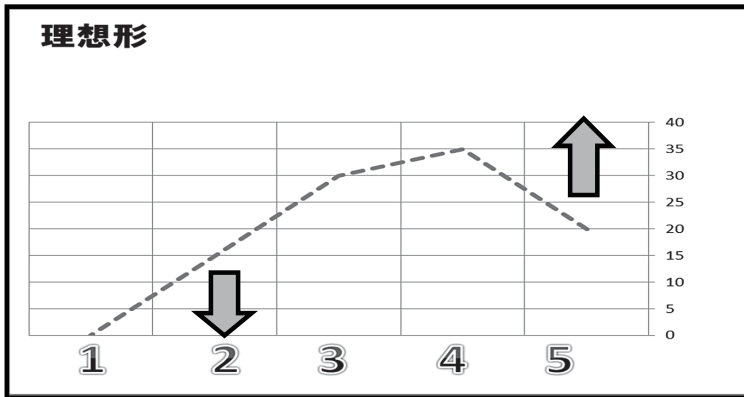
(現状考察)

- 40点台の生徒は、問題文をきちんと読み込めていない。
- 全体的に文章で答える問題において、問題の意図に的確に答えられない生徒が多い。

(対策)

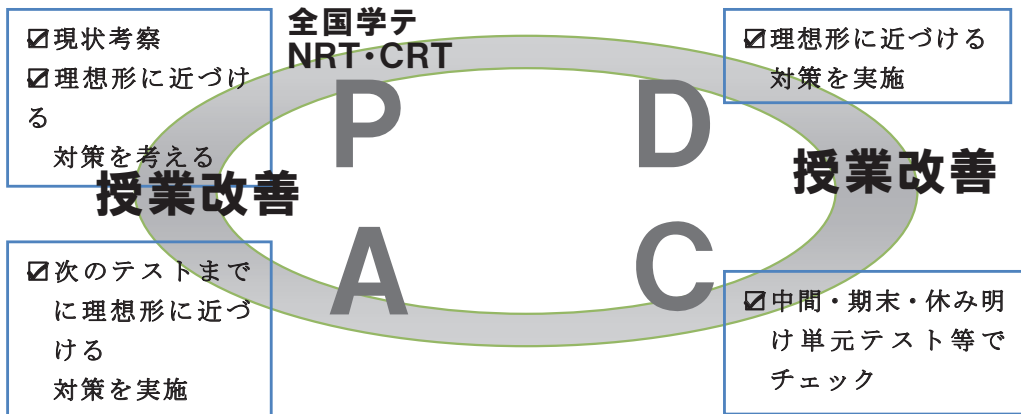
- 演習問題を授業に組み込んでいく。
- 根拠を明確にして文章を書く単元で、段階的に文章が書けるよう指導する。

<めざす度数分布の形>



5 … 20% } 55%  
 4 … 35% }  
 3 … 30% } 45%  
 2 … 15% }  
 1 … 0%

※達成した場合は矢印の方向にさらに伸ばす。



3) 年間計画

<H28 研究推進年間計画>						H28.4.6
月	校内授業研究会等	公開授業(教科)	授業研参加		県外研究会 先進校視察など	中教振等の 公開予定
			東郷小	西部の中学校		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■協同学習とは(職員研修)</li> <li>■参観日(協同学習)</li> <li>■1年セカンドスクールでの実践</li> </ul>					
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業研究会①(5/24)</li> </ul>	【2人】 (中本:英語) (美坂:国語)				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇杉江先生来校(6/16)</li> <li>■授業研究会②</li> <li>■授業改善週間(6/20~)</li> </ul>	【2人】 2限全員公開 (中村:人権) (梅原:理科)				
7						
8					27日~28日 学会WS(ベーシック) (名古屋:南山大) ※大谷, 新, 中山	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業研究会③(グループ研) (9/~)</li> </ul>	【5人】 (山下た:理科) (神谷:美術) (米田・佐々木:数学) (會見:英語)				
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■授業研究会④</li> <li>■授業改善週間(10/~)</li> </ul>	【2人】 (三津國:国語) (市川:家庭)				
11					12日~13日 学会WS(アドバンス) (名古屋:南山大) ※中村, 山下こ, 中前	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇杉江先生来校(12/8)</li> <li>■授業研究会⑤</li> </ul>	【2人】 2限全員公開 (大谷:音楽) (新:英語)				
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇指導主事要請(1/27)</li> <li>■授業研究会⑥</li> </ul>	【2人】 (山下こ:数学) (中前:社会)				
2					日~日 学会WS(ベーシック・アドバンス) (東京:創価大)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■1年間のまとめ</li> </ul>					

1人1実践 「チャレンジ単元」

※新しい情報が入り次第お知らせします。 ※指導案は単元計画を入れた略案。  
 ※予定が変更になる場合があります。 ※3年団のうちひとり是人権学習で研究授業。  
 ※授業研究会は、可能な限り事前研を実施する予定です。

4) 研究の評価指標

- ・ NRT・CRTのポイントが前年度より向上。
- ・ 生徒アンケート(7月、12月)の「協同学習は有意義だ」「勉強はよく分かる」の項目のポ

イントが前年度より向上。

## 5) 指導案について

- 単元構想や生徒の活動、授業者のおもいがわかる指導案に改善する。
  - ☑学習指導要領にあった内容。
  - ☑単元の指導計画、評価計画が示されているか。
  - ☑本時の一番見てほしいポイント（授業のウリ）が示されているか。
  - ☑協同学習の要素、技法は入っているか。
  - ☑目標、手順、生徒の活動がわかりやすく示されているか。
  - ☑目標にせまる、興味・関心を持たせる発問になっているか。
  - ☑評価は適切に行われているか。 など
- 略案でよい。（単元目標、単元計画、本時目標、本時の学習活動など）※形式は別紙
- 次のものを参考に指導案作成を。
  - ・学習指導要領
  - ・国立教育政策研究所の資料（HPなど）
  - ・鳥取県学校教育のめざすもの
  - ・神戸大付属住吉中学校の指導案
- 第一次締め切り 7日前まで 最終締め切り 指導助言あり 3日前（指導助言なし前日）
- 事前研の実施
  - ・講師・指導助言者を招聘する時には必ず実施（※第1次締め切りのあと）
  - ・授業ごとに全職員をグループ分けし、指導案について検討する。
  - ・授業についてディスカッション。最終決定は授業者に委ねる。
  - ・授業に至るまでの過程を理解したうえで課題意識を持って授業参観できるメリット。
  - ・研究協議で検証。

## 6) 校外研修について

- 外の風を取り入れ、授業改善を活性化する。
  - ・鳥取県内中学校の授業研究会
  - ・県外中学校の研究会
  - ・協同教育学会主催のワークショップ（ベーシック・アドバンス）

## 2 研究会の実際

### (1) 指導案と研究会記録

#### 1) 第2回校内研究会（6月）

- データ 指導案等 道徳①～⑥（資料1）
- データ 指導案等 理科セット（資料2）
- データ 校内研「振り返りシート」まとめ①②（資料3）
- データ 指導講評から（資料4）
- データ 共通実践第4—②弾（資料5）

以上 5 つの資料は後掲

## 2) 第 5 回校内研究会 (12 月)

- データ 指導案等 音楽①② (資料 6)
- データ 指導案等 英語①～③ (資料 7)
- データ 校内研「振り返りシート」から (資料 8)
- データ 指導講評から (資料 9)
- データ 共通実践第 5 弾 (資料 10)
- データ 学習課題一覧 (資料 11)

以上 6 つの資料は後掲

## 3 一年の成果と課題

### (1) 成果

- ・毎年、年度初めにリセットしていた「共通実践」を、昨年までの積み上げを基に第 4 弾からスタートできた。これは教職員が入れ替わろうと、本校の学習文化を積み上げていく意味を共有したことと、生徒に確実に共通実践が浸透していきつつあることへの手応えがあることによるものと理解している。
- ・一年間「学習課題の設定と評価の工夫」に全教職員で取り組んできたため、日常の関わりの中で教科や分掌の枠を越えて情報交換やアドバイスが行われるようになり、授業づくりへの意識の高まりが見られる。
- ・日ごろの授業の積み重ねが研究授業につながっている。
- ・教師の共通意識が生徒に伝わり、どの授業や場面でも個人思考、グループ活動、話し合い活動、交流、振り返り等がスムーズに行われる。
- ・定期テスト前の家庭学習時間の目標を明示し、主体的かつ習慣化するようにいろいろな手立てが練られ、その評価もなされている。
- ・どこのクラスも基本的には関わり合ってお互いに支援し合っていると当たり前になってきている。
- ・一人ひとりが集団での課題解決に貢献していく場面を意図的に仕組んでいくことにより、生徒の自己肯定感が高まってきている。
- ・授業の中で教科としての内容の習得やねらいの達成だけでなく、豊かな心や子ども同士の人間関係や学習集団の風土を同時に育てていくという意識が教師に根付いてきている。
- ・生徒アンケート (7 月、12 月) の「協同学習は有意義だ」「勉強はよく分かる」の項目の肯定的回答のポイントが向上している。(次頁の表)

### (2) 課題

- ・「生徒の学力観」を点検すること。
- ・生徒が育っていることにより授業ができてしまうことに甘えず、新たな課題に挑戦し



続けること。

- ・この授業で教科のどんな力をつけるのかを明確にすること。
- ・生徒に高い期待を持ち続けること。

生徒アンケート結果の推移

	協同学習は有意義だ							
	H25 7月	H25 12月	H26 7月	H26 12月	H27 7月	H27 12月	H28 7月	H28 12月
全体	83.3%	86.9%	88.1%	88.0%	96.0%	97.6%	98.4%	99.2%

	勉強はよくわかる							
	H25 7月	H25 12月	H26 7月	H26 12月	H27 7月	H27 12月	H28 7月	H28 12月
全体	70.2%	68.2%	75.7%	76.1%	87.1%	87.8%	87.0%	87.3%

## <資料 1> 第 2 回校内研修会研究授業 道徳指導案

### 第 3 学年 A 組 道徳指導案

日 時：平成 28 年 6 月 16 日（木）4 限

場 所：3 年 A 組教室

指導者：中村 祐次朗

1 主題名「4 つのバリア（東郷中オールフリー計画）」【内容項目 4-（2）よりよい社会の実現】

#### 2 主題設定の理由

バリアフリーとは、障がいのある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で、もともとは建築用語として使用されていた。現在では、障がいのある人だけでなく、全ての人の社会参加を困難にしている「物理的」「社会的（文化・情報）」「制度的」「心理的（意識）」な全ての障壁の除去という意味で用いられている。（内閣府：『障害者白書』より）

本校の生徒たちはバリアフリーという言葉を知っていたり知っていたりするものの、そのバリアの意味するものとは「物質的なバリア」であると認識している。来年度の新入生に車椅子で生活する生徒が入学するということもあり、今回授業の中で“東郷中オールフリー計画”と題し、東郷中学校の「物質的なバリアフリー」を考えるとともに、その他のバリアである「制度的バリア」「文化・情報のバリア」「意識のバリア」について理解を深めたい。特に 4 つ目の「意識のバリア」については、人間の感情が作り出しているものであるため、完全に除去することが難しい問題であると考えられる。そこで、今回は班での「関わり合い・伝え合う」活動を通して、「意識のバリアフリー」についての考えを伝え合い、深め合い、意識のバリアフリーのためにどのような生き方が大切であるかという意見を持つことができるようにしたい

ハード面の整備がいくら進んだとしても、ソフト面である人の意識が変わらなければ、「意識のバリア」は解決しない。この授業を機に、バリアフリーやユニバーサルデザインについて考えたり、実践しようとする気持ちを持つことができるようにしたい。また、それが「意識のバリアフリー」のための第一歩であり、バリアフリーやユニバーサルデザインが当たり前になっていくような社会を担っていく生徒の育成をめざしたい。

#### 3 本時のねらい

意識のバリアについての考えを深め、意識のバリアフリーのためにどのような生き方が大切であるか、個人の意見を持つことができる。

#### 4 「関わり合い、伝え合う」ポイント

- ①前日の学活で考えた「東郷中のバリアを見つけろ」について班の話し合いを行う場面。
- ②「文化・情報のバリア」と「制度的バリア」について 2 人で読み込み作業をする場面。
- ③「意識のバリアフリー」について個人の意見を 3 人に伝え合う場面。

5 準備物 ワークシート、読み物資料「意識のバリア」、拡大校舎見取り図、ホワイトボード、ストップウォッチ 5 つ、「制度的バリア」「文化・情報のバリア」に関する資料

6 参考資料

- ・内閣府「障害者白書」(<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html>)
- ・平松道夫 福祉のまちづくりと意識のバリアフリー—地域コミュニケーションの展開にむけて— 富山福祉短期大学紀要 福祉研究論集 1999.  
(<http://www.t-fukushi.urayama.ac.jp/visitor/kiyou/pdf/kiyou-00-01-6.pdf>)
- ・介護とバリアフリー (<http://www.eastportchowderhouse.com/>)

7 本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	○指導上の留意点・評価 □協同学習の基本的構成要素を活用した指導
6 5 4 7	1 東郷中オールフリー計画の立案(班5分) 【班で話し合うポイント】 ※これはどの班も思いつかないだろうポイントベスト3	○役割分担を決め、班で意見を出し合い、理由を添えて発表できる準備をする。 【役割分担】 ・進行 ・タイムキーパー ・書記 ・最後のまとめ	○前日の学活「東郷中のバリアを見つけろ」で、班ごとにバリアを見つけておくようにする。 □役割分担をし、意見をまとめる中で、誰でもが発表できる準備をしておくよう伝える。(③) ○発見したバリアについての現状と改善策も発表できるよう伝える。
	2 班の意見を発表	○タイムキーパーはストップウォッチを、書記はホワイトボードを取りに出る。 ○指名された生徒は班の意見を理由とともに発表する。	○出てきた意見を拡大した校舎見取り図に示すようにする。
	3 本時のねらい流れの確認	○本時のねらいは板書を、流れは W.B. を見て確認することで活動の意義を知る。	○ねらいは事前に係の生徒に板書しておくように指示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     自分で考えたり、人の意見を聞いたりして「意識のバリアフリー」のためにどのような生き方が大切か、個人の意見を持とう。                 </div>			
5 18	4 「文化・情報のバリア」と「制度的バリア」についてペアで役割分担し読み込み作業をする 【 <u>思い出し係</u> …読んだ文章を要約し相手に伝える ・ <u>チェック係</u> …相手の要約に対し、チェックする	○思い出し係とチェック係に役割分担をし、2人で文章を読み込む。 ○指定されたところまでA音読、B黙読する。Bはそこまでを要約し、Aに伝える。AはBの要約に対し、チェックを入れる。 ○役割を交代し読み込む。	○バリアは4種類あり、オールフリー計画は「物理的バリア」であることを伝える。 ○次の資料の内容をよりよく理解するためにこの2つのバリアについても理解しておくことが必要であることを伝える。 □音読する方は、相手に伝わりやすく、内容を理解しやすいよう読むように伝える。(②④) ○チェック係は資料を見て間違いは訂正するよう伝える。
	5 資料「意識のバリア」を読む。	○資料の音読を聞く。	○次の活動では、「意識のバリア」について考えを深めて

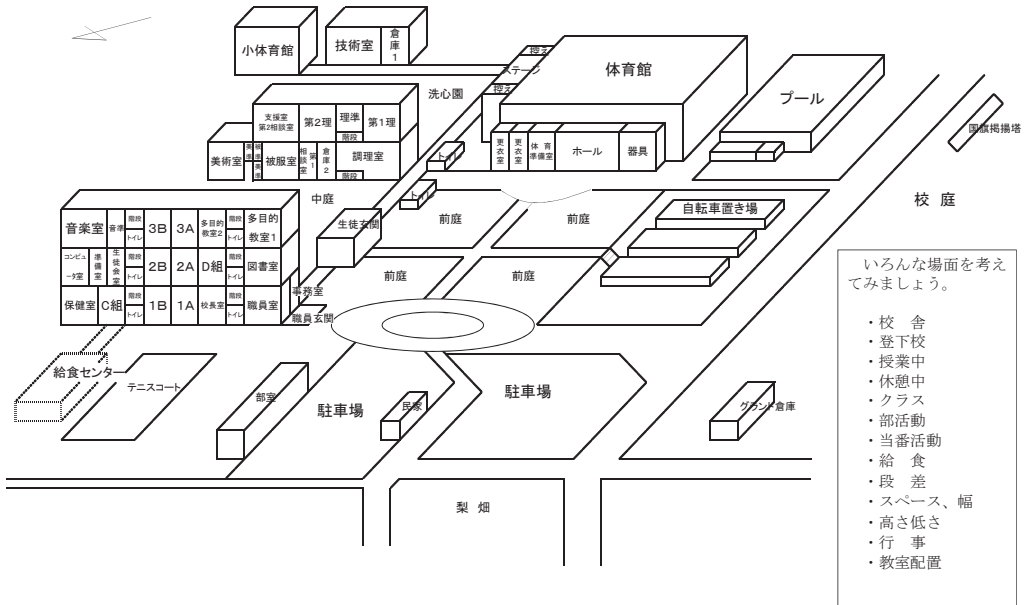
5	<p>6 意識のバリアについて          考えの深め合い          ①個人【5分】          ②全体【8分】          ※3人と意見交換する          ③指名された人Aの発表【3分】          ※指名する人Bは、意見交換をした人の中で、よいと思った意見だった人を指名し、指名された人Aは意見を発表する。</p> <p>7 振り返り          (ワークシート記入)</p>	<p>○「意識のバリアフリー」のためにどのような生き方が大切なのかワークシートにまとめる。</p> <p>○ワークシートにキーワードをメモしながら3人と意見の交換を行う。</p> <p>○「意識のバリアフリー」のためにどのような生き方が大切であるか、人の意見も参考にしながらワークシートの振り返りに記入する。</p>	<p>いくことを伝えておく。</p> <p>□意見交換の際、個人の意見を深めるために人の意見から出たキーワードをメモすることを伝える。(①)</p> <p>□誰が指名されても指名する人を決められるように、人と意見交換するよう伝える。(③)</p> <p>○指名する人Bは、なぜその人Aの意見がよかったかも発言するよう伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価】(ワークシート)          自分で考えたことや人の意見を参考にして、「意識のバリアフリー」のためにどのような生き方が大切であるか、個人の意見を持つことができる。</p> </div>
---	---	--	--

\* 「評価欄」の①～⑤の数字は協同学習の基本的構成要素を指す。

- ①相互協力関係、②対面的・積極的相互作用、③個人の責任、④小集団での対人技能、⑤グループの改善手続き

前日配布の課題

## 『東郷中のバリアを見つけろ!!』



## 「意識のバリア」

内閣府の『障害者白書 平成七年版』では、バリアフリーというのは、「頑張ってみなで達成しましょう」という目標ではなく、当たり前のように身に付けるべきものであると述べている。さらに、バリアには四つの種類があり、「物理的バリア」「制度的バリア」「文化・情報のバリア」「意識のバリア」を取り上げている。

「物理的バリア」や「制度的バリア」については少しずつ改善されてきているようであるが、「文化・情報のバリア」と「意識のバリア」は大変難しい問題である。「文化・情報のバリア」については、一九九五年に発生した阪神淡路大震災の際に、視覚障がい者や聴覚障がい者が今のような状況なのかを知る手段がなく、また自分の意思を誰かに伝える手段もなく、大変な不安に陥ったという報告がなされていることから課題が多い。

さらに四番目の「意識のバリア」は大変難しい問題である。障がい者問題などは人権問題としてしばしば学校教育でも取り上げられているが、それが定着するまでにはかなりの時間がかかりそうである。例えば、狭い歩道や点字ブロックの上を我がもの顔に占拠する自転車や駐車場の車、店の看板、自動販売機、粗大ゴミの違法放置。いわゆる「健常者」でも邪魔で迷惑だと思っただが、障がい者や高齢者はなおさらだろう。

歩道の真ん中にデンと居座って通せんぼしている電柱。点字案内版をはじめとするハンディを持つ人のために設けられた色々な設備に対するイタズラ。バリアフリーになっていない施設で、車椅子に乗った人を面倒くさそうに扱う係員や、邪魔者扱いする周囲の目。シルバースーツを我がもの顔に占領する若者たち。いずれも社会的モラルの欠如によるバリアといえる。

大阪・京都・神戸を結ぶ阪急電鉄では、平成十一年四月一日から全席を「優先座席」にすることにしたそうである。阪神淡路大震災のおりに、被災して疲れた表情の人たちに対して自然と席を譲った光景が多く見られたことから、社内で議論をした結果、「人の心はまだまだ捨てたものではない」と実施に踏み切ったということである。意識のバリアフリーを目指す一つの大きな試みである。

バリアフリーの工業デザインを手がけている光野有次さんが、スウェーデンにバリアフリーの見学に行ったときの話である。バスには車椅子も乳母車もそのまま乗れるようになっていた。床の低いバスがあまり普及していなかった頃の話だが、あるバス停で大きな乳母車や車椅子に乗った人がバス停で待っていた。乳母車といってもスウェーデンの乳母車は日本の折り畳み式小型バギーと違っかなり大きなものだそうだった。そこへバスがやってきて中央にある大きなドアが開いた時のこと、側にいる人がサッと手伝って乳母車や車椅子をバスの中に持ち上げてくれるのだ。それは日本で見かける、「電車などで高齢者に席を譲る」とかいうレベルを超えて、条件反射とも思えるくらいだと書いていた。

バリアフリーやユニバーサルデザインの浸透が、そうした意識の変化を少しずつ促していることもまた事実である。人はみな歳をとり、広い意味でのハンディを持つようになるわけだから、自然とハンディキャップのある人に対する考え方も変わっていくものと思う。右にならえて、似たりよつたりの条例が各自治体によって制定されているが、例えそうであっても、バリアフリーやユニバーサルデザインについて考えることが「意識のバリア」を取り除く第一歩であり、そう考えることが当たり前になっていくことで、人々の意識が変革されていくであろうことを期待したい。

富山福祉短期大学紀要 福祉研究論集

『福祉のまちづくりと意識のバリアフリー』

「地域コミュニケーションの展開にむけて」

平松 道夫 より抜粋

## 文化・情報のバリアとは

B 音読・チェック係、A 思い出し係

いろいろな情報を得るために点字や手話サービスなどの方法が必要なのに受けられないという『文化・情報のバリア』が存在します。このバリアは主に目や耳の不自由な方が対象となります。

主に、趣味や習い事をするチャンスが少ないことや必要な情報が平等に得られないこと、また集会やイベントへの参加のチャンスが得にくいことなどがあげられます。

A 音読・チェック係、B 思い出し係

この文化・情報のバリアがあることで、集会やイベントに参加したい、自立したいという意欲はあるのに、点字や手話サービスはそこにあるだろうかという不安があり、各活動に気懸に参加できないということも考えられます。

そういうことがあると、誰もが何の不自由もなく参加できるものとは言えないですし、またそういうバリアを解こうという考えが薄いために障がいのある方は置き去りになるのです。

一例として、

- ・カルチャーセンターの講座に手話通訳がない
- ・列車事故の車内放送が耳の不自由な方に届かない
- ・字幕や通訳のないテレビ放送

などが挙げられます。

## 制度的バリアとは

A 音読・チェック係、B 思い出し係

取れる資格の制限、大学などの入学試験、就職試験などには『制度的バリア』があります。たとえば『入学試験を点字で受けられない』、『障がいがある、ないで就職や資格、任用試験が制限されること』を指します。障がいのある人は試験が受けられないとか、就職に不利なことがあるのです。障がいのない人と比べると多くの制限があります。

B 音読・チェック係、A 思い出し係

他にも、『盲導犬などを連れていくと利用できないレストランやホテルがある』ということがあります。では、なぜこれがないのでしょうか。その理由は、盲導犬などが必要な人にとって、自由にいろんなことを選ぶ権利をなくしてしまっているからです。制度的バリアにより、選べる幅が狭くなってしまったり、不利な条件となってしまったりするということです。

そこで盲導犬などに関してはある法律が作られました。『身体障害者補助犬法』と呼ばれるもので、盲導犬などと一緒に電車や飲食店に入ることを選ばないというものです。



平成 28 年 6 月 16 日 (木) 道徳

氏名 \_\_\_\_\_



# 「4つのバリア」

～東郷中オールフリー計画～



## 1. 個人の意見

## 2. 意見交換で気になったキーワードをメモしよう → 自分の意見に+α


## 3. 振り返り

---

---

---

---

---

---

---

---

## 生命を維持するはたらき（第 1 時）－学習の手引き－

2 年	組	番	氏名
-----	---	---	----

### 本時の学習課題

小学校時代に学習した知識を基に、友達からの情報を仕入れながら、授業最後にはできるだけ本物に似ている人体図を作成できるようにしよう。

#### 【本時の授業評価】

- かなり本物に似ている人体図ができた（自己評価、隣人の評価とも○）・・・A  
ある程度本物に似ている人体図ができた（自己評価、隣人の評価どちらか○）・・・B  
一生懸命頑張ったが、本物に似ている人体図はできなかった（両評価とも×）・・・C

### 学習の流れ

1. 学習の手引きを読み、本時の学習の流れとその方法について知ろう。（5分）
2. これまでの知識を基に、顔の下の人体図（No.1）を描こう。（個人 5分）
  - ①名前が浮かぶ器官（内臓のこと）を図の外（紙の端）に書き上げる。
  - ②その器官の形を想像、または思い出してみる。
  - ③形が思い出せた器官は、その器官があると思われる位置にその絵を描いてみる。
    - ・間違ってもかまわないので、思い切って描いてみよう。
    - ・食物の通り道、複数の器官のつながりなども考えて描くようにするといい。
3. 他の班の人と情報交換しよう。（ペア 5分）
  - ①この後班で1つの人体図（用紙大）を作るので、情報交換は他の班の人と（1対1）でできるだけたくさん行うこと。ただ、絵を見せ合うだけではなく、必ず説明し合って情報交換すること。
  - ②知っている器官の名前、形、位置、食物の通り道、他の器官とのつながりなどについて情報交換する。（ただし、その情報がどれくらい自信のある情報なのかも聞いておいた方がいい。）
4. 班でできるだけ本物に似ている人体図を作成してみよう。（班 10分）
  - ①まずは仕事分担の確認をする。分担は普段班を組んだときの位置関係で行う。ただし今日の話し合いは、椅子を持ってホワイトボードの周りに集まって行う。

絵が最も上手い人…作図係	作図係の右側の人…司会係
司会係の右側の人…発表係	発表係の右側の人…計時係

（5人班の残り1名と4人班の班長は準備・片付け係を行う）
  - ②個人で作った人体図と他班の人から得た情報を出し合い、班でできるだけ本物に似ている人体図（ホワイトボードに貼った紙にマジックで描く）を作成する。
  - ③司会係は最初、作図係、司会係本人、発表係、計時係、準備・片付け係（5人班のみ）の順に意見を発表してもらい、その後は臨機応変に進行する。
  - ④作図係は必ず各器官に名称を入れ、複数の器官がどのようにつながっているのかを明に確描くこと。

**5. 他の班が作成した人体図から学ぼう。(クラス 1分)**

①発表者1名が自分の班に残り、他班の仲間に説明をする。発表者以外の方は、分担して他の班の発表を聞きに行く。4人班は説明を聞けない班が1つできるが、その分担は自由に決定していい。

②発表者は食物の通り道、複数の器官のつながりを中心に1分で人体図の説明をすること。

**6. 他班から収集した情報を班で共有し合おう。(班 4分)**

・情報を収集してきた人が順番に発表をし、班としての最終的な人体図を完成させる。

**7. 個人で人体図を作成してみよう(個人 7分)**

・新たに配る個人用の紙(No.2)に、何も見ずに鉛筆で描く。ここで作成した人体図を今日は評価する。各器官の名称も入れるようにすること。

**8. 本物の人体図(絵)との比較と振り返り(個人 3分)**

・本物の人体図に似たものがつくれたかどうかを評価する。自分と隣の人がそれぞれ○か×で評価し合い、それをもとに本時の振り返りを記入する。

生命を維持するはたらき(第2時)ー学習の手引きー

2年	組	番	氏名
----	---	---	----

**本時の学習課題**

自分たちが作成した人体図を利用し、体のどこに何という器官があるのかを正確に説明できるようにしよう。

(今後の活動にどう役立つのか)

作成した人体図に、日常生活に役立つ知識・情報をコメントとして書き込み、究極の人体図を作成するのが本単元の目標である。本時は少しでも本物に近い人体図を作成できるように頑張りましょう。

**【本時の授業評価】**

本物に近い人体図ができた・・・・・・・・・・A

人体図はかなり違っていたが、班内で意見は言えた・・B

一生懸命頑張ったがAもBもダメだった・・・・・・・・C

自分たちが作成した人体図を利用し、体のどこに何という器官があるのかを正確に説明できるようにしよう。

**学習の流れ**

1. 学習の手引きを読み、本時の学習課題と学習の流れを知ろう。(5分)

2. これまでの知識を基に、顔の下の人体図(用紙小)を描こう。(個人 8分)

<描くまでのプロセスの例>

①名前が浮かぶ器官(内臓のこと)を図の外(紙の端)に書き上げてみよう。

②その器官の形を想像、または思い出してみよう。

③形が思い出せた器官があると思われる位置に、その図を描いてみよう。間違っていたもか

まわらないので、思い切って描いてみよう。

- ・複数の器官のつながりも考えて描くようにすること。

ここで個人が描いた人体図を基に、班で図を完成させるので、少しでも多くの情報を思い出してみよう。

### 3. 他の班の人と情報交換しよう。(ペア 5分)

#### ①情報交換のルール

- ・班内で1つの人体図(用紙大)を作るので、情報交換は他の班の人と行うこと。ただ、絵を見せ合うだけではなく、必ず説明し合って情報交換すること。

#### ②情報交換する内容

- ・知っている器官の名前、形、位置、他の器官とのつながり

(ただし、その情報がどれくらい自信のある情報なのかも聞いておいた方がいい)

班でできるだけ本物に近い人体図を完成させるためにも、できるだけ正確な情報をたくさん手に入れ、班に貢献しよう。

### 4. 班でできるだけ本物に近い人体図を作成してみよう。(班 10分)

#### ①作業内容

- ・個人で作った人体図と他班の人から得た情報を出し合い、班でできるだけ本物に近い人体図(ホワイトボードに描く)を作成してみよう。

- ・各器官には名称を入れよう。

- ・複数の器官がどのようにつながっているのかを明確にしよう。

#### ②仕事分担

絵が最も上手い人…作図係

作図係の右側…司会者

司会者の右側…発表係

発表係の右側…計時係

(5人班は計時係を2名とする。)

### 5. 班で作った人体図をクラスの仲間に発表しよう。(クラス 8分)

- ・各器官の名前、他の器官とのつながりを中心に1分程度で発表すること。

### 6. 他班の発表を参考に人体図を完成させよう。(個人 6分)

- ・作図係は清書用の用紙(大)にマジックで、それ以外の人は新たに配る個人用の用紙(小)に鉛筆で描くようにする。

- ・各器官の名称も入れるようにすること。

単元終了時にも人体図を描く予定である。その時に描く人体図と最初に描いたものを比較するため、前半に描いた人体図はそのままの形で残しておこう。

### 7. 本物の人体図(絵)との比較と振り返り(個人 3分)

- ・提示された本物の人体図を見て、自分が描いた人体図の評価をしよう。作成係は清書用紙に書いた人体図で評価すること。

## 生命を維持するはたらき(第3、4時) —学習の手引き—

2年	組	番	氏名
----	---	---	----

第3時…肺（Aグループ）、心臓（B）、肝臓（C）、じん臓（D）とする。

第4時…胃（Aグループ）、すい臓（B）、小腸（C）、大腸（D）とする。

### 第3時、第4時の学習課題

自分が調べてきた器官について班の仲間に発表し、班の仲間から4つ以上の「へー」をもらおう。

（今後の活動にどう役立つのか）

「究極の人体図」に向けて、コメントづくりのスタートである。

【評価】班の仲間が書いてくれた付箋紙（「へー」「なるほど」などの関心をもったことは青付箋紙に、疑問に思ったことは赤付箋紙に記入する）の枚数で評価する。

付箋紙の枚数が4枚以上だった・・・A

3枚だった・・・B

一生懸命頑張ったが付箋紙の枚数が1枚または2枚だった・・・C

### 学習の流れ

- 1 学習の手引きを読み、本時の学習課題と学習の流れを知ろう。（5分）
- 2 専門家グループで情報交換し、自分の調べをさらに深めよう（グループ 18分）

①右図の位置に専門家ごとに集まる。

②1人2分で、1班の専門家から順に発表をする。

③発表者以外の方は、自分が調べていなかった情報の要点だけをメモしていく。

④全員の発表が終わったら、どの項目から順に発表すれば良いのか、どんな風に発表すれば良いのかについて話し合う。（途中で時間がきてもたくさんの「へー」をもらうための作戦を立てる。）

⑥ 仕事分担（班に複数の人がいる場合は、交代で仕事を行う。）

・1班（の専門家）…司会 ・2班…全15分の計時係

・3、4班…個人発表2分の計時係

・5班…話し合い修正係（話し合いの時に話が脱線したり、意見がまとまらないときのまとめ係）



班の仲間にたくさんの情報を伝えるためにも、たくさんの付箋紙を書いてもらうためにも、この専門家グループの活動が重要である。また今回の専門家は、今後その器官の学習場面でも中心となって頑張ってもらふことになる。

3. 班の仲間に自分が調べてきた器官について発表し、関心、疑問に思ったことを付箋に書き合おう。（班 20分）

①班長の右側の人から順に反時計回りに発表する。発表時間は1人3～4分を目安とする。2人が同じ器官を調べている場合は、2人が分担して発表する。

②1人目が発表をする。残りの班員は、関心を持ったことは青付箋紙に、疑問に思ったこと

は赤付箋紙に記入する。1人の発表につき、必ず1枚は付箋紙（赤、青どちらでも可）を書くようにすること。

③発表後、発表者の右側の人から順に反時計回りに関心を持ったこと、疑問に思ったことを発表する。発表後の付箋紙は前時作成した人体図に貼る。この時付箋整理係は、同じ内容の付箋を重ねるなど付箋の整理を行う。

④疑問点については、その都度発表者がわかれば答えるようにする。

⑤発表順に同じ事をくり返し、時間が余った班は互いの発表を振り返り、さらに付箋の数を増やそう。

⑥仕事分担

- ・ 班長…司会者
- ・ 班長の両側の人・・・付箋整理係
- ・ 班長と付箋整理係以外の人・・・分担して計時係

#### 4. 自分が調べてきた内容、発表についての振り返り（個人 3分）

自分が調べてきた内容と、実際に班の仲間に発表した内容を比べ、自分自身の調べが充分だったかどうかを振り返る。第3時であれば、第4時の調べにいかしていこう。

自分の担当器官の付箋の枚数を確認し、振り返りカードを記入する。

<資料 3-1> 校内研究会振り返り：第 2 回まとめ①

平成 28 年度第 2 回校内授業研究会「振り返りシート」より

2016, 6, 20

東郷中学校研究推進担当

「課題」「手順」「値打ち」  
学習課題の設定や学習の手順についてはどの教科においてもようやく軌道に乗ってきているように思う。ただ、「値打ち」を語る部分においては若干弱いように感じる。全教職員が当面意識をして、それが当たり前になるようにしていけば更にレベルの高い授業づくりができていくのではないかな。

- ・学習の手がかりになるものが明示されると学力低位の子には助かるものである。
- ・二人ができたなら○という評価も協同的な評価である。

- ・学習課題について、生徒が分かることを前提にしたことであれば、長い短いは関係ない。
- ・目指す生徒像を学習場面で意図的に確認することも必要。
- ・発表する者、聞く者とも「伝えること」が大事で、相手の立場に立って考えることが意識してできるようにすること。

東郷中は今の方針で進んでいけばいいと改めて学ぶことができた。

- ・発表が目的ではなく伝えることが目的。
- ・単元見直し学習（自分たちがこれから何をするか分かり頑張れる。つけていく力が分かる）

- ・フィードバックは授業外でも可。
- ・課題設定は教材研究である。
- ・「先生はしゃべらないよ」は緊張感を生む仕掛け。
- ・発表者、聞く側の課題意識必須。

発表することが目的でなく、伝えることが目標である。授業をすることのない自分も意識すべき課題だと思った。

- ・発表することではなく、伝えることが目標。これは相手の立場に立てる人間になることにつながっていく。
- ・相手を高める責任と相手の支援に応える責任。

自分の教科の中でできる課題設定をより高く、質を高くして内容の濃いものにするために継続実践をしていきたい。

- ・目指す姿をセレモニーにしないというお話があった。意識して「+α」と言ってきたが最近少し忘れていた。また確認していく。
- ・単元を見通した課題設定が学ぶ意欲に通じるので、そこに力を入れていく。

単元を通した課題意識を持たせるという点が自分には足りない。単元全体の見通しが持てるよう、生徒が学びたいという意欲が持てるよう工夫していきたい。

- ・単元見直し学習ができていない。見通すためには「課題」「手順」「値打ち」が大切であるという視点を学んだので、この3つを意識して頑張りたい。
- ・まだまだ1年生の学習規律（特に静と動の区別、聞き方）ができていないので徹底していきたい。

「発表する」から「伝える」や「理解させる」に発言を変えていくこと、そういう風にスキルを身につけさせることが必要だと感じた。相手に分かるように伝える力を教科の指導の中で身につけさせたい。

- ・小テストの作り方は学力についての教師のメッセージであるという視点。
- ・人の意見を聞くとする構えづくりについて。

発表とはただ話すのではなく、聞く側に伝えるということ。相手に理解させるということ。

学ぶ値打ちの説明が自分是不十分だと感じた。説明がきちんとできれば、教える側も、学ぶ側もより明確に授業に取り組めると思う。

自分の発問のまずさで生徒の文章が一文で終わるというのをよく経験する。「どう問うたら」というのは時間切れで妥協の連続。教材研究に励みたい。

どうすればいいのかなかなか悩んでつくった評価基準（いいアイデアが出ず、不満のままの基準で授業研究突入）の問題点があつという間に解決した。

杉江先生の指導講評から学んだことは？

<資料 3-2> 校内研究会振り返り：第 2 回まとめ②

<p>「学習課題の設定」と「生徒にも分かる評価の工夫（評価基準）」は更に続けていくべき。どの教科も学習課題に工夫が見られるようになってきており、更に定着を図りたい。評価基準についてはもっと研究の余地がある。積み上げを図り「当たり前」を目指したい。</p>	<p><b>研究協議や指導講評を受けて、共通実践の取り組みについて振り返り、「めざす授業の姿」に近づくためにあなたが実践することは？</b></p>	<p>50分間の授業で生徒がフル活動できる明確な目標と評価基準を考え取り入れていくこと。実技の作業での協同学習のあり方について。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準を明示して授業を行うこと。学習課題の設定はしているが、説明した内容が動だったのかという評価の部分まではつきりできていない。</li> <li>・単元全体を見通したゴールの設定。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の明確化と課題の意識付け。</li> <li>・授業の流れの明示。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のはじめに単元全体の見通しを生徒に伝え、課題意識を持てるような導入。</li> <li>・他者評価も含めた協同的な課題設定。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語でより関わる場面と相手を尊重する価値付けを増やす。気持ちを伝えさせていきたい。</li> <li>・自分でまずは考える力、考え抜く力、書き切る力、話しきる力をつけるため、目標、やることを明確にして個の力をつけたい。そして全体へ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を生徒がもっと意識するために、生徒にとって分かりやすい文で提示する。</li> <li>・やる気高められる困難度。</li> <li>・評価の仕方（生徒自身、教師）の工夫。</li> </ul>		<p>「発表する」の方向性を「相手に伝える」や「相手に理解させる」のレベルに持っていきける授業に変えていく。</p>
<p>「発表すること」が目的ではなく、「伝えること」が目的という意識を持ち、生徒にそれを求め、自分もそれを実行していく。いいスタイルを教えていく。</p>		<p>相手を高める、支援できる、関わり合う活動ができる仕掛け・工夫が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が明確に理解、把握できるものかどうかをよく考えて、学習課題を丁寧に書く。</li> <li>・学びたくなる課題の設定、学習活動の組み立てなど意欲付けの工夫。</li> <li>・その1時間のイメージがはっきりするはじめの説明。</li> </ul>		<p>こちらの「強い個をつくる」という意識。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関わり合う場面は必ず設定しているが、その内容、質を高められる、より高いレベルで行う工夫をしていきたい。</li> <li>・All English 授業での学習規律（英語は「分からない」がスタート）を継続し、2、3年においてより高いレベルでの英語のやりとりができるようにしていく。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く課題設定。</li> <li>・学ぶ値打ちの説明。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な評価基準を今以上に心がける。</li> <li>・いい基準のストック、作成技術の向上を目指していく。</li> </ul>		<p>最終的な目標に向けて今の仕事は何の意味を持っているのか明確にする。きちんと考える。</p>
		<p>発表者、聞く側の課題意識。ただ発言させる、聞かせるだけではなく、意識を持たせる手立てを！！</p>
		<p>生徒が学びたくなる学習課題の設定。（やるべきことを学びたくなることに）</p>
	<p>明確な評価基準をつくる。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の流れの中で、ワークシートの発問の仕方での学びの値打ちを理解させること。</li> <li>・仲間に「伝えることが目的」を徹底。</li> </ul>	



第 2 回校内授業研究会 杉江修治先生の指導講評から

2016. 6. 20.

東郷中学校研究推進担当

最初の感想

一番のインパクトは、協同的な学級経営がこれだけしっかりできてくると、先生たちはこういう挑戦ができるのだということ。ここで授業されるのは面白いのではないか。先生たちの中で子どもたちに対する期待が非常に高くなってきているのが手に取るよううかがえた。私自身も得るものがたくさんあった。

全体の感想

東郷中に来るのは楽しみである。今回は予想を超えていた。協同的な学級経営がこの時点でしっかりなされていて、子どもたちが協同的な文化を持って学んでいる。そうするといろんなチャレンジができる。今日もいろんなチャレンジを見ることができた。授業がああいう風に行けるとある意味余裕が生まれるのだろう。廊下の掲示等が非常にきれいで、しかも学習に向かうためのいろんな支援、応援団のような掲示がきちんとできていて、学習環境整備という意味でもずいぶんよくできている。

各授業の感想

<道徳：中村>

学習課題が丁寧に書かれていた。1 行で書くのが美しいのではなくて、生徒に伝えるように書くのが望ましい。時には 3、4 行に渡って書かれているのも適切である。生徒をどう変えたいという思いが見事にこの表現に表れている。

「どのグループも見つけていないであろう、ベスト 3」という意欲付けをする工夫がきちんと入っていた。さらには「東郷中改善のために」とあった。課題意識がしっかり持てるとしつかり話をする。改善案まで書きましようというのは、子どもが納得のいく指示である。こういう配慮がきちんとなされていた。

役割分担も行われていたが、これは学習活動の中でも同時に、個人の責任ということを学ばせる機会にもなる。どういう役割が適切かは授業によって違うが、あまり固定的に考えないでよい。

子どもの発表の際「みんなの見えるところに立ちなさい。」という指示を先生がした。こういう授業の中で、実際に立ってほかの人に話をするということはそういうことなのだと教えるのがよい。相手の立場に立って話をするということに気が付くようになる。普通ついやってしまうのは「発表することが目的」「自分が話すことが目標」になってしまうこと。そうではなくて「伝えることが目標」「相手に理解させることが目標」。その辺の意識付けは一貫させないといけない。ただ、発表の時、仲間そのものに向かって伝えるという明確な体の位置を指示してもよかった。意見を伝えるのは先生に伝えるのではなくて、仲間に伝えるのがメインだ。

読み取りの協同的な活動を実際に初めて見た。とても面白い。どこかで使わせてもらいたい。あのクラスだからこの活動、挑戦ができる。一人の子どもが言ったことを本当にまじめに聞いて、自分がちゃんと聞いたよということを相手に知らせ、それでいいかどうかということをチェックする、間違っていたら違うよということを言える関係があるということ。これで、分か

るという点でスタートポイントをそろえることになる。その手法として面白い。また同時に、「相手を高める責任」「相手の支援に応える責任」の二つの責任がここで問われている。同時に学習できるものがあるという意味で、活用できる場面で活用すると面白い。東郷中の生徒はこの形で動ける。

「どのような生き方が大切か」という表現はもう少し教材研究がいる。例えば「人々が共有すべき生き方を考え出そう」とするともう少し考える方向が定まる。こここのところの表現が子どもにピタッとはまると、きちんと長い文章を書くが、はまらないと一文で終わってしまうということになる。子どもが粘り強く考える習慣がないのではなくて、こちらがどういう指示を与えると子どもが動くかというところ。

東郷中のめざす授業の姿を提示されたことは面白い。申し合わせ事項というのは時々提示して、セレモニーではないということを意識づけることは大事。前に貼って一年中一言もそれに言及しないではいけない。自分たちで決めたこと、学校としてこうしようということセレモニーにしない工夫として面白いと思った。

スクランブルが始まったときも全員参加ができた。

最後に「これが本時の目標である」ともう一度確認をした。今からやる作業は今日のゴールであるということ。最初に言ったことと終わりの指示が首尾一貫している、論理的なものであるという押さえは子どもの納得のいくもの。この組み立ては非常に重要でありよかった。

時間がなかったため、お互いの到達点について知らせ合うということができなかった。いろんな処理の仕方はある。回収したものを時には廊下に貼って、付箋を置いておいて、「感想を、みんなが一人何枚くらいはつけましょう」とするとほかの子のフィードバックが得られる。時間が足りないときはそんな形で交流を図ることもできる。

生徒が生き生きと活動し、自分自身でより深いゴールに到達するという形でアクティブ・ラーニング、協同学習の要件を十分に満たした授業だった。

#### <理科：梅原>

大変興味深い授業だった。単元の第一時間目を選んでいたので、提案授業としてはよかった。単元の第一時間目というのはとても大事。単元の最終ゴールまで見通すような第一時間目の工夫があり、大変興味深かった。子どもたちが、自分が今から何を学んでいくのかということが検討付けできる。

「単元見通し学習」というのを提唱している。本時の見通しはとても大事だが、単元の見通しというのもとても重要。今日書いた成果というのは、最終ゴールに対するプレテストになる。ここからどれだけよくなっていくのか、どれだけ本物に近づいたものが描けるのかということが君たちの13時間の成長の足跡だという位置づけにもなる。今回は自分の今の経験と学んだ後の成果と比べるための事前テストの役割もあるので、最後に活用できる。こんなに賢くなったということが手に取るように分かる。単元終了時までにはこういった正解に至ろうというところがきちんと押さえられれば、当然毎時間の学習参加はよくなってくる。

本時の課題も丁寧に書いてあった。単元のゴールを示すこと、13時間分の学習スケジュール表を渡すことに加え、人体について学ぶことの値打ちについても工夫するとよりより意欲が湧く。

「課題」「手順」「値打ち」の三つの側面が見通しの条件。単元全体の「課題」「手順」「値打

ち」を示すこと。特に学力が高くない子ほど見通し・学習の手がかりがあると理解学習ができてくる。

評価基準について、今回はどちらも○ならA、一方が○ならB、そうでなかったらCとあったが、論理的に考えると、本時は全員Aがとれたらまずいのではないか。むしろ絵を描いてみて「自分の課題を見つけること」をゴールにする、「どういうところをもっと勉強しなくてはならないか」というようなことがゴールでもよかった。

「二人とも○ならA」とか他の授業で「二人ともできたらA」という、グループやペアの評価をしていた。これは直接通知表には反映されないが、こういう協同の評価を普段の基準の中に入れてやると、普段の学習活動そのものが協同的な活動を促す工夫にもなる。グループとしてのゴールを評価ポイントに入れ込むということも改めて思った。

手引きは細かかったが、挑戦はよい。より子どもにとって分かりやすい手引きをつくることは教材研究。手引きがきちんと書かれて子どもが自分で動けるようにという仕掛けは大変よかった。「先生は話はしない」と言うことでより緊張感が出た。

ステップごとに先生が指示をしたが、うまくいくようになるとクラスの学習係がタイムキーパーになる。

ホワイトボードに向かって全員参加していた。それは、クラスの協同の姿があるのでそれが当たり前になっているから。もう一つ条件がある。それは課題の困難度。あまり簡単だと参加しない子が出てくる。あまり難しいと話し合いができない。子どもたちがただ乗りせずに全員参加できる課題であったかどうかのチェックポイントとして、困難度みたいなものがある。

次に自分たちのグループの説明に入ったが、説明のための座らせ方をきちんと指示した。子どもたちは基本的には勉強の素人だから、どういう形が一番いいかということになかなか気を利かせることができないことが多い。そういうときに「こういう風に座りなさい」と言った方がやりやすい。大学生にも座り方を指示する。いいスタイルというのは教えてやる方がよい。

振り返りがABCの三観点だったが、今日の学びを振り返るとき子どもはもう少し書きたいことがあるのではないか。「残りの12時間に向かって自分自身にどんな課題があるか」など自分の課題意識を書かせるようなもの。毎時間は無理かもしれないが、ABC以外に「次の時間の課題としてどんなことがあるか」「今日理解できてよかった項目はどんなことか」といった振り返りもあっていいのではないか。

相互評価をしていたが、お互いのものを見て「問題点と思われるところに赤丸をつけなさい」というような相互評価の仕方をしてよかった。

#### <社会：中前>

本時の課題が丁寧に書いてあってとてもよかった。

はじめに知識の小テストをしていたが、単純に用語テストではなく、理解に関わるような項目も入った小テストだったのは面白い。テストはたとえ小テストであっても、そこには教師が目指している学力というものが反映されている。これがテストになるということは、先生はこういう力をつけることが勉強だと思っているのだなと生徒は思う。用語テストしかなないと用語を覚えることが勉強だと思ってしまう。日常的なテストというのは学力についての教師のメッセージを含んでいる。小テストの作り方も工夫が必要。

小テストを隣同士で交換して採点して返すが、採点した後に、間違ったところをお互いに問

題に出していた。これは学ばなければならないことは教えきる、学ばせきるというメッセージだ。大変面白い試みだった。どこかで使わせてもらいたい。

生徒の動きを見ていると、学習規律というものが子どもたちの間に内面化されているといういい印象を持った。自分たちがそう思っているからそう動いているということ。

評価基準が、自分が○をもらうのではなく、人を○（正解）にさせたらAといった協同的な要素を含んだ評価基準を入れていたのは面白い試み。

#### <家庭科：市川>

評価基準ははっきりしていて生徒は動きやすかっただろう。

B組の子は個人作業の時けっこう話すし、先生を呼ぶ声が多かった。そういう意味でB組の方がA組よりも子どもっぽい。自立学習を促すことをB組の場合はもっと意図的にやっていいという印象を持った。

#### <英語：新・會見>

今日は先生が指導しているところしか見ていないが、特に英語というのは学級づくりがその授業の背景になっているので、ぜひ英語の授業の中でもほかの授業でやっているような、子どもたちが協同して課題に向かうような場面を、できるだけたくさん入れていただきたい。英語はペア学習が多いと思うが、単なる交流ではなく高め合いなのだという意識付けでさせる、そして仲間のよさというものを意識付けることを授業の中で一貫していくといい。

#### <道徳：中本>

子どもたちの一人ひとりの発表が並行的な感じで、それを聞く側がどうそれを統合していいのかというような課題意識を持って聞いていただろうか。もう少し自分の中にどう統合していくかみたいな構えを持って聞ける仕掛けがあるともっと面白い発表になった。

「規則は何のためにあるのか」の下に「なぜなら～だから」を必ずつけなさいと指示すると、思いついたことだけを書くのではなく一つ踏み込んだ記述ができる。

#### 最後に

どこのクラスも基本的には、関わり合ってお互いに支援し合っというのが当たり前になっている。そういう文化が1学期の段階でしっかりできているというのは、大変よかった。

今非常にいい形できている。評価基準をもっとまた工夫をして、それを毎回の授業で緩みなくきちんと押さえていくというような課題はいろいろあると思う。ぜひ、課題見つけをして継続的に研究をしてもらいたい。

常にこの教科この教材でどういう学力をつけるのか。アクティブ・ラーニングのゴールは基本的には学力論。本当に子どもに学力をつけるには、アクティブな学びを通してでないとなかなかできないだろうという意味でアクティブ・ラーニングということが言われている。アクティブであることがゴールではない。アクティブ・ラーニングを通してどういう学力を身につけさせるのかというのがゴール。常に緊張を持ってゴール設定をしないとイケない。

# 【全員で実践！第4-②弾！】

## 1. 「学習課題の設定」「評価」を工夫しよう

### ・ 明確な課題・明確な評価基準

- 単元を見通した課題設定
- 授業の終わりに再度問いかけられる
- 「～ができるようになる」「～を説明できるようにしよう」
- 教師も生徒も目標達成が判断できる

### ・ 学びたくなる課題

- 学ぶ値打ちが分かる
- 50 分間フル活脳

### ・ クラスの課題

- クラス全員がどうなればいいのか

## 2. 実践の確認をし合おう

### ・ 週に一度は学年ごとに振り返り



## 3. 「今までの継続」

### ① 学習規律の徹底 《指導しきる！！》

- ◆ 声の大きさ ◆ 話す・聞くスキル
- ◆ 体の向き（伝える側、聞く側の課題意識を）
- ◆ 返事「はい」 ◆ 挨拶・分離礼
- ◆ 規律の意義を話す

### ② 1 時間に 1 回は関わり合う場面を

### ③ 授業の流れ（手順）の明示

<資料 6> 第 5 回校内研修会研究授業 音楽指導案

時	学習の流れ	生徒の活動	○指導上の留意点・評価 □協同学習の基本的構成要素 を活用した指導
10	1. 前時の復習（演奏） をする。	○「カントリーロード」を演奏する。 ・G→D のコードチェンジの担当と Em→C のコードチェンジの担当の演奏をつなげて通す。 ・演奏しない人はペアの演奏をしっかりと聴き、コメントする。	○ギターに関する知識を復習し、意欲を高める。 ○班（ペア）で活動し、相互評価し合うことで思考を高め合い、工夫し合いながら練習するよう伝える。 □二人の演奏を聴き、コードチェンジのスムーズさについて他の二人が気づいた事や感想を伝える。 (①②③)
最後に演奏する時、班員全員が担当パートをスムーズなコードチェンジで演奏できるようになるう！！			
20	②. 2 つのコードポジションを覚えて練習する。	○前回とは逆パターンのコードチェンジを教え合いながら練習をし、習得する。 ・G→D のコードチェンジの出来るメンバー（2 人）は出来ない班員（2 人）に、逆に Em→C のコードチェンジの出来るメンバー（2 人）は出来ない班員（2 人）にポジションの押さえ方や音の出し方のコツを教える。 ・リズムパターンを工夫して変化させたりして伴奏の多様性を追求する。(S 課題)	○一つひとつのポジションを確実に覚えられるよう、ペア同士で活動する。 □2 人と 2 人に分かれ、スムーズなコードチェンジで演奏できるよう、押さえ方とスムーズさを意識しながら教え合って練習する。(①②③) ○コードポジションの押さえ方の写真（見本）をいつでも確認に見に行けるよう掲示し、スムーズなコードチェンジを工夫するヒントに役立たせる。 ○いくつかのリズムパターンを例として提示する。
10	3. 「カントリーロード」を演奏する。	○今日の成果「カントリーロード」を演奏する。 ・スムーズなコードチェンジ、綺麗な音色や響きを意識して演奏する。 ・G→D のコードチェンジの担当と Em→C のコードチェンジの担当の演奏をつなげて通す。 ・演奏しない人はペアの演奏をしっかりと聴き、コメントする。	○演奏する前に本時の学習のねらいを確認する。 □しっかりと班員の演奏を聴き、音の響き、押さえ方、コードチェンジの流れについて気づいたことや感想を伝えさせ、向上意欲を図る。 (②③) [評価] コードの押さえ方を工夫しながらスムーズなコードチェンジを意識して演奏している。



10	本時の振り返りをする	<p>○取り組みの態度、成果について振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードに振り返りを記入する。(個人)</li> <li>・全体で成果と課題を確認する。(全体)</li> </ul> <p>○取り組みの態度、成果について振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カードに振り返りを記入する。(個人)</li> <li>・全体で成果と課題を確認する。(全体)</li> </ul>	<p>(観察記録)(関・工)</p> <p>○本時の学習の取り組みの良かった点、改善点を全体で確認(発表)し、次時の学習活動の取り組む方途の確認や意欲づけにつなげる。</p>
----	------------	---	---

### 音楽ワークシート

3年 組 番名前

時間	学習日	学習形態	学習内容	学習課題の達成	意欲	感想(学習の課題と成果について)
1	/ ( )	班 (2グループ)	・ギターの知識や奏法(ストローク)の基礎的な事項の学習 ・コード(C、D、Em、C)の押さえ方、コードチェンジの習得 ※①の人(G→D、G) ②の人(Em→C、C)	A B C D	A B C D	
2	/ ( )	班 (2、2ペア)	・ストローク奏法とコードポジション、コードチェンジの工夫 ※①の人(Em→C、C) ②の人(G→D、G)	A B C D	A B C D	
3	/ ( )	ペア	・ストローク奏法とコードポジション、コードチェンジの工夫 目標 「カントリーロード」のサビのコードを一人で演奏する →担任の先生に音楽を伝える	A B C D	A B C D	
4	/ ( )	個人	・ギターの様々な奏法や音色、強弱、形式に着目して 「アラフエス協奏曲 (ギター協奏曲)」 を聴き、批評文を書く	A B C D	A B C D	

<資料 7> 第 5 回校内研修会研究授業 英語指導案

第 1 学年 A 組英語科学習指導案

日時 平成 28 年 12 月 8 日 (木) 5 限  
 場所 1 年 A 組教室  
 指導者 新 麻依子

1. My Project 2 人を紹介しよう

2. 単元のねらい

- ・言語活動にすすんで取り組むことができる (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・三人称単数現在・can・be 動詞を使用して、人物の紹介文を 5 文以上書くことができる (表現の能力)
- ・人物の紹介文を聞いて、内容を理解することができる (理解の能力)
- ・人物の紹介文を、原稿を見ずにスピーチすることができる (表現の能力)
- ・人物の紹介の用法・意味を理解することができる (言語や文化に対する知識・理解)

3. 単元の指導・評価計画 (全 4 時間)

	主題	ねらい	評価の観点				協同の要素
			関	表	理	知	
1	人の紹介文① 基礎を知る	人の紹介文の仕方を知り、基本的な文を 3 文以上書けるようになる	○			○	①④
2	人の紹介文② 条件に沿ってより具体的な紹介文を作る (本時)	有名な人物の紹介文を条件に沿って 5 文以上作り、修正・追加をしながらより詳しい紹介文を作れるようになる	○	○			①②⑤
3	人の紹介文③ 自分の好きな人物の紹介文を②を元に詳しく作る	自分の好きな人物の紹介文を 5 文以上作り、スピーチができるようにしよう		○	○	○	①③
4	人の紹介文④ 自分の好きな人の紹介をクラスでする	自分の好きな人物の紹介をスピーチし、クラスの仲間に伝えられるようになる	○	○			④③

\* 「評価欄の①～⑤の数字は協同学習の基本的構成要素を指す。

- ①相互協力関係、②対面的・積極的相互作用、③個人の責任、④小集団での対人技能、⑤グループの改善手続き

4. 本時の学習 (第 2 時)

(1) 主題 My Project 2 人を紹介しよう

(2) ねらい

- ・三人称単数現在・人称代名詞・助動詞 can を使用して、人の紹介をすることができる (I



表現の能力)

- ・他のグループの紹介文をより詳しいものにするためのアドバイスや添削ができる  
(Ⅱ 関心・意欲・態度)

- (3) 評価基準 A : 5 文以上条件を満たして書けている  
B : 3 文以上 5 文未満で条件を一部満たして書けている  
C : 1 文もしくは書けない

(4) 準備 small talk picture、タイマー、ホワイトボード、個人ワークシート

(5) 「関わり合い、伝え合う」ポイント

- ①有名な人物のこについて、動詞（三人称単数現在）、人称代名詞、can を使用して、マッピングを元に、個人で考えた紹介文を 5 文以上グループで作る場面
- ②他のグループの紹介文を添削したり追加したりしてより正確で詳しい紹介文にする場面

## 5. 本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	○指導上の留意点 □協同学習の基本的構成要素
5	1. Small Talk [ペア]	○前時に作成した mapping を元に、Small Talk 活動を通して既習文法や表現の様々な形に触れ、英文の作り方を確認する	□ペアでヒントを出したり、正しく直したりしてたくさん表現を言わせる ①②
5 (10)	2. Dictation [個人]	○自分の Small Talk で話した内容を文字にして書く	○教師に頼らずどれくらい書くことができるか机間指導をし、支援の必要な生徒にヒントを出す
3 (13)	3. 本時の学習課題の確認 授業の流れ説明 [全体]	○本時の学習課題と授業の流れを知る	○本時の学習課題と学習手順を伝える
	有名な人物の紹介文を、条件に沿って書き、添削したり情報収集をしたりして最初の文より 2 文多く書くことができるようになる。		条件 三人称単数現在を使用する 人称代名詞を使用する「～できる」can を使用する
7 (20)	4. small talk で話した内容を班で自分の書いた紹介文を発表し、条件に合うより詳しい紹介	○班の中で決められた役割をもって、発表を聞いた後にボードに紹介文を書いていく。	□グループの人の意見に耳を傾け、英語で反応を返していく② 班の中で気づいたまちがい

23 (43)	介文を作成する〔班〕 5. 各班の紹介文を添削・追加をし、より詳しい紹介文を作成する	○他の人の意見を聞いて、添削の必要なものには赤ペンで、追加したいものは青ペンで記入する	にはその地点で修正する⑤ ○間違いになかなか気づかない班にヒントを出し、気づくよう促す □間違いには赤ペン、追加項目には青ペンを使用する⑤
5 (48)	6. 自分の書いた紹介文を条件に合うように直したり付け加えたりして完成させる〔個人〕	○他の人の意見を聞いて、分かったことを参考にして追加・修正をして英文をさらに詳しく5文以上書き、完成させる	○支援の必要な生徒にのみヒントや書き方を提示し、最初の文よりも正しく書くよう助言する
2 (50)	7. 振り返り	○本時の学習課題を達成できたか確認し、振り返りシートに記入をする	○様々な意見に触れることで自分の表現に幅がでるという良い点について話をし、次回は自分の好きな人の紹介をし、スピーチをすることを伝える

**生徒の評価**

S : 10 文以上

A : 7 文以上

B : 5 文以上

C : 2 文以下または書けない

**評価**

人物紹介を、5 文以上条件を満たして書けている  
(ワークシート)

### ワークシート

#### 1st Grades' English Evaluation Sheet

Year 1st Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

★人物紹介を通して、聞いている人が引き込まれる、聞きたくなるようなスピーチをできるようになるよう

Program	Contents (内容)	Can-Do (できること)	Understanding (理解)		Communication (関わり)		Using English (英語の使用)		Forget (忘れ物)
			A / B / C	A / B / C	A / B / C	A / B / C			
My Project 1	人物紹介の基本	紹介文の基本文を3文以上書き、マッピングができる							
My Project 2	人物紹介を詳しく作る	最初の紹介文から12文以上追加をして詳しく文を作ることができる							
My Project 3	自分のスピーチ原稿を作る	自分の紹介したい人の情報を元にスピーチ原稿を正しく作ること							
My Project 4	スピーチをする	聴衆に聞きたいと思わせるようなスピーチをすることができる							

**Comment and Questions** [学びの関わり合いはどうだったか、分からないことがあれば、質問を記入]

1	
2	
3	
4	

**Teacher's Evaluation S / A / B / C**



## 困ってます

「～ができるようになろう」という課題，評価基準を毎時間明確に設定することが難しい。毎時間のスモールステップでの目標設定がしづらいつきどうすればいいのか。

学習課題に子どもたちがどこまで迫れたのかをどのように見取っていくのか。

- ・学習課題まで行きつかないときがある。
- ・県の教科の取り組みと東郷中の共通実践に矛盾が生じる場合が出てくる。

単元の目標と本時がどうつながっているかを示して，学ぶ値打ちを生徒に伝えることがまだきちんとできていない。

クラスの課題がなかなか設定しにくい。

- ・作品作りのときに 50 分間フル活脳が難しい。
- ・進度に差がですぎないように「班の全員が・・・までできたら次のステップに進む」としているが，待つ時間ができ，それを有効に使い切れないことが多々ある。

教科系の振り返りコメントのレベルアップについて，具体的にどんなコメントがレベルアップされたコメントか知りたい。

評価基準をきちんと示すと，生徒が意欲的に取り組むことはわかっているが，毎時間きちんと示すことができません。ひらめきが足りません。

活動がマンネリになって生徒が生き生きする工夫が必要だが，困っている。

共通実践で「うまくいっている」「紹介したい」「困っている」ことは？

東郷中学校研究推進担当より  
2016/12/9

## やっています

「クラス全員がアイデアスケッチが完成する」などは設定することができ，効果的だった。

評価基準を学習カードに明記している。

課題設定をいつも教材研究をしながら考えて授業に臨むようにしている。

「～について全員が（説明）できるようにしよう」

テスト直し等で「寺子屋協同学習」生徒だけで教え合い，学び合いをする。机は顔合わせ，8人班。流れと評価，メモ欄のあるワークシートを渡す。正しい説明かどうか気がなったら先生を呼んで聞く。

「学習課題」＝「学習内容」とならないように，協同の視点を入れていくことを意識している。

第5回授業研究会  
(2016年12月8日)  
「振り返りシート」から

裏に続く

・時間を取って仲間と関わる，学び合うことができるようにする。  
・教師が途中で介入せず，生徒に任せる。

単元の値打ちを明確にする。

生徒全員が「できた」と思える授業づくり。低位の生徒でも「できた」「わかった」と思えるような価値付けができるようにしたい。

・添削した後の教師のレクチャーは時間をしっかり取ってやっていきたいと思います。  
・英語での指示，英語をたくさん使用する授業は続けます。吟味しながらゆっくりと理解の確認をすることも忘れずに。

毎時間，協同へのチャレンジ。

集団として学習課題は評価と直結する形で設定するよう努力しているが，個人評価についてはなかなかAとBを設定して評価できていない。

学習課題の設定は生徒が自主的な学習を進めるためのものであることを再確認し，大きな目標の中に生徒個々の目標を設定し，毎時間学習カードで評価していくよう工夫していきたい。

## これからの自分の授業の改善点は？

勉強の苦手な子も得意な子も力のつく授業づくり。

生徒が自主的に動く手立てをもっと考える。

・学習課題を練る。  
・学ぶ値打ちのある授業の中身とそのしかけの工夫。

・振り返りカードの自由記述の際，視点をしばって書かせる。  
・今日（今）の学習が何（どこ）につながるものなのか，きちんと生徒に理解させる。

・学習課題にどこまで迫れたのかを見取ることの工夫。  
・「できた，できない」以外の「どこまでできた」というモノサシを自分自身が持つこと。

**改善します**

その他

・よーく理解してやってみたいと思うことがたくさんありました。（授業以外でも）やる気にさせてもらいました。  
・貴重な体験をさせていただきましてありがとうございます。今後の授業づくりにいかしていきたいと思えます。

職員集団も  
協同的に  
一歩ずつ！！



第 5 回校内授業研究会（12 月 8 日） 杉江修治先生の指導講評から

2016.12.13.

東郷中学校研究推進担当

各授業の感想・講評

<音楽科：大谷>

- ①単元を通しての目標は何だったのか。もう少しすっきり書かれていていい。最後は鑑賞・批評で終わっているが、今日やることはそこにどうつながるのかということが子どもには分からない。ギターに親しむとかギターの音色のよさを感じるとか、そういうレベルで書いていると、4時間単元自体の目標が曖昧になる。コードならコードだけの授業になっていてギターの魅力というところにどう結びつくかということにも少し工夫があってよい。
- ②グループの目標が示されていて、子どもたちは弾けるようになることは楽しみだ。しかし、今日の活動が4時間通してどういう値打ちがあるのかということに何か説明があると、子どもがもっと意欲付けられた。コードが引けることだけが目標であると、最終的に上手にギターが弾けるというところにしかつながらない。
- ③ペア学習で新しいもうひと組のコードを学ぶということになると、復習のときにしっかり自分がやっておかないと教えられないということがある。単に活動を示すだけでなく、構えづくりということにも一言あった方がよかった。
- ④集中させるために手を挙げさせるというやりかたは、使えるところでみなさんも使ったらいい。
- ⑤事前によい音色を出すための工夫ということを予めきちんと教えておいてもよいのではないか。
- ⑥座り方について、最初から4人グループで見合う形にして、4人グループをペア・ペアにしてやるというような方がよい。グループで何かをやらせるときにはいい形の座り方を教師が指示すること。
- ⑦教師が子どもたちの活動に介入せずしっかりと任せていたのはよかった。学びは自立の学び。いつも手を出していると依存になる。集中度も低くなる。学びは我が事だということを教える意味でも子どもたちがやるときにいちいち手を出さないことが大切。
- ⑧「ありがとう」と生徒に言っていたが、子どもにお礼を言う必要はない。評価をするならまだいい。先生のために授業をしてもらっているわけではない。「お願いだから勉強してね」というのは100パーセント排除するべき。丁寧語と依頼語を間違えないこと。
- ⑨大事なことには時間をかけること。いい音の出し方というところで、指でどこを押さえると響くのか響かないのかを短時間で説明しただけで、子どもに届いていない可能性がある。「私は言いましたよ」というだけになってしまう。本当に届けたいのなら丁寧に言った方がよい。
- ⑩子どもたちは自分が教える相手の演奏をよく見ているし、しっかりと支援をしていて、課題意識は十分にあった。
- ⑪仲間が練習した後に先生は「コメントをあげてください」と言ったが、十分なコメントのやりとりがなかった。それは何をコメントしてよいか分からないから。例えば「これとこれにつ

いて感想を相手に伝えましょう」「100点満点で何点か」というようにコメントを言いやすいような教師の声かけ、指示をもっと工夫すると子どもたちはいろいろできた。

⑫振り返りで自由記述の欄のスペースが大きいのはよい。ただ、「今日は・・・についての振り返りを書きましょう」という一言がほしい。「感想」と書いてあるだけでは子どもは何を書いてよいか分からないし、思いつきを書くことになる。例えば「今日はどういうことができるようになったかということについて書きなさい」「友達の支援のよかったところについて書きなさい」のように視点を絞って書かせるとしっかり書ける。教師の知りたい視点についての振り返りが出てくる。

⑬「成果と課題」を話し合って何になるのか。なぜこれを話し合わなくてはならないのか。先生は途中でその目的を言ったが、最初に言うべき。追っかけ指示は生徒は聞いていない。

⑭「成果」の発表は、あまり手が挙がらなかった。それはあまり答えることがなかったからではないか。発表する値打ちのあることだと思えば手を挙げる。その意味ではセレモニーのようになってしまった。

⑮子どもたちはよくやった。これがどこにつながる練習なのか伝えてもらおうとよい。

#### <英語科：新>

①生徒がよく学習参加をしていた。いろんなしかけが盛り込まれていて、それが先生の頭の中にしっかり流れとしてイメージができていた。

②学習課題だけを見ると、それはグループの課題なのか個人の課題なのかわかりにくい。最終的には個人の課題なのだろうが、途中の活動を見ているとグループの課題なのだろうかというところがあった。「一人ひとりが2文以上書ける」というのがゴールなのだということがよりの確に伝わるための表現の工夫の余地がある。そう思うのは、実際には添削したり情報収集をしたりするのはグループの活動でやっていたから。課題としてはこれでいいとしても、補足の説明というのがもう少しあってよかった。そうすれば子どもは本時のイメージがより分かる。

③流れの説明がシンプルすぎた感じがした。

④「・・・を書こう」というときにはモデルを出してやると子どもはゴールがはっきり分かる。具体性がもう少しあってもよい感じがした。

⑤先回の授業に比べて、生徒に今の英語の指示が届いているかどうかを丁寧に吟味しながら進めていたのはとても良かった。子どもは100パーセント分からないにしろ、だいたい分かったというのは子どもにとっては成功体験。

⑥スマールトークをするときに、最初から「お互いに向き合いなさい」とひと言言った方がよかった。

⑦ペアで話しているときにあまり相づちを打っていなかった。子どもたちが一方的に話すと相づちを打つ間がないので、「相づちを打つための間を作りなさい」「一文ずつ切りなさい」と指示すれば、相互作用が生まれたのではないか。このあたりの協同的な傾聴、協同的なコミュニケーションを意識させる働きかけも大切。

⑧作文を書くのだが、この作文がどう生かされるのか、子どもたちは見通しを持っていたのか。説明がしっかりなされていると子どもは見通しを持って取り組めるのだが、ステップ・バイ・ステップで教師に言われていることをやっている感じがした。

⑨指示書があって各グループが確実にできるようなしかけがあって、子どもたちも活動がしや

すかった。子どもが自立的にできるようなしかけを作っておくというのは重要なこと。

⑩役割指定がなされていたのもよかった。仕事量に偏りがあったという指摘もあったが、配慮すべき事柄ではある。

⑪ホワイトボードにまとめるときに一気に口々に言うのではなく、「一人一文ずつ自分のお勧めのものをみんなの前で言いなさい」というような指示があると書く方も書きやすかったのではないか。また全員が上手に参加できるのではないか。

⑫他の班に行って情報収集する工夫はあったが、時間を食ってしまった。説明係を一人残して、あとは自分の好きなグループを回って「いただき」「お出かけ」をする方法もある。面白そうなグループをいくつか回って情報をゲットしてきて、自分の班に戻って紹介するというやりの方が時間を節約できたのではないか。いろんな選択肢がある。

⑬他の班に行くときに、情報収集とまちがい直しの二つの課題を明確に指示すると、その構えで出かけることができる。

⑭まちがいについて先生が直接教えないというのはよかった。先生を辞書代わりに使わないということとあわせて、子どもたちがもっと自分たちで辞書を引いて調べるようになる。

⑮先生が教えないから「live in」の前置詞を多くのグループで忘れがちだということが浮かび上がってきた。一つ一つ直していっていると子どもたちの共通のまちがいが消えていってしまう。

⑯グループとして活動しているときにいい仕掛けがなされて「ただ乗り」の子どもがいなかった。

⑰最後にホワイトボードのチェックをするときにゆっくり誤答を直した方がよかった。子どもたちは間違いが見つからなくて認知的な葛藤があった。知りたいと思っているので、ここでは先生がレクチャーしても子どもは聞く。レクチャーしても聞くだけの緊張感がつくられていた。

⑱個に返す活動に入る前にひと言ほしい。例えば「今までのグループでやったことを生かして、自分一人の力でどのくらいできるか今から試しだよ」というような言葉があると、やっていることの意味が分かる。

⑲振り返りを書くときに観点を示したのはよかった。

⑳子どもの自己評価のABCの信頼性は、時々吟味した方がよい。例えば、いったんつけさせておいてから「ここまでできたのがAだよ」と言うと実はBだったのだと気づくことがある。自己評価の力をつけるような場面を時々取り入れるとよい。

### 全体的なこと

子どもたちの学力観を点検してみることも必要。教師側は「深い学び」「説明する力」「発信する力」を意図するかもしれないが、子どもたちがどのような学力観をこの一年間でつけたのかということはどうか。一生懸命考えさせても「用語を覚えればマルをもらえる」というような学力観だとまずい。考えることの値打ちのようなものが生徒にどれくらい理解されているのかというあたりを検討してみると、次の課題も見えてくる。教師の学力観を鍛えると同時に、生徒の学力観の実態を知るということも大事。

授業を時間通りに終わることも大事だが、子どもの頭の中に余韻があるかどうか、そういう



授業であったかどうか。自分の中で残ってしまった課題があるので気持ちが悪いものを持ったままというのもよい。そういう視点もあっていいのではないか。

来年度の期待にもなるが、子どもたちがしっかり育っているから、人事異動で来年度初めて来た先生でも授業ができてしまう「ヤバさ」、生徒に甘えても授業ができてしまうことに十分注意をすべき。協同学習がしっかりできている学校でも、あるときからおかしくなってくる一番の理由は、先生の指示が甘くなること。甘い指示でも生徒が自分で動き始めるようになる。これは教師の緊張感がなくなるということ。とてもいいところまで来ている学校なので、同時にそういう緊張感を持ちながら次の課題に挑戦していくことが大事。

①

- △ペア活動の手順、個々の責任、支援の仕方
- 見本(写真や図)がある
- △スモールステップすぎず教師主導(指示が強い)  
わかる生徒だけできる。

---

②

- セカリかえの合図
- △ゴールを生徒全員が見通しているのか
- △振り返りは「学習課題」を意識し、  
個だけで終わらないように(協働的に)
- △学習課題について。

① 主体的に

- 意欲的に取り組める教材
- 掲示物・コード表・写真・ツール・工夫  
<教室環境の準備>
- ペアでの教え合い → 意欲的に活動
- △先生の話し説明の長さ
- △学習課題・流れ見えにくさ
- △ペアの向き座らせ方の工夫
- △振り返り場面での思考中の教師の介入(教師説明)

② 共通実践

- チセ上げて(鎖)注意を向ける
- 学ばたかな? 課題、50分間フル活用
- 課題達成した実感があることができた
- △評価基準きついかな? 具体的に?
- △生徒の工夫を見ている? 評価

① 良い	① 改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>Small Talkのシステムワーク</li> <li>指示書、スライド</li> <li>マッピング思考</li> <li>大きいロイター</li> <li>辞書・Docの姿!!</li> <li>ほめるフレーズ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>添削という表現</li> <li>ミスと訂正するの工夫と増やすの工夫があいまいだ。</li> </ul>
② 良い	② 改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な生徒へ</li> <li>教師がつきあとは自分た</li> <li>いない人の机も動かす。</li> <li>学び合い</li> <li>東郷中の共通実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語での指示、身ぶり</li> <li>生徒の返事がないとき。</li> </ul>

① マッピング

- Small Talk... 即興性 話しした後には書きやすい
- ▲ 生徒同志でのチェック機能
- 「2 mistakes」で話し合い活性化
- ▲ 本時は正しい文か、オリジナルな文か。

②

- 指令書すばらしい
- 全員、フル活用
- ▲ 流れと目標... 生徒にとって明確に
- ▲ 評価基準があいまい、▲ 役割分担

## 【全員で実践！第5弾！】

### 1. 「学習課題の設定」「評価」を工夫しよう

#### ～学習課題のビッグボイス運動～

- ・ **明確な課題・明確な評価基準**
  - 単元を見通した課題設定と単元の値打ち
  - 授業の終わりに再度問いかけられる
  - 「～ができるようになろう」「～を説明できるようにしよう」
  - 教師も生徒も目標達成が判断できる
  - 教科系の振り返りコメントのレベルアップ
- ・ **学びたくなる課題**
  - 学ぶ値打ちが分かる
  - 50分間フル活脳
- ・ **クラスの課題**
  - クラス全員がどうなればいいのか
  - プラスα活動で達成



### 2. 「更なる積み上げ」

- ① **学習規律の徹底** 《指導しきる！！》
  - ◆ 声の大きさ ◆ 話す・聞くスキル
  - ◆ 体の向き（伝える側、聞く側の課題意識を）
  - ◆ 返事「はい」 ◆ 挨拶・分離礼
  - ◆ 規律の意義を話す
- ② **1時間に1回は関わり合う場面を**
- ③ **授業の流れ（手順）の明示**

<資料 11> 学習課題明確化のための資料

資料 1 学習課題一覧

東郷中学校研究推進担当 11/27

(過去3年間分「～説明しよう」「～できるようにしよう」という形の例——東郷中指導案から)

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○添削前後の俳句を比較し、どちらが添削後の俳句か、根拠とともに自分の言葉でクラスの仲間に説明できるようにしよう。</li> <li>○意見文の題材となる物語の内容を理解し、挿絵の役割をクラスで4つ以上挙げよう。</li> <li>○学習語句を紹介し合うことをとおして、これからの漢字の習得や使用について文章にまとめよう。</li> <li>○3年生がもらって心が温まるキャッチコピーや鑑賞文を目指し、よりよい文章になるように、評価の観点に沿った友達への助言を書こう。</li> <li>○分かりやすく説得力のある表現の仕方について、B組十箇条をつくらう。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二次方程式を利用して、解き方の手順にそった解答が、作成できるようにしよう。</li> <li>○段の数にともなって変わる数量をいろいろ見つけ、その変化のようすを調べよう。</li> <li>○凹四角形の角の関係で、<math>\angle x = \angle a + \angle b + \angle c</math>となる理由を、いろいろな方法で説明しよう。</li> <li>○ともなって変わる2つの数量の関係について変化の様子を説明できるようにしよう。</li> <li>○星形五角形の先端にできる5つの角の和が<math>180^\circ</math>になるのは、なぜだろうか。1つの方法について説明してみよう。</li> <li>○建物がどの立体にみえるか考え、いろいろな立体をグループに分けよう</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鳥取県の結果を参考にして地方財政の問題点を考えよう。</li> <li>○オーストラリアの産業の特色を、資料を活用しながらアジア諸国との関わりと関連付けて説明できるようにしよう。</li> <li>○東郷地域に県外からたくさんの観光客がくるために交通網を整備しよう。(実現可能で、役場に採用されそうな提案を説明しよう)</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続の現在完了を使って、すべてのペアが1分間会話を続けよう。</li> <li>○回転寿司の呼び方についての英語の質問に英語で答えられるようになろう。</li> <li>○接続詞 if を使って、「もし～なら」に続く英文をできるだけたくさん作ろう。</li> <li>○物や人の数をたずねたり、数情報を正確に伝えることができるようになろう。</li> <li>○ジョーダン先生への紙芝居の英文原稿を、グループ全員が完成させよう。</li> <li>○班全員で、1分半でできるだけ多くの質問に答えよう。トラビス先生に質問し、答えを正確に聞き取ろう。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校時代に学習した知識を元に、友達からの情報を仕入れながら、できるだけ本物に近い人体図を作成してみよう。</li> <li>○質量や体積を正しくはかり、密度を求めることで、物質の種類を特定しよう。</li> <li>○遺伝の法則をもとに血液型の家系図をつくらう。</li> <li>○音の高低を変えることができる自作の楽器を製作し、その音色を友達に聞かせよう</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽の要素「音色」「強弱」を工夫して合唱を創り上げよう。</li> <li>○旋律の特徴や強弱記号を生かして表情豊かな合唱にしよう。</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作者の思いや制作意図を感じ取り、作品にぴったり合ったタイトルをつけよう。</li> </ul>
保体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分担された自分の役割を果たして、チェックしたことをペアグループに2つ伝えよう。</li> </ul>
技家	<ul style="list-style-type: none"> <li>○汚れの種類を分担し、実験班で汚れ落としに取り組み、結果をまとめて自分のグループに戻って伝え合い、生活にいかせることを考えて書こう。</li> <li>○全員が、「これがあればスムーズに調理が進められる計画表」を完成させよう。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で考えたり、人の意見を聞いたりして「意識のバリアフリー」のためにどのような生き方が大切か個人の意見を持とう。</li> <li>○命の尊さについて真剣に考え、仲間との意見を発表し合う中で命に対する意識を深めよう</li> </ul>

<参考>『協同学習がつくるアクティブ・ラーニング』(杉江修治編著) pp. 37-38 から)

- ◎「クラスの誰もが、三角形の面積の求め方を友達に説明できるようにしよう。」
- ◎「日本の中央部の気候が4つに分けられ、その地域差が生じる原因を誰もが納得できるように全員が説明できる(ようにしよう)。」
- ◎「モンゴル帝国が内陸アジア諸都市のネットワークを支配下に置いた意味を社会経済的な視点から考察し、文章で表現できる(ようにしよう)。」

## 資料 2

### 子どもがアクティブに取り組む良質な「学習課題」の要件をまとめてみると

#### 1 課題の解決が授業のねらい達成に直結する課題

課題は大きくは、子どもが「何がわかればよいのか」「何ができればよいのか」、「何を解決すればよいのか」であるが、その中身は学問的・科学的に価値が高いことが前提となる。このことを外したのでは、どんな課題でも追求する意味をもたない。もっと言えば「課題の解決」が授業のねらいの達成とイコールであること大前提であり、それはずしたのでは授業にならない。

#### 2 子どもが魅力を感じ挑戦感をもって取り組むような課題

- ・「半ば未知で半ば既知のもの」(半分わかって半分わからない)
- ・「これならできそうだ、ぜひやってみたい」(難易度がちょうどよいもの)
- ・「どうしても解いてみたい、考えてみたい」(挑戦する気持ちをかきたてる)
- ・「おもしろそうだ、楽しそうだ、これは好きだ」(ワクワクする気持ちになる)

#### 3 課題と課題意識の醸成がセットになっている課題

- ・子どもに“ズレ”を起こさせる教材(資料)提示や発問(「今までの自分の知識や論理、経験では説明できないもの」「提示された事実と事実が一見矛盾しているもの」等が子どもの課題意識を高める。
- ・自分達で課題を設定できれば、主体的な学習の展開にとっては重要な解決への見通しも同時にもつ(子どもは解決の見通しが立たないものは、課題として設定しない)。

#### 4 展開の中で「学び合い(協同学習)」を必要とする課題

- ・生活経験に基づく多様な考えやアイデアができるだけ多くほしい時  
『学び合い』の基本について～『アクティブ・ラーニング』との関連も少し視野に入れて』  
(関根廣志) から

#### <「学び合い」に相応しい学習課題の例>

- 1 できるだけ多様な意見や見方、解決方法(アプローチ)が可能となるもの
- 2 正解が一つではなく、多様な解答(ゴール)が認められるもの
- 3 話し合い、知恵を出し合わなければ課題が解決しないもの
- 4 意見交換をすることで、より高く深い結論に向かうことができるもの
- 5 力を合わせることによってメンバーの理解がより高いレベルまで到達できるもの
- 6 生活経験の違いなどを基に、より個性的な意見や多様な考えを必要とするもの
- 7 アイデアや多様な意見をできるだけ多く必要とするもの
- 8 みんなで分担をすることで、より効率的な学習が可能になる(ジグソー等)もの
- 9 友達と協力しながら覚えた方がよりよく覚えられるような知識
- 10 クイズやゲームなどを通し、友達とより楽しく学ぶことのできる内容のもの 等

『学び合い』による学力の向上～学び合い(アクティブ・ラーニング)が目指す学力とそのための10の手だて～(関根廣志) から



## 2 伯耆町立溝口中学校

## 1 まえがき

### (1) 本校の協同学習への取り組みの経過

本校の協同学習は、平成 20 年の 3 月に当時の山西校長先生が中京大学の杉江修治教授を招かれたのがスタートでした。それ以降毎年 1 学期と 3 学期に杉江先生の指導を受けています。その後、平成 23 年頃から、県外先進校への視察やワークショップへの参加を始めました。また、近年 6 年間は、米子市立加茂中学校と合同で授業研究を進めてきています。

### (2) 本校の実態と研究課題

平成 28 年度の本校の研究主題は「協同的な関わりを通して、心豊かに、自ら主体的に学び、自己の力を伸ばそうとする生徒の育成」です。学校教育目標の中に「目指す生徒像」として、「夢や希望に向けて主体的に学習する生徒」を掲げています。この姿を全生徒に実現するのが私たちの最大の課題です。「落ち着いて授業に集中できる生徒が多い」というのが、ここ近年の本校の生徒の特徴ですが、「学びをわが事ととらえ、自ら学ぶ」という姿にはまだ物足りないものがあります。また、目指す生徒像を実現するためには、教員も意識を変え、「授業」のとらえを「教師の知っていることを伝達すること」から、「生徒が自ら理解を深めようとする学習活動への支援」にシフトしていかねばなりません。それもまた本校の課題のひとつです。

### (3) 2016 年度の研修計画

	研 修 計 画	評 価 計 画
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"><li>・担任会（仲間づくり研究）</li><li>・校内授業研究検討（各チーム）</li><li>・第1回授業研究会（6月24日） （中京大学 杉江修治教授を招いて）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビジョン展開シートにおける研究計画の明確化</li><li>・評価育成制度における自己目標に研究計画、ビジョン展開シートに基づいた目標を設定する</li></ul>
中 休 業 夏 期	<ul style="list-style-type: none"><li>・全国学力調査、諸検査による生徒の学力の分析と研究会</li><li>・生徒指導等事例研究会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビジョン展開シート最終評価</li><li>・新ビジョン展開シート作成</li><li>・協同学習 1 学期中間評価</li></ul>
期 2 学 期	<ul style="list-style-type: none"><li>・人権教育参観日</li><li>・先進校視察</li><li>・校区小学校との授業研究会</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価育成制度中間評価</li></ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2回授業研究会（1月26日） （中京大学 杉江修治教授を招いて）</li><li>・反省職員会、教科会、学年会</li><li>・分掌部会 （来年度に向けての評価、分析等）</li><li>・先進校視察</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ビジョン展開シート中間評価</li><li>・協同学習アンケート</li><li>・N I E 教育アンケート</li><li>・モジュール学習アンケート</li><li>・協同学習最終評価</li><li>・N I E 教育最終評価</li><li>・モジュール学習最終評価</li><li>・次年度研究計画案作成</li></ul>

## 2. 研修会の報告

### (1) 公開授業

#### 1) 6月24日

①1年生 社会科、②2年生 英語科、③1年生 保健体育科

#### 2) 1月26日

①3年生 英語科、②1年生 数学科

※指導案は後掲

### (2) 研修会記録（研究会後の研修部からのレポート）

#### 1) 第1回（平成28年6月24日実施）

視点	杉江先生の指導助言	自分の授業へのすりあわせ
生徒主体	生徒がその時間の見通しを持つために、本時の流れや課題をしっかりと説明する必要がある。	生徒に本時の流れや課題を理解させ、1時間の見通しをもたせているか。
生徒主体	活動の目的をきちんと知らせておくと、生徒は活動後に自分で自己評価ができる。	授業の中で生徒にさせている活動ひとつひとつに目的があるか。
生徒主体 全員参加	実験などの作業を教師が全て説明する形もあるが、作業マニュアルを渡して「この通りにやりなさい。全体の妥当性のために、それぞれのグループがしっかりと数値を読み取る責任がある。」とやることもできる。	自ら必要以上に指示を出してしまい、生徒の考える機会や動く機会を減らしてはいないか。
生徒主体 全員参加	発表や活動をする側の生徒、見る・聞く側の生徒の両方にその課題や目的が必要。それは「学級の協同」にもつながる。	見る・聞く側の生徒にも課題を持たせているか。「なるほどなどと思ったものはメモしなさい。」など。
生徒主体	「感想を書く」という活動をさせる場合は、どう書けばよりよい感想になるのかがイメージできる基準のようなものがあるとより具体的な指示となる。	感想を書かせる時には、生徒が何を書けばいいかが自分でわかるような視点を与えているか。
生徒主体	「感想を書く」という活動をさせる場合は、「○○を聞きましょう（読みましょう、観察しましょう）」→「感想を書くためのメモを取りましょう」→「メモをもとに感想を書きましょう。」という流れを指示すると、よりきちんとした感想を書くのではないか。	より具体的でよい結果を得るために、活動や作業に必要な手順を与えているか。
全員	リーダーが自然発生的に決まるのは悪くないが、いつ	リーダーや班長が固定化し、それ



参加	も同じ子がリーダーに固定化するよりは、「前の時間リーダーだった子は今日はアドバイザー。違う子が今日は班長やキャプテンに。」などとやると、全員が役割を持つ機会を作れる。→こういうことを恒常的に行うことで、生徒は授業の中で横につながり、協同的な学びの関係を身につける。	があたりまえになっていないか。いろいろな子に役割や動くチャンスを与えることを仕組んでいるか。
興味 感心	理科などの実験授業の目的は、「・・・を工夫する」で終わる以外に例えば、「工夫をメモさせる」「仮説や予想を立てさせる」などの過程もあってよい。→科学的な思考センスや感覚を養うのも理科の魅力。 どの教科でも、専門的なことに興味を持った子は、そこから他の用語を覚えようとしたり、より深く学びたいという気持ちを持つようになったりする。	自分の担当教科の持つ魅力、本来の楽しさを生徒に伝えたり感じさせたりする機会を与えているか。 教科の専門性、値打ち。
その他	「テスト」とは、「先生は学力というものをこう考えていますよ」というメッセージである。用語テストばかりやると、『用語を覚えること＝学力』と先生は考えている、『用語を覚えることがゴールだ』と生徒が捉える可能性がある。「考えることや自分で答を作り出すことも学力」というメッセージを込めるテストも大事。	どういう力をつけたいか＝テストとなっているか。 それを生徒に事前に示しているか。
	どの授業も生徒の参加率がとても良好。	いつまでもそうとは限らない・・・。
	生徒に期待をし、より高い目標を子供たちに求める。 「この活動楽しかった。」で終わらせない。	活動をさせっぱなしになっていないか。その活動はなににつながるのか、できるとどういう力が伸びるのか・・・。
生徒はよく協力する。先生が授業の最後に「今日は課題に向かってみんなでしっかりと協力できた。とてもいいことだ。」という評価を加え続けることで、生徒たちは「このような人間関係がよりよいことなのだ」とわかり認識するようになる。→どの教科でもやる+授業以外でもやる。	折りに触れ、よい意味でマインドコントロールを。 よい状態や求める姿、ゴールをイメージさせることをしているか。	

○授業参観者（外部）の感想

- ・子供たちにとって、とても意欲のわく内容の授業が多かった。
- ・生徒が真剣に前向きに授業に取り組む姿がたくさん見られた。
- ・1年音楽では、日ごろから様々な活動を取り入れて表現力をつけさせておられることがよくわかる授業だった。
- ・体育の授業では、選曲がよく、生徒が楽しそうにダンスの授業に参加していた。
- ・学習規律がとてもよく、指示がよく入っていた。
- ・1年体育では、「動きの工夫、感じを込める」がねらいとなっているので、それが生徒にとっても

見えるような課題設定にするとよかった。

・3年英語では、生徒たちが何を目的に活動するのかをしっかりとわかっているところがとても参考になった。

## 2) 第2回 (平成29年1月26日実施)

視点	杉江先生の指導助言	自分の授業へのすりあわせ
生徒主体	本時のめあてに「全員が～できる」と表すのは重要。	めあてに「全員が～できる」という表現を用いているか。
生徒主体 全員参加	「説明できる」という表現をめあてに用いる時には、説明すべき課題を明確に。	「なにを」説明しなければならないかを明確にしているか。
生徒主体 全員参加	「なぜそれをやるのか」「どういうめあてでそれをやるのか」を指示を徹底すると、全員が同じように動ける。	あいまいな指示を出してはいないか。
全員参加	クラスの課題を明示し、協同の単位は学級だということを意識させる。	「クラスみんなができることが大事」という声かけを日頃から意識してやっているか。
全員参加	クラス全員が達成できなくても、そのために全員が精一杯がんばったなら、そこには大きな意味があり、個人の成長もある。	全員が精一杯力を出そうという声かけやその結果の見通しを、日頃から生徒に伝えているか。
生徒主体	ゴールは明確に。ただし、ゴールを明確にし、それをどう生徒にかわるように伝えるかは簡単ではない。	生徒にゴールを適切に伝えること
生徒主体 全員参加	レクチャーの時間もOK。ただし、生徒に学習の構えを作らせるべき。	生徒に何を聴き取らせ、考えさせるのかを最初に伝え、能動的に学べる構えを全員に作らせているか。
生徒主体 全員参加	生徒がなんとなく動いて、成立しているかのように見える授業になってはいないか。	活動の価値、手順と結果の見通しや理想のゴールの姿などを伝えているか。
全員参加	活動の最初に個人思考の時間をとるのはとてもよい。	全員に個人思考の時間を持たせてからペア活動やグループ活動をさせているか。
その他	授業の組み立てについて。めあてとゴールが一本化なされているか。ゴールの確認として、めあてに用いた表現をそのまま使えるのがベスト。	ゴールの確認は、めあてと同じ言葉を使ってできるようになっているか。
生徒	個人思考やグループ活動をしている生徒に、教師が関わ	最初の指示は的確か。

主体	りすぎたはいけない。過干渉は生徒の学びのチャンスを妨げることになる。	必要な関わりだけに留めているか。
生徒主体 全員参加	チャレンジ課題や個のレベルで課題に挑戦できるしかけを作るのはよい。生徒が自分にあった課題を選ぶことで主体的に取り組むことが可能になる。	チャレンジ課題や個のレベルで課題に挑戦できるしかけを作っているか。
生徒主体	ふり返りを書かせる時には、書く視点を明確にし、それについて書かせる。	「～について書きなさい」という指示を出して、生徒の書く内容のピントが合うようにしているか。
興味 感心	ipadの使用、おもしろい形の図形を使って考えさせるなどがおもしろかった。	生徒が挑戦してみたいと思うような課題やしかけを工夫しているか。

#### ○授業参観者（外部）の感想

- ・代表が前に出てヒントを見てつかんだことを他のメンバーに説明するのがよかった。（1年国語）
- ・絵を使うと、どんな生徒も見て書くことが可能なので、関心を持って授業に入ることができる。（同上）
- ・「全員が説明できる」という目標に向けて各生徒が高い意識を持って動いていた。得意な生徒が不十分な生徒に補足する場面もあり参加度が高かった。（3年数学）
- ・グループになると一人一人が自分の言葉でどンドン話していて協同的な学びの姿勢を感じた。（2年国語）
- ・生徒たちの授業に向かう姿勢がよかった。子供たち主体の授業で面白かった。（同上）
- ・3年生が5年間のゴールを理解してそれに向けて今の力を出そうとしているのがよかった。（3年英語）
- ・速読活動では、最後までとなりの仲間をサポートしようとしているペアがほとんどで、2人でまたはクラスできて喜ぶ姿がとてもよかった。（同上）
- ・既習事項を用いて表現方法を考えさせる言語活動や本時の学ぶべき表現方法を必要感を持ってしっかり組み込まれており、生徒は意欲的に学習に向かっていた。（2年英語）
- ・画像を集める、まとめる、発表する、などの役割り分担がはっきりとしていてよかった。（1年理科）
- ・生徒がよく話し合ったり意見交換をしていて、日頃の取り組みのよさが見えた。（1年数学）
- ・生徒が話し合えるしかけをたくさん用意されていたので、全員が授業参加していた。（1年数学）

### （3）過去の経緯も含めた成果と課題

#### 1）成果

○ペアを基盤とした学習を実施した生徒の感想より

- ・一人で勉強するより、安心して授業に参加できる。

- ・分からないときにすぐに友達に聞ける。
  - ・教えることで自分も勉強になるので一石二鳥。
  - ・協力してどんどん勉強できるのが楽しい。
- グループを基盤とした学習を実施した生徒の感想より
- ・4人で答え方を考えるのが楽しい。
  - ・困っている人に教えてあげたり、みんなで考えたりする時に勉強にとっても勉強になる。
  - ・同じグループの得意な人が言った英文を聞いて次は自分も同じように言ってみようなど、友達の答が参考にできる。
  - ・どの班もすばやく答えなければならないので慌てるけど、そのおかげでいつの間にか自分も速く答えられるようになっていた。
- 学校評価アンケートを見ると、生徒の班やペアでの教え合い学習への意欲が高まって来ている。
- 職員に対する協同学習と取り組みアンケートを見ると、協同学習に対する取り組みや挑戦の意識は高い。
- 小学校の先生方にもたびたび授業を見ていただき、「協同学習」の考え方を小中で共通意識できるようになりつつある。

## 2) 課題

- 毎年たくさんの異動があるので、全職員に「協同学習とはなにか」を十分に伝えることや、赴任してきた職員が理解することに時間がかかってしまう。
- 多忙な現状の中で、協同学習型の授業に挑戦するための教材研究時間の確保。
- 各教科で教科会を開いて授業作りを検討したいが、各教科の教員在籍人数は、多くても2人というのが現状で、多様なアイデアやサンプルを持ち寄るなどができない。

< 指導案 1 >

第 1 学年 2 組 社会科（地理的分野）学習指導案

平成 28 年 6 月 24 日（金） 第 3 限

場 所 1 年 2 組教室

指導者 吉村淳一・浦林一希（T2）

1 単元名 第 3 章 世界の諸地域 2 節ヨーロッパ州

2 単元目標

- ・日本との比較をまじえながら、ヨーロッパ州の自然環境や人々の生活に関心をもち、地理的特色を意欲的に追究しようとする。
- ・ヨーロッパ州の地位的特色を、そこに暮らす人々の生活のようすをもとに、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で説明することができる。
- ・文化の共通性と歴史的背景に着目し、EU 統合による人々の生活の変化と課題について理解し、その知識を身につけている。

3 単元指導計画（全 5 時）

- ・第 1 時 地形や気候などヨーロッパ州の国々の自然環境の基本的な特色を理解する。
- ・第 2 時 共通性や多様性に着目し、ヨーロッパ州の文化の基本的な特色を理解する。
- ・第 3 時 ヨーロッパ州の国境をこえた結びつきに着目し、人々の生活の変化を考える。
- ・第 4 時 ヨーロッパ州の農業の地域的特色と EU 統合による変化や課題を考える。（本時）
- ・第 5 時 ヨーロッパ州の工業の地域的特色と EU 統合による変化や課題を考える。

4 本時目標

ヨーロッパ州の農業の地域的特色と課題を考え、説明できる。

5 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	○支援と留意点	評価【観点】(方法)
1 小テスト実施と解答（視点①）	個人お よびペ ア	・前時までの学習を意欲的に振り返らせる	・前単元の学習内容の定着度を確かめる  【知・理】（小テスト）
ヨーロッパ州の農業の地域的特色と課題を考え、説明する			
3 グループごとの課題決定（視点②） 4 教科書音読	班 班隊形 で全体	○本時の4つの課題を示す ・自らのグループの課題を意識させ、教科書音読などを通して情報を得させる	
5 グループごとの課題について 発表意見の集約（視点①）	班	○各班の活動状況を確認し、適切な情報収集と集約を指示する ・メモ用プリントに個人の意見を書き留め、その後班内で発表意見を調整させる	
6 グループごとの課題に関する 意見発表（視点③）	班およ び全体	・意見が全体に正確に伝達されるように、正確な板書	

<p>(各グループ代表板書および代表発表)</p> <p>7 まとめと説明活動 (まとめの板書の書き取り) (本日学んだことを相手に説明)</p> <p>8 本時の振り返りと次時の予告</p>	<p>個人 ペア</p>	<p>と適切な発表に努めさせる ○小発問をまじえて、発表内容を補足する。 ・教科書、資料、ノートなどを活用しながら、本日の学習内容を説明させる。</p>	<p>・学習事項を振り返り、その内容を言葉で表現できる。 【思・判・表】(観察)</p>
--	------------------	--	--

6 評価 ヨーロッパ州の農業の地域的特色と課題を考え、自分の言葉で説明することができたか。

<指導案 2>

第2学年1組 英語科学習指導案

平成28年 6月24日(金) 第4限

場 所 2年1組教室

指導者 小原朋浩・ピーター ハレアス

- 1 単元名 POWER-UP③ Speaking 「電話①」 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)
- 2 単元目標
  - ・誘ったり、依頼したりする表現を身につけ、運用することができる。
  - ・電話で用いる定型表現を使ってオリジナルの会話文を作り、演じることができる。
- 3 単元指導計画 (全3時)
  - 第1時 教科書の電話の会話の内容を理解し、音声を意識してペアで演じる。(本時)
  - 第2時 誘ったり、依頼したりする表現を含んだ電話の会話文の原稿を作り、演じられるように練習する。
  - 第3時 電話の会話パフォーマンステスト
- 4 本時目標 ペアで協力して、電話の会話の内容を理解し、そのまま演じることができる。
- 5 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	支援と留意点	評価【観点】(方法)
1 歌	一斉		
2 読みトレ	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かい内容理解は求めない。</li> </ul>	
3 リテリング	ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったときにはペアに助けてもらってよいことにする。</li> </ul>	
4 Oral Introduction (視点②)	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の電話を使い、活動に興味をもたせる。</li> <li>・学びの価値を確認する。</li> </ul>	

めあての確認			
ペアで協力して、電話の会話をそのまま演じることができる。			
5 重要表現の説明・練習	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な使用場面を提示することで意味と用法の理解を促す。</li> <li>・自分で使ってみることで理解を深める。</li> </ul>	
6 単元、本時の流れの説明	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時と、今後の活動の見通しをもたせる。</li> <li>・パワーポイントを使い、視覚的にわかりやすいように工夫する。</li> </ul>	
7 内容理解	ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問に答えることで内容理解を確認する。</li> <li>・どこが間違っているか指摘せず、自分たち</li> </ul>	
8 ロールプレイ（視点①）	ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づかせる。</li> <li>・わからないときは友だちに聞いたりデジタル教科書を使ったりして自力で解決させる。</li> </ul>	電話の会話をそのまま演じることができている。 【知・理】（発表）
9 振り返りと次回の連絡	一斉 ペア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く終わったペアには次の課題を与える</li> <li>・家庭学習と次回の活動をつなげる。</li> </ul>	

6 評価 ペアで協力して、電話の会話の内容を理解し、そのまま演じることができたか。

### <指導案 3>

#### 第1学年保健体育科 学習指導案

平成 28 年 6 月 24 日（金） 第 5 限

場 所 体育館

指導者 小林 洋輔

1 単元名 ダンス

2 単元設定の理由

本単元は「フォークダンス」「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることをねらいとしている。仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることによって楽しさや喜びを味わうことができると考えられている。

本学年の生徒は、明るく元気で体育の授業に意欲的に取り組む生徒が多く、課題解決の場面でも男女関係なく話し合いをすることができる。本校では「フォークダンス」「創作ダンス」「リズムダンス」を取り上げ3年間指導にあたっている。生徒たちは小学校の体育の授業でダンスの経験は少なく、日常的にダンスに接する機会も少ないが、9月に行われる運動会では、学年縦割りの応援合戦で3年生がつくったリズムダンスを踊ることもあり、そのきっかけとして簡単なリズムダンスや動きづくりを通して踊りに慣れさせておきたい。

指導にあたっては、準備運動に簡単なリズムダンスを振り付け、誰でも楽しく踊れるということを感じさせ

たい。また 1 年生の初めの段階として、即興的な小作品を創ることを心がけたい。授業の流れとしては、「①真似をして動く、②作って動く、③つないで見せる」を 1 時間の基本として生徒たちが動きやすい流れにし、身近なものを題材として取り上げることで心を開放出来るようにしたい。また、自分たちのグループだけでなく他のグループと交流し、誰とでも楽しく活動できるようにしたい。

### 3 単元目標

#### 【関心・意欲・態度】

リズムに合わせて踊ったり、表現したりすることの心地よさを味わうことによって、進んで踊りを楽しもうとする。

また、互いの動きのよさや表現の良さなどを認め合い、よりよい動きづくりのために仲間と協力し、進んで練習したり発表したりする。

#### 【思考・判断】

自分や仲間の動きについて、確認し合ったり意見を出しあったりしながら学習課題を工夫できるようにする。

#### 【技能】

多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化をつけて即興的に表現することやまとまりのある表現や感じを込めた表現ができるようにする。

#### 【知識・理解】

ダンスの特性や表現の仕方、関連して高まる体力について理解する。

### 4 単元の評価基準

運動への関心・意欲 ・態度	運動についての思考 ・判断	運動の技能	運動についての知識 ・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体全体を使って動いたり、楽しさを味わおうとしたりしている。</li> <li>・お互いの良さを認め合い、協力して練習したり発表したりしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班や自分に適した課題を持ち、見せ合ったり成果を確認し合ったりしながら練習している。</li> <li>・学習カードの記録を練習に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って体全体で動くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの名称や用語、ステップを理解することができる。</li> <li>・ダンスの発表の仕方や工夫された動きの鑑賞の仕方を知っている。</li> </ul>

### 5 指導と評価の計画

学習内容	時間	学習活動の評価基準			
		運動への関心 意欲・態度	運動について の思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・フォークダンス 「オクラホマミキサー」</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく踊ろうとする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を大きく使って踊っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなダンスの種類を知っている。</li> </ul>



リズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑事と泥棒</li> <li>・ロボット操縦</li> <li>・「新聞」</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しんで動いている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせて動くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動きの作り方を理解している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑事と泥棒</li> <li>・ロボット操縦</li> <li>・「新聞」</li> <li>・「鏡」</li> <li>・即興創作</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の動きを認め合って動いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマからイメージし、まとまりのある動きになるよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の動きを仲間に表示することができる</li> <li>・仲間の動きを見て動くことができる。</li> </ul>	
ムダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即興創作「スポーツいろいろ」</li> </ul>	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間と協力しながら動きを工夫したり感じを込めて動いたりしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体全体を使ってイメージが伝わるように動くことができる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品作り「珍プレー好プレー」</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に対応した動きを作ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で動きを見せ合ったり確かめ合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に対応して動くことができる。</li> </ul>	
ス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品作り(動きのつながり)</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の動きを大事にし、協力して練習に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の反省を生かして練習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間や盛り上がりを意識して動くことができる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の成果を出そうと、仲間と協力して発表している</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの発表の仕方や、鑑賞の仕方を理解している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会のビデオ鑑賞をしながら学習のまとめをする</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫された動きについて進んで意見を発表しようとしている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫された動きの鑑賞の仕方を理解している。</li> </ul>

## 6 本時の目標

- ・仲間と協力しながら動きを工夫したり、感じを込めて動いたりしている。【関心・意欲・態度】
- ・体全体を使って、イメージが伝わるように動くことができる。【技能】

## 7 準備物 CDデッキ 学習カード 筆記用具

## 8 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	支援と留意点	評価【観点】 (方法)
1. 集合 整列 挨拶 ・出席確認  2. 本時のねらいの確認	一斉  一斉	・体調不良の生徒や、見学の生徒の確認・指示をしっかりと行う。 ・大きな声で挨拶をさせる。 ・活動内容を知らせる。 ・前時までの動きを思い出しながら、テーマに沿った動き作りをすることを伝える。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             イメージが伝わるよう体全体を使って表現することができる。           </div>			
3. ウォーミングアップ (視点②) ・刑事と泥棒 (関わり合って動く)  ・新聞 (ものに対応して動く)  4. 動き作り (視点①) ・スポーツの一場面を表現  5. 「スポーツいろいろ」 (視点③) ・テーマ(オリンピック)に合わせた動き作り  6. 学習カードの記入	一斉  二人組  二人組～グループ  グループ  個人	・しっかり走り、動きがスムーズに行えるようにさせる。 ・楽しい雰囲気で行えるよう声掛けをする。 (ルパン対銭形…ルパン一家4人を捕えたら銭形の勝ち) ・ルパン一家の動きを分かりやすく表現させる。 ・体全体を使って動いている組を取り上げ、全体に広める。 ・他の組の真似をしてよいことを伝える。 ・体全体を使って、楽しみながら動くよう声掛けをする。 ・グループになって発表させる。 ・前時までの動きを思い出して動きを考えさせる。 ・相手にイメージが伝わるように動くことができる。 ・グループごとに発表させる。 ・それぞれのグループの動きで工夫されたところやイメージがうまく表れているところを確かめさせる。 ・自己評価とその理由を学習カードに記入する。 ・相手にイメージを伝える動きについて振り返らせる。	・意欲的に体全体を使って動いている。 <b>【技】(観察)</b> ・イメージが伝わるよう感じを込めて動いている。 <b>【技】(観察)</b> ・仲間と協力しテーマに沿った表現をしようとしている。 <b>【関・意・態】(観察)</b>

## 9. 評価

- ・仲間と協力しながら動きを工夫したり、感じを込めて動いたりすることができたか。
- ・体全体を使ってイメージが伝わるように動くことができたか。



<指導案 4>

第3学年1組 英語科学習指導案

平成29年1月26日(木) 第3限

場所 3年1組教室

指導者 隠樹恭衣・ピーター ハレアス

- 1 単元名 Special Project 「卒業にむけて一思いを伝えよう」  
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)
- 2 単元目標
  - ・教科書のモデル文を読み、その構成や内容を理解できる。
  - ・マッピングを使って思考や構想を整理し、英語を駆使して説明し合うことができる。
  - ・小中学校5年間の英語学習の集大成として卒業メッセージを書き、発表することができる。
- 3 単元指導計画(全8時間)
  - 第1時 単元の価値を知る。教科書のモデル文A、Bを読み印象に残った部分を伝え合う。
  - 第2時 教科書のモデル文C、Dを読み、印象に残った部分を伝え合う。
  - 第3時 自分が書いてみたいことをマッピングにより整理する。
  - 第4時 それぞれのマッピングをペアで説明しあう。(本時)
  - 第5時 マッピングをもとに英文を書く。
  - 第6時 英文を完成させる。
  - 第7時 ペアで発表練習を行い、より伝わる発表ができるようにアドバイスし合う。
  - 第8時 発表会で鑑賞し合い、違いや共感できるポイントを探す。
- 4 本時目標 全員が自分のマッピングをできる限り英語を使ってパートナーに説明する。
- 5 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	支援と留意点	評価【観点】(方法)
1 英語の歌	一斉		
2 1 minute talking (視点①③)	ペア	文法のエラーは気にさせない。	
3 Group Q and A (視点①③)	班	全員に1回は答える機会を作る。班内で支援し合ってよいとする。	
4 じゃれマガ(視点①②)			
全員が自分のマッピングをできる限り英語を使ってパートナーに説明することができる。			
5 今日の授業のめあてと流れを確認する。	一斉		
6 縦ペアに自分のマッピングを英語で説明する。(視点①③)	ペア	しゃべり出しの表現や、便利な表現を活動前にいくつか確認をする。	英語を使って説明することができたか。 【関・意・態】 (観察)
7 6で聞いたことを自分の元ペ	班		

ア（横ペア）に説明する。（視点 ①③）	個人		（振り返りカード）
8 振り返りカードを書く。	一斉		
9 次時の確認をする。			

6 評価 自分のマッピングをできる限り英語を使ってパートナーに説明することができたか。

### <指導案 5>

#### 第1学年2組 数学科学習指導案

平成29年1月26日（木） 第5限

場 所 1年2組教室

指導者 高濱健太

#### 1 単元名 平面図形 図形の移動

#### 2 単元設定の理由

算数科の「図形」領域においては、ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにし、基本的な平面図形や立体図形について理解できるようにしている。さらに、様々な図形の名称や合同、縮図や拡大図について理解してきている。このように、図形の構成要素、それらの相等や位置関係を考察することにより、図形の見方を豊かにしてきている。

そこで、数学科としての「図形」領域では、平面図形の対称性に着目することで見直しをもって作図し、作図方法を具体的な場面で活用する学習を通して、平面図形についての理解を深め、直観的な見方や考え方を養うとともに、論理的に考察し表現する能力を培うことをねらいとしている。また、図形の移動について理解し、移動の見方から二つの図形の関係について調べることを通して、図形に関する見方を一層豊かにすることをねらいとしている。本単元の内容は、第2学年における図形と証明の学習につながる重要な学習内容である。

本学級の生徒は、授業に積極的に取り組むことができ、ペア学習やグループ学習などにおいても関わり合いながらその理解を深めようとする姿勢が見られる。ただし、宿題などの課題に対する意識が低く、学習の定着には至っていないことが課題である。

指導にあたっては、既習事項である図形の移動をどのように利用して2つの図形の関係性を考えたのかを相手に分かるように説明する活動を取り入れる。自分の意見や考えを、自分の言葉で相手に伝える機会を多く設定していきたい。そのためには、既習事項の内容が生徒の中に定着していること、他者の様々な意見や考えに触れ、自分の考えを振り返る機会を設定することが必要である。したがって、ペア学習やグループ学習の中で互いにアドバイスをし、自分の考えを自信を持って自分の言葉で伝えることができるようにしていきたい。

#### 3 単元目標

- ・直線、線分、角の意味や表し方を理解するとともに、垂直、平行などについて理解する。
- ・図形の移動の意味と、その性質について理解する。
- ・基本的な作図のしかたについて理解し、それを利用することができるようにする。
- ・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができるようにする。

#### 4 単元指導計画

	指導内容	◆ねらい ○学習活動	評価 規準	評価方法
第 1 次 ⑥	直線と角  図形の移動 (本時 6/6)	◆直線、線分、角の意味や表し方を理解するとともに、垂直、平行などについて理解する。 ○直線や線分、2点間の距離の意味、角の意味と表し方を理解する。 ◆図形の移動の意味と、その性質を理解する。 ○平行移動の意味とその性質を理解する。 ○回転移動の意味とその性質を理解する。 ○対称移動の意味とその性質を理解する。	ア①  ウ① エ①	《ワークシート》 《観察》  《ワークシート》 《観察》
第 2 次 ③	基本の作図	◆基本的な作図のしかたについて理解し、それを利用することができるようになる。 ○線分の垂直二等分線を作図する。 ○角の二等分線を作図する。 ○垂線を作図する。	ア② イ①	《ワークシート》 《観察》
第 3 次 ⑤	円とおうぎ形の性質  円とおうぎ形の計量	◆円やおうぎ形についての基本的な用語の意味を知り、その表し方を理解するとともに、おうぎ形の中心角と弧の長さ、中心角と面積の関係について理解する。 ○円の弧と弦の意味と表し方を理解する。 ◆おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができるようにする。 ○ $\pi$ の意味と $\pi$ を使った円の周の長さや面積の求め方を理解する。 ○おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を理解する。	エ②  ウ②	《ワークシート》 《観察》  《ワークシート》 《観察》

#### 5 本時目標

合同な三角形を敷き詰めた模様を観察し、その中の二つの三角形が重なりあうことを移動を使って説明できる。

#### 6 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	支援と留意点	評価【観点】(方法)
1 前時までの学習内容を振り返る。 * 下に示す課題を提示	一斉	3種類の移動の方法について確認させる。	
2つの三角形がぴったり重なることを移動を使って全員が説明することができる			
2 個人で考える	個人		
3 グループで集まり、思考	グルー	班のメンバーにわかりやすく伝えられ	【関心意欲態】

<p>を深める。(視点①)</p> <p>4 専門家チームでまとめた意見を整理し、元の班員に簡潔に伝える。(視点③)</p> <p>5 まとめ</p> <p>6 日本の伝統文様を知る。</p> <p>7. 評価</p>	<p>ブ</p> <p>班</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>るように相談させる。</p> <p>できる生徒には模型を使用しながら、キーワードも使って説明させる。</p> <p>難しい生徒には模型を使ってでもよいので動かして説明させる。</p> <p>1つの移動の方法だけに固定せず、他の移動の方法もあることで様々な思考に触れさせる。</p> <p>図形は2つ以上の移動を組み合わせればどんな位置にも移動させることができることを確認する。</p> <p>伝統文様の中の移動を考えさせる。</p> <p>2つの三角形がぴったり重なることを移動を使って全員が説明することができたか。</p>	<p>度】</p> <p>(ワークシート)</p> <p>【技能】</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
<p>課題：ア～シのすべての三角形は合同です。</p> <p>アの三角形は移動させるとイ～シすべての三角形に重なるでしょうか？</p> <p>&lt;話型&gt; アと□はぴったり重なります。</p> <p>理由</p> <p>チャレンジ！！理由の部分に使おう</p> <p>対称の軸、回転の中心、○度回転させる、対応する点など</p>			

7 評価

ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについての知識・理解
<p>①身のまわりにある形や模様に関心をもち、図形の性質を調べようとする。</p> <p>②基本的な作図に関心をもち、その方法を考えたり、問題の解決に生かしたりしようとする。</p>	<p>①角の二等分線などの基本的な作図の方法を、図形の対称性に着目したり、図形を決定する要素に着目して、見通しをもって考えることができる。</p>	<p>①定規やコンパスなどを使って、図形を平行移動したり、対称移動したり、回転移動したりできる。</p> <p>②円の周の長さや面積を利用して、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。</p>	<p>①平行移動、対称移動及び回転移動の意味を理解している。</p> <p>②円の半径と接線との関係や弧や弦の意味を理解している。</p>

### 3 南部町立南部中学校



## 1. はじめに

### (1) 本校の協同学習への取り組みの経過

平成 24 年度より、めざす生徒像を「自律と共生」として、学校経営の「グランドデザイン」を作成し、「協同学習」や「学校組織マネジメント」の理念や手法を取り入れると共に、平成 21 年度に文科省の指定を受けた「コミュニティ・スクール」実現に向けて、地域と協働する学校づくりを進めてきた。

平成 28 年度の本校の全体研究テーマは「つながり合い 語り合い 学び合い～自ら、仲間と、勇気を持って～」。今年度は、協同学習をより浸透させることを目的として、ピア・サポートと SEL（社会性と情動の学習）を取り入れ、友達との関わり方のスキル獲得の訓練を行い、協同学習をより推進できる環境づくりを目指してきた。

### (2) 本校の実態

鳥取県西伯郡南部町立南部中学校は、生徒数 105 人、通常学級 5、特別支援学級 2、計 7 学級の小規模校である。本校生徒の特長として、全体的に素直な生徒が多い。1 年生は、物事を持続してやり遂げることが苦手で、幼さからくる友達同士の関わりが希薄などところがある。2 年生は、前向きに取り組もうとするが、全員が一致団結して同じ目標に向かおうとする意識の高さはまだ育っていない。3 年生は仲間意識が高く、互惠の人間関係ができています。学校のリーダーとしての意識も高く、しっかりと下級生を引っ張っていく力量がある。学年が上になるにつれて協同的な取り組みが成り立っている状態である。

## 2. 今年度の取り組み

### (1) 生徒の取り組み

本校が行っている教育活動の特長として、交流活動がある。体育祭や学習の教え合い（チャレンジタイム）、毎日の清掃などは、異学年でチームを作り、一緒に活動している。また、水曜日の放課後の時間を使った学級内での学び合い（トライタイム）を行ったり、土曜開校日に小中学生が合同でグループに分かれて地域を散策したりするなど、同学年、異学年、異校種間で関わり場を多く設けている。これらの活動を通して、下級生は模範的な姿を学び、上級生はリーダーとしての自覚を深め、共に成長することをねらっている。

授業では、「めあて」「学び時計」を実行し、学び合いの場面では、教師は生徒の繋ぎ役に徹する。単元内の軽重を設定しておく、必ず個に返して振り返りをさせる。生徒自らの動きを授業の中につくり、学級では「学びのゴール」をつくっている（年 2 回）。

## (2) 職員の主な研修

- ① 4月 5日 火 第1回校内研究職員会（本校の研究体制ならびに協同学習について）
- ② 6月 23日 木 杉江修治先生 第1回授業研究会実施 ※別紙
- ③ 7月 1日 金 総社市だれもが行きたくなる学校づくり研修会参加
- ④ 7月 20日 水 1学期反省職員会（1学期の振り返りと次の一手）
- ⑤ 10月 25日 火 総社市だれもが行きたくなる学校づくり研修会参加
- ⑥ 11月 7日 月 赤坂真二先生「クラス会議について」講習会実施
- ⑦ 11月 7日 月 ～11月 18日（金）授業参観週間実施
- ⑧ 11月 9日 水 職員会議（協同学習に関する補足と職員のイメージ化）
- ⑨ 12月 26日 月 菱田準子先生「ピア・サポートについて」講習会実施
- ⑩ 2月 1日 水 小中連携指導案検討会実施
- ⑪ 2月 14日 火 多田孝志先生 第2回授業研究会実施 ※別紙
- ⑫ 3月 3日 金 総社市だれもが行きたくなる学校づくり研修会参加

## 3. まとめ

### (1) 学校評価アンケート結果

※別掲

### (2) 成果と課題

#### 1) 成果

学校評価アンケートにおいて、研究に係る質問内容の中から1、2学期を比較して10%を超える変化が見られるものについて分析した。

#### 1年生

- ・「私は、授業中クラスやグループの中で「わからない」や「教えて」が言えた」+10.6%
- ・「私は、自分に分担された仕事を責任をもって行った」+10.5%
- ・「私は、困っているとき、悩んでいるとき、相談できる人がいる」+13.1%

1年生は、協同学習が成立しているわけではないが、協同することの大切さやよさは感じてきている。また、精神的な成長も見られるようになってきた。

#### 3年生

- ・「私は、人が仕事ができている時にフォローできた。」+10.5%

3年生は、互恵的人間関係ができており、みんなの力が必要になることを体験してきている。「2. 今年度の取り組み」の「(1) 生徒の取り組み」にある活動においても、常に学校のリーダーとして、下級生をまとめ育てる意識を持って関わることができていた。

## 2) 課題

### 1年生

- ・「私は、自分の将来や夢について考えることがあった。」－10.5%
- ・「私は、先生方は、私たちのことをよく見ていると思う。」－13.2%

1年生は、ほぼ小学校のメンバーのまま入学しており、人間関係が固定化している。そのため、言っても無駄、やっても無理、というあきらめや、周りと関わらずにひとりで頑張ろうという考え方が固定化されており、その人間関係や考え方を変えることの難しさを感じている。ただ、成果にあるような変化も見られるので、協同学習への取り組みは継続していく。なお、「よく見ている」については、自立を促すために意図的に手厚い指導を控えたことが影響していると考えられる。

### 2年生

- ・「私は、先生や友達の方を見て、最後まで話を集中して聞くことができた。」－10.6%
- ・「私は、各教科の授業内容がわかっ(理解でき)た。」－13.4%
- ・「私は、1時間ごとの授業のめあてがわかって学習に取り組めた。」－13.4%

2年生は、教員の指導力に関する課題が多く、教員へは研修強化、生徒へは協同学習を推進することによって授業内容の理解を深める、などの対応が必要である。

### 3年生

- ・「私は、各教科で2分前(チャイム前)活動ができた。」－23.5%

これは、本校の学習規律の内容になるが、ここまで下がった要因として、もともと時間に関する意識の低さに加え、入試へ意識が集中してしまったために、さらに時間が意識されなくなったことが考えられる。

## <指導案1>

### 第3学年A組 理科学習指導案

日 時 平成28年6月23日(木)5限  
場 所 3年A組教室  
指導者 前田 尚輝

#### 1. 単元名 化学変化とイオン

#### 2. 単元の設定理

##### (1) 教材観

イオンの学習内容は、2年生で学習した原子・分子や電流の単元と密接に結びついている。また、私たちの生活のなかにもイオンという言葉を用いた物がたくさんあり、身近なものである。しかしながら、身近によく聞く言葉であるにも関わらず、実際に言葉で説明することが難しく、どのようなものかイメージを持ちづらい。そこで本単元では、1、2年生で学習した物質概念のまとめとして、電解質水溶液をイオンに着目して、微視的・電氣的な見方、考え方を形成していくことがねらいである。

本単元は、大きく2つの章で構成されている。第1章では、水溶液の電気伝導性や電気分解の実験を行い、その実験結果から、イオンの概念を形成させる。また、電池の仕組みの学習を通して、形成したイオンの概念を活用し、イオンは電子と深い関係性があることを理解させる。第2章では、酸・アルカリの性質や中和の実験の結果をイオンのモデルと結びつけて考え、目に見えないものを考えることで科学的思考力を身につけさせる。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、男子12名、女子14名、合計26名の学級である。実態としては、教員からの説明をしっかりと聞いたり、集中して問題に取り組んだりすることができる生徒が多く見られる。また、観察や実験といった科学的な事象に対する興味が高く、活動的なことに対する興味や関心は高い。

一方で、学力が高位の生徒と低位の生徒が混在しており、主に高位の生徒が中心となって学習を進めてしまい、低位の生徒が学習を理解しきれないことがある。また、班活動で学習内容を理解している生徒が理解していない生徒に対して誰にでも教えようとする姿勢はあまり見られない。そこで、授業の中で生徒同士が学び合う場面を取り入れながら、生徒同士の関わり合いの中で、誰にでも教えようとする姿勢を身につけるとともに、低学力の生徒に対する学習への理解を深めさせたい。

## (3) 指導観

以上で述べた単元観と生徒観を踏まえて、本単元では、実験や観察、モデルを用いた映像を見せることを通して、生徒の学習に対する関心や意欲を高めていきたい。また、本校が取り組んでいる協同学習の視点を参考にしながら、生徒同士が関わり合いながら学び合っていく学習態度を身に付けさせて、学習に対する理解を深めさせたい。そして、目に見えない現象について意見を交わしながら理解を深めることで、科学的思考力を養っていきたい。

## 3. 指導目標（観点）

### (1) 関心・意欲・態度

イオンや電池、酸・アルカリに関わる事物・現象に進んで関わり、それらを科学的に探究するとともに、自然環境の保全に寄与しようとする。

### (2) 科学的な思考・表現

イオンや電池、酸・アルカリに関する事物・現象の中に問題を見出し、目的意識を持って観察・実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現している。

### (3) 観察・実験の技能

イオンや電池、酸・アルカリに関する事物・現象についての観察・実験の基本操作を習得するとともに、観察・実験結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。

### (4) 自然事象についての知識・理解

観察や実験などを行い、イオンや電池、酸・アルカリに関する事物・現象について基本的な概念や規則性を理解し、知識を身に付けている。

#### 4. 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような水溶液が電流を通すか興味を示し、電流を通す水溶液に共通して観察されることを進んで調べようとする。</li> <li>・他の班の実験結果にも興味を示し、意欲的に結果の発表を聞くことができる。</li> <li>・電気分解の実験に興味を示し、電極で見られる変化のしくみを進んで調べようとする。</li> <li>・原子が電気を帯びた粒子になっていることに興味を示し、原子が電気を帯びるしくみを進んで調べようとする。</li> <li>・電池の実験に興味を示し、進んで電池の作りを調べようとしている。</li> <li>・電池から取り出される電流に影響を与えるものを調べる実験に興味を示し、進んで調べようとしている。</li> <li>・いろいろな電池が日常生活で利用されていることに興味を持ち、それぞれの電池の特徴について調べようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電流を通す水溶液に電流を通したときに、電極付近で化学変化が起こることを説明することができる。</li> <li>・実験結果から、塩化銅水溶液中では、銅原子は電気を帯びた粒子になっていることを推論し、説明することができる。</li> <li>・実験結果から、塩酸中では、塩素原子は一の電気を帯びた粒子になっていることを推論し、説明している。</li> <li>・実験結果から、電池は化学エネルギーに変換していることを見出し、説明している。</li> <li>・電池のしくみをイオンのでき方と関連させて考察し、説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような水溶液が電流を通すか調べる実験を、正しく安全に行うことができる。</li> <li>・塩酸に電流を通し、電極付近で発生する気体が何であるか調べる実験を、正しく安全に行うことができる。</li> <li>・電池をつくり、電気エネルギーを取り出す実験を、正しく安全に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電解質、非電解質について理解し、それぞれの物質の例をあげることができる。</li> <li>・塩酸や塩化銅水溶液に電流を通したとき、両極に生じる物質が何であるか理解する。</li> <li>・原子の構造を知り、原子が電氣的に中性である理由を説明する。</li> <li>・原子がどのようにして陽イオンや陰イオンになるかそのしくみを理解する。</li> <li>・イオン式の書き方が分かり、代表的なイオンをイオン式で表す。</li> <li>・電離について理解し、電離の様子を化学式とイオン式を使って表す。</li> <li>・電池の仕組みを電極での変化を中心に説明することができる。</li> </ul>

#### 5. 単元の指導計画 (全 24 時間)

- 水溶液にすると電流を通す物質 (3 時間)
- 電解質の水溶液に電流を通したときの変化 (3 時間)
- 水溶液中での電解質の粒子 (3 時間)
- 電池のしくみ (4 時間) 4/4 本時
- 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 (2 時間)
- 酸性やアルカリ性の正体 (2 時間)
- 酸性・アルカリ性の強さ (2 時間)
- 酸とアルカリを混ぜたときの変化 (3 時間)
- イオンで考える中和 (2 時間)

## 6. 本時目標と具体的な評価基準

・水の電気分解を「イオン」を使って説明できる。(科学的な思考・表現)

A基準	B基準	Bに至らない生徒への指導
班での話し合いをもとに、イオン化傾向と図を用いてまとめ、説明を作ることができる。	班での話し合いをもとに、イオン化傾向を用いてまとめ、説明を作ることができる。	イオン化傾向をもとに、水の電気分解で動きのあるイオンを見出し、電子との動きを確認させる。

## 7. 準備

ワークシート、ヒントカード (2~3人で1枚)、タブレット端末 (2~3人で1台)、ホワイトボード、電気分解装置を拡大印刷した用紙、議論で使うカード ( $\text{Na}^+$ 、 $\text{OH}^-$ 、 $\text{H}^+$ 、 $\text{H}_2\text{O}$ 、 $\text{NaOH}$ 、電子のカード)

## 8. 本時の目標

教科目標 【教科学習のめあて】	水の電気分解を「イオン」を使って説明できる。
態度目標 【協同学習のめあて】	それぞれのグループに与えられたヒントをしっかりと理解して班に持ち帰り、自分の班で自分が担当したヒントの説明を班の全員に報告することができる。

## 9. 本時の学習過程

時間の目安	生徒の学習活動	指導上の留意点・予想される生徒の様子	形態	評価規準
3分	1 電気分解の復習をする。	・水溶液に溶かしたものが陰極と陽極に発生することを確認。	一 斉	
1分	2 本時目標の確認をする。			
「水酸化ナトリウム水溶液では、本当に水が電気分解されているのか？」 水の電気分解を「イオン」を使って一人一人が説明できる。				
5分	3 学習の見通し(流れ・手順)		一 斉	
つかむ	①生活班の中で1~4の番号を振り分ける。 ②分担班ごとにヒントとなるカードや動画を見て、理解し、まとめる。 ③分担班で得た情報を、自分の班に持ち帰り、水の電気分解の仕組みについてカードを使いながら話し合う。 ④早く終わった班から、時計回りに班内で順番に説明をしていき、正しい説明ができていないか確認し合う。			
10分	4 4つの分担班に分かれ	・分担班に分かれてから、ヒ		

	て、分担班ごとに与えられたヒントカードに書かれた意味を考え、ワークシートにまとめる。	ントシートと議論で使うカードを配布する。	分担班	
17分 深める	5 全員が自分の生活班に戻り、自分が担当したヒントの説明を1番から順に行う。その後、4つの意見を合わせながら、水の電気分解の仕組みについてカードを使いながら話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手く説明できない生徒については、他の班の班員に行っても良いこととする。</li> <li>・時間が余った班があれば、班でまとめた考えを班長から順に時計回りに説明し合う。</li> </ul>	生活班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分担班でまとめたポイントを班員に伝えることができるか。</li> </ul> <b>【態度目標】</b>
10分 まとめる 5分	6 一人一人がワークシートに水の電気分解の仕組みを図や文章を使って説明を作る。 7 1人を指名し、黒板を使って説明させ、水の電気分解の仕組みを確認する。		一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班でまとめた意見を理解して個人の力で説明することができるか。</li> </ul> <b>【科学的な思考・表現】</b>

### ワークシート様式

『水の電気分解』は本当に水を分解しているのだろうか

氏名

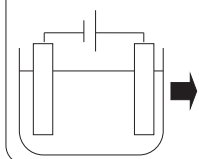
～復習～ 今まで学習した電気分解

電気を流した水溶液は？	陽極で発生する物質は？	陰極で発生する物質は？
①塩化銅水溶液		
②塩酸		

⇒つまり、電気分解は( )がイオンとなって分解される。  
 では、2年生で行った『水の電気分解』はどうだろうか？水に固体の水酸化ナトリウムを溶かすと、水酸化ナトリウム水溶液となる。これは純粋な水ではないが、電気分解すると陽極には( )、陰極には( )が発生した。その仕組みをイオンを使って説明してみよう。

分担班メモ欄（ポイントをしぼってメモしよう）

水酸化ナトリウム水溶液に電流を流すと何が起きているか？図を用いて、説明文を作ろう。（個人思考）



## <指導案 2>

### 第2学年B組 保健体育科学習指導案

日 時 平成 29 年 2 月 14 日 (火) 5 限

場 所 体育館

指導者 砂流 康治

#### 1 単元名 「バスケットボール」

#### 2 単元設定の理由

バスケットボールは、スピード感あふれる球技であり、多彩な動きと変化への敏感な対応、そして頭脳の判断が要求される。チームで攻撃と防御の作戦を立てるおもしろさを体験し、それが成功したときの喜びをチーム全員で分かち合うことができる。

2 年生は、全員が 1 年時から授業の中でバスケットボールを経験しており、シュート、ドリブル、パスなど、基本的なことは少しずつ定着してきている。授業に対しては体育全般を通してほとんどの生徒が積極的である。本学級の生徒は、男子 8 名、女子 11 名 (計 19 名) であるが、男女仲がよく、球技スポーツを行うにあたって共修することは全く問題ないと考えている。現在、男子 1 名の生徒が腕を骨折しており、見学のため配慮を要する。

指導にあたっては、練習した個人技、とりわけレイアップシュートをゲームの中で生かすことができるように、学び合いや課題設定に工夫を加えるなどしていきたい。そして、生徒がひとつの目標に向かって進んで自己の役割を果たすよう協力の精神や勝敗に対する公正な態度を身につけさせ、また、安全面についての配慮も十分に考えさせたい。

#### 3 単元の目標 [観点]

- ・学習課題を意識して安全に留意しながら練習や試合をしようとしている。[関心・意欲・態度]
- ・練習や試合で自分やチームの力を向上させるための方法を考え選択できる。[思考・判断]
- ・個人的技能 (シュート・ドリブル・パス) と集団的技能 (役割、声かけ等) を身につけ、練習や試合の中で活かすことができる。[技能]
- ・競技独自の特性を知り、基本的なルールや競技の楽しみ方について理解する。[知識・理解]

#### 4 単元の評価規準

※別紙 (1) 「評価規準」の通り

#### 5 単元の指導計画 (全 12 時間 本時 9/12)

- 1) ルールと用語の確認
- 2) 基本的なボール操作
- 3) ドリブルと走りながらのシュート練習
- 4) パス、静止からのシュート練習
- 5) 動きながらのパス練習と既習内容の確認
- 6) 仲間と連携したパス練習
- 7) 正確なパスと空間を意識した動きの練習



- 8) 空間を意識したゴールに迫る練習
- 9) 試合の行い方の理解と実践（本時）
- 10) 習得した技能や戦術を生かしたゲーム
- 11) チームの課題を意識した作戦の練り合い
- 12) ゲームを通してバスケットボールの魅力に迫る

6 本時の目標

- 教科学習のめあて
  - ・試合の行い方を正しく理解し、実践できる。
- 関わり合い（行動）のめあて
  - ・チーム全員で作戦を立てることができる。

7 本時の学習過程と評価（二重囲み線内は本時目標）

時間の目安	生徒の学習活動	指導上の留意点・予想される生徒の様子	形態	評価規準[観点]
3分	○前時の振り返り	・ボードを使用し、学習内容を思い出させる。	一斉	
2分	○本時目標の確認		個人	
2分	○ペアでパスの基本を練習する。	・ペアが作れない場合、チーム関係なく3人組でもよいことを伝える。	ペア	
5分	○課題把握		一斉	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なルールや競技の楽しみ方を正しく理解し、試合の中で実践する。</li> <li>・他のチームも意識しながら、チーム内で立てた目標を共有し、挑戦する。</li> </ul> </div>				
6分	○チームごとに作戦を立てながら目標を共有する。	○チーム全員が話し合いに参加できているかを確認し、できていない生徒には声かけをする。	班	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム全員で作戦を立てながら目標を共有している。</li> <li>[思考・判断]</li> <li>・基本的なルールや競技の楽しみ方を正しく理解し、実践している。[知識・理解]</li> </ul>
24分	○試合の流れを理解してチームごとに活動し、他チームとも連携することができる。	○提示された対戦表やルールを確認しながら動いているか、チーム内で連携がとれているかなどを確認し、できていないチームにはリーダーに声かけをする。	一斉	
8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題をチームで振り返る。</li> <li>・個人で学習課題を振り返りながら、単元シートに感想を記入する。</li> </ul>	・何名かの生徒をピックアップして感想を発表させる。	班  個人	

保健体育科 第1、2学年 評価規準表  
球 技 (バスケットボール)

評価場面	具体的評価目標 (規準)	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	(C) の生徒に対する手立て
<p>・運動の特性や意識、ねらい等の学習内容や進め方を知る場面。(学習カード・行動観察・発言)</p>	<p>関① 試合の進め方や練習方法、チーム編成に関心をもち、意欲的に取り組む。</p> <p>関② 練習や試合に必要な施設や用具を確認・点検する。</p>	<p>・学習カードや資料に関心を示し、練習方法やチーム編成に積極的に発言をまとめている。</p> <p>・係分担の責任を十分に果たし、すんだ施設や用具の点検をしている。</p>	<p>・学習カードや資料に関心を示し、練習方法やチーム編成に発言をする。</p> <p>・係の責任を果たし、施設や用具の準備をしている。</p>	<p>・適切な声かけを行う。</p>
<p>・授業の準備や準備運動の場面。(行動観察・学習カード)</p>	<p>思① 体力向上に結びつくトレーニングをすることができ</p>	<p>・自己の体力を理解し、体力向上の運動を工夫できる。</p>	<p>・自己の体力を理解し、学習資料から適切な運動を選択できる。</p>	<p>・目的の再確認を促す。</p> <p>・個別指導を行う。</p>
<p>・練習や試合を行っている場面。(行動観察・学習カード・発言)</p>	<p>関③ 規則を守り、審判の判定に従ってプレーしようとする。</p> <p>技① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができ</p> <p>技② マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p>	<p>・審判の判定に従い、自らも常に公正・公平の観点に立った判断をしてプレーしている。</p> <p>・守備者がいない位置、ボールを受け取りやすい位置へ動いてシュートすることができる。</p> <p>・場面に応じて、マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p>	<p>・審判の判定に従い、公平・公正な態度でプレーしている。</p> <p>・守備者の数が少ない位置に動いてシュートが打つことができる。</p> <p>・マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p>	<p>・個別に具体的に指導する。</p>
<p>・練習計画や練習・試合の反省を行う場面。(学習カード・発言・感想文)</p>	<p>思② 試合や練習を反省し、チームの現状を捉えられる。</p> <p>思③ ルールを守り、ゲーム場面で有効な速い攻撃の作戦を立てることができ</p>	<p>・チームの良い点や欠点を的確に発言し、課題を設定することができ</p> <p>・チームのルールや規則を守り、チームの特徴を出す作戦を考えることができる。</p>	<p>・チームの良い点や欠点について的確な意見を発言することができ</p> <p>・意見や学習資料を参考にし、簡単な速い攻撃の作戦を立てることができ</p>	<p>・グループ学習による、声かけ励ましを一層大切にする。</p>



## 4 大山町立名和中学校

## 1 前書き

### (1) 本校の協同学習への取り組みの経過

本校は2010年度（平成22年度）より、協同学習に取り組んできた。当時、県西部を中心に「学び合い」の授業づくりに取り組む学校が増えてきていた。生徒の主体性、意欲、学力を伸ばすために、「教員主導の一方向の授業づくり」を改善していこうとするものであった。初年度は、年度初めの全校集会で「学び合い」の基本の学習ルールや「聴き合い」「教え合い」「話し合い」について生徒に説明することから始めた。

校内授業研究会の時は、学校間で声を掛け合い、研修を重ね深め合った。「学び合い」の授業づくりに取り組む学校が「西部学びの会」という形で集い、教育センターの支援を受け、2回の研修を計画実施することができた。第一回の研修は同志社大学の遠藤瑛子先生を講師にお招きした。生きる力と主要能力の説明を受け、それを育てるには協同学習が有効手段の一つであることを学んだ。そして、学び合いの理論説明を受けた後、国語の表現を中心とした模擬授業を3つ体験する中で協同学習の理論をさらに実感していくことができた。「学び合い(協同学習)」という、何かぼんやりとしていたものが、一人ひとりの中で少しずつ具体化されていった点で、この研修はとても有効であった。第二回の研修では、中京大学の杉江修治先生をお招きし、指導助言をいただいた。第一回の研修の後、個々人が自分の教科の中で生徒同士の「学び合い」のある授業づくりに取り組んできた。まだ中途の取り組みではあったが、その成果を名和中学校の公開授業（数学）という形で検証・交流することができた。杉江先生からは授業改善の視点や生徒たちの様子を褒めていただいた。また協同学習について資料を使いながら講義を受けたことは、教員間の共通理解・共通実践に大変有意義であった。

以降、杉江先生には2011年度（平成23年度）から2014年度（平成26年度）までは年1回、2015年度（平成27年度）からは年2回、指導助言に来ていただいている。毎回、研究授業を参観していただき、その後の授業研究会で指導助言と協同学習についての理論を講義していただいたことで、本校の研究が少しずつ前進してきた。

2年目である2011年度から、2つの視点を定め、授業研究を行ってきた。当初、「生徒一人ひとりが学習に積極的に参加しているか」「自分の考えを持ち、友達の意見を参考にしながら、さらに考えを深めているか」という視点だった。2016年度（平成28年度）は、「課題が明確で、振り返りは適切だったか」「生徒がねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」という視点だった。このことは、最初は、教師集団も協同学習に対して手探り状態で、生徒を主体的に学習課題に向かわせるという点に力を入れていたが、杉江先生の指導を受け、年を追ってその課題が改善され、教師が学習課題の設定の精度を高めることや振り返りを適切に行うことへ、本校の課題が変化してきたことを表している。

### (2) 本校の実態と研究課題

本校の“学校教育目標”は「仲間とともに、目標に向かって粘り強く挑戦する生徒の育成」である。また、“研究主題”は「人間関係力を育み、認め合い高め合う生徒の育成～伝え合う力を伸ばす授業づくり～」である。日々の学級活動や体育祭や文化祭などの行事を通し、クラス

や学年を中心とした仲間づくりを進めており、授業でも、課題に対して前向きに友達と関わりが合うことができている。しかし、発表する時に声が小さいなど、自分の考えを伝えきれていない場面も見られ、伝え合う力を伸ばすという点においてはまだまだ課題がある。また英語、数学を中心に学習を苦手としている生徒が多いことも課題として挙げられる。現在の取り組みをさらに高め、学力向上につなげていくことが今後の大きな課題である。

### (3) 2016年度の研修計画

- 5月26日 第1回校内授業研究会（国語）
- 6月20日 第1回研究職員会
- 8月10日 第2回研究職員会
- 11月17日 第2回校内授業研究会（英語）
- 1月5日 第3回研究職員会
- 2月1日 第3回校内授業研究会（道徳）

## 2 研修会の内容

### (1) 第1回研修会指導演

#### 第1学年 国語科学習指導演

平成28年5月26日 第5限

#### 1) 単元名 言葉を集めよう～もっと「伝わる」表現をみざして～

#### 2) 単元設定の理由

##### ①単元観

本教材の設定にあたっては、語彙力を高め、自ら進んで表現ができる生徒を育成できるように考えた。教科書には、「言葉は知っているのに、話したり書いたりしようとすると、思うように出てこないこともある。ここでは、自分の中にある言葉を引き出し、表現に生かす練習をしよう」とある。学習指導要領において、第一学年“伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項”イ(ウ)には「多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心を持つこと」が示されている。本教材は、語彙力をつけ、表現力を豊かにすることをねらいとしたものであり、言葉に関心をもって、語彙を学ぶことに適した教材だといえる。また、同時に「B 書くこと エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること」「A 話すこと・聞くこと ウ 相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」の力も同時に付けたいと考えている。生徒達を書く文章には、「今日は〇〇をした。楽しかった」のように、簡単な表現にとどまっているものも多く、近年の全国学力・状況調査においても、中学生の「具体的に詳しく表現する力」が弱いことが指摘されている。本教材は、そういった弱い部分を意欲的に高めるのに、効果のある教材だといえる。

## ②生徒観

本学級は男子 11 名、女子 7 名、計 18 名の学級である。授業開きにおいて、「言葉持ちになろう」という話をした。「はじめから」という言葉について、類義語をどれだけ知っているか、という質問をしたところ、答えられた生徒は非常に少なく、答えられた生徒についても、「最初から」という答えを出すことしかできなかった。正解例として、「のっけから」や「はなから」といった言葉を提示しても、その言葉にピンと来ている生徒はほとんどいなかったことから、語彙力が乏しい生徒が多いように感じる。また、一問一答式の知識、規則的な問題を答えることは得意だが、自分の想像の世界を表現することは苦手な生徒が多い。

## ③指導観

本単元ではまず、自分の好きな食べ物の紹介文を何の条件もなく書かせ、自分の言葉がいかに関手に伝わる表現として乏しいかに気付かせる材料として使う。その後、表現力が乏しい食レポと、表現力が豊かな食レポを視聴させ、その違いが語彙力の違いであるということに話し合い活動を通して気付かせたい。その後、班で類語辞典を使って「食感」「味」「量」「温度」「見た目」の観点からおいしさを表現するための言葉を集め、語彙を豊富に知ることによって、文章に表現力が加わることをねらう。その上で、最初に書いた自分の好きな食べ物の紹介文を再度推敲し、「おいしい」という言葉を使わないで、おいしさを表現した文章を作らせ、自分の文章の変化から、表現の広がりを感じさせたい。また、個人で考えたあとは、学習班の中で意見を共有し、新しい気づきを得ることで語彙力も高めていきたい。

## ④学び合いの視点

おいしさを表現するための言葉をグループで調べ、教え合いをする。また、調べたことをもとに短文を作り、個人に返したときに自分で書けるための環境を作る。その後、最初に書いた紹介文を推敲して書き直し、お互いに紹介し合うことで表現の広がりを感じさせる。

## 3) 単元目標

【関心・意欲・態度】図書や辞典などを利用し、興味をもってテーマや観点に沿って言葉を集めようとする。

【話す・聞く能力】話し合いの際に、相手にわかりやすく伝えたり、自分にはない考えを聞き取り、相手の意見を尊重した話し合い活動を行っている。

【書く能力】書いた文章を自分や、周りの人と読み合い、自分の表現に役立てることができる。

【言語についての知識・理解・技能】擬音語や擬態語などの効果を理解し、語彙を自分のものにしていく。

## 4) 単元の指導計画(全 3 時間) —評価計画は別紙—

第一次 学習の流れを知り、好きな食べ物について紹介文を書く・・・1 時間

第二次 おいしさに関する言葉を集め、短文を作る・・・1 時間(本時)

第三次 第一次で書いた紹介文を推敲し、得た言葉を使って文章を書き直す・・・1 時間

## 5) 本時の目標

「おいしい」と言わないで、おいしさを伝える言葉を集め、その言葉を使って短文が書ける。

## 6) 準備物 ワークシート、ストップウォッチ、模造紙、類語辞典、マジック

7) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点と◆評価
導入	1. モジュールで漢字バトルをする。	・教員が漢字を言い、回答者は分かった時点で早押しボタンを押し、その漢字を使った熟語を言う。
展開	2. 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おいしいと言わないで、おいしさを伝えよう</div>	
	3. 二つの食レポ*を視聴して、その違いを考える。	・話し合い活動について大切なことをあらかじめ確認してから活動に移す。 ・話し合いが苦手な生徒を生徒同士でカバーできるような機会を設ける。
	4. 各班で担当を決め、「食感」「味」「温度」「量」「見た目」で言葉を集める 【学び合いーグループ】	・調べ学習マップを用意し、調べる時間の短縮を図る。 ・「おいしさ」を表す言葉を集めることを再度伝える。 ・教員に聞くのではなく、自分たちで解決できるように促す。
	5. 発表 【学び合いー全体】	・ワークシートに、発表の穴埋め台本を準備しておき、それに沿って発表ができるようにする。
	6. 得た言葉を使って、30文字以内で短文を作る 【個人】	・あらかじめ、この文章は今日の評価につながることを伝える。 ◆発表で得た言葉を使って、30文字以内で自分の言葉で表現している。 【書く】 【言語】(ワークシート) 〈Aの生徒への手立て〉 ・30文字を、10文字や50文字に字数を変えて書くよう促す。 〈Cの生徒への手立て〉 ・30文字以内の穴埋めプリントを用意し、いままでのプリントも確認しながら埋めるように促す。 ・発表を聞くことで、自分とは異なる表現について、それぞれの良さに気付かせる。
7. 出来上がった文章を班で読みあい、時間があれば全体に発表をする。		
まとめ	8. 今日の振り返りをする。 9. 次時の予告を聞く。	・自己評価欄に気付いたことやわかったことをまとめさせる。 ・次時は、第一次で書いた紹介文を推敲し、よりよい文章を書いていくことを確認する。

\*「食レポ」のシナリオは本稿末に掲載

\*使用した配布資料も本稿末に掲載



## (2) 第1回研修会記録

研修会の成果は「アドバイザー派遣事業実施レポート」としてまとめた。これは鳥取県教育センター提出したものであり、本稿ではこれを記録として掲載する。

### アドバイザー派遣事業 実施レポート

西部学びの会

代表 狩野 実

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善

2. 研修日 平成28年5月26日(木)

3. アドバイザー 杉江修治 教授(中京大学)

#### 4. 研修のまとめ

県西部のいくつかの学校と共に協同学習に取り組み、「西部学びの会」を立ち上げてから7年目を迎えた。生徒がお互いに学び合う中で、より良い人間関係を育み、生徒の主体性、やる気、学力を伸ばしていくことをねらいとしている。授業研究の際には、学校間でお互いに声を掛け合い、授業を見合いながら、研修を深め合っている。本年も、そういった学校が集まり、教育センターの支援を受けながら研修を計画・実施することができた。

今回の研修では、次の2つの視点を定め、授業研究を行った。

視点1 生徒が「課題が明確で、振り返りは適切だったか」

視点2 生徒が「ねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」

事後の研究会では、上記2つの視点を中心に、様々な学校の先生とマトリクス法によるグループ討議を行い、①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要なことについて6つのグループで話し合いを行った。その後、6グループの中から2グループを指名して発表し、全体で共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none"><li>・本時の目標と動機づけが明確で、生徒が取り組みやすかった。</li><li>・課題が明確で、つけたい力、ねらいと学習の値打ち、評価のポイントをあらかじめ伝えていたのが良かった。</li><li>・できるようになってほしい力が具体的に示されていてゴールの姿を連想しやすかった。</li><li>・食レポの例がビデオで示されていて課題が分かりやすかった。</li><li>・観点を分けることで、クラスや班で協力する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・振り返り(ついた力の確認)の時間の確保が必要である。</li><li>・5つの視点を示し、グループごとに分けて調べる方法は、思考を限定させてしまったかもしれない。</li><li>・文例になると、話し合いが少なくなった。</li><li>・言葉を集める時間と文例を考える時間を分けた方が良かった。</li><li>・班で出てきた意見をもう少し時間をとって全体共有できたら良い。</li></ul>

ことが、責任感や楽しみを感じながら自然にできていて、全員が参加していた。

- ・授業パターンがよく身につけていて生徒に安心感があるように感じた。
- ・授業者が、発表の仕方等、場面ごとに評価していたのが良かった。

・発表原稿があり、文章が作りやすかったが、それに頼りすぎ、広がりが見えにくいため、徐々に自由度を高めていくのがよい。

アドバイザーの杉江先生からは、今回の授業について、次のような指導講評をいただいた。

- ・生徒たちが生き生きと活動したよい授業だった。
- ・単元目標がワークシートに書いてあるなど、単元の見通しを持たせていてよかった。
- ・学びの価値を伝えていたことがよかった。
- ・導入に時間をかけて何をやるか生徒にしっかり理解させていたことがよかった。
- ・5観点の指示をしっかりとっていたことがよかった。
- ・意欲的に取り組める仕掛けがたくさんあってよかった。
- ・振り返りの視点や次時の見通しをもっと伝えておくとよかった。

さらに指導講評をふまえて、「協同学習の基本と学び合い」というテーマのもと、次のような話をいただいた。

○授業づくりの基本的な観点—生徒主体の授業づくり

○教育を進める上での大切な2つの原理

- ・生徒は成長したがっている。
- ・生徒は仲間とのより良い関係を求めている。

○協同学習の考え方—グループ学習が協同学習ではない。

- ・生徒の認知過程を考えようでの授業づくり。
- ・一人ひとりの学びを支える協同的な学級集団づくり。

\*協同的な学級は「仲よし集団」ではなく「課題追求のできる集団」である。

○授業の一般的な流れ

- ・明確な課題提示（見通しを持たせる。学びへの前向きな構えを持たせる。）  
一本時の課題の明示、授業の流れを知らせる、学びの値打ちを理解させる。
- ・参加型の授業課程（しっかりと個人思考、グループ、一斉での学び合い。）
- ・学びの振り返り（成長の手応えを知る・学びの値打ちを確認する。）

○学び合いの姿、生徒のコミュニケーション能力

- ・生徒のコミュニケーション能力不足を学び合いがうまく進まない理由にしないこと

○学び合いの質

- ・個人の差を認め合った活動を基盤にしている。
- ・たがいの成長意欲を信頼し合う態度が基盤となっている。
- ・全員参加。
- ・わからないところを教える、教えてもらう。
- ・意見を出し合い個人の理解を深め、広げる。
- ・意見を練り上げ、より質の高い解をグループ・学級で作出す。

○学び合いの質を高める仕掛けづくり

- ・明確な集団課題を示す。
- ・学び合いをより成功できる手順の指示をする。
- ・練り上げる議論のできる仕掛けをする。
- ・学級の目標を工夫する。
- ・異質なメンバーで集団編成をする。
- ・適切な座席配置をする。
- ・役割の指定をする。
- ・グループ間交流を採用する。

○生徒が動く時間の確保

- ・教師の話す時間をいかに減らすか。
- ・学び合い・個人思考への介入をいかに最小限にするか。
- ・無用な声かけをしていないか。
- ・教師がかかわるべきタイミングはどんな時か。
- ・まとめ、振り返りこそ、学びの意味を知らせるとき。

また、協同学習の基本は「授業のユニバーサルデザイン」の基本でもあることも教えていただいた。

生徒同士の「学び合い」は、仲間づくりはもちろん、学力面でもプラスに働くものであると考えている。今後もそれぞれの学校で「学び合い」の実践がさらに深まっていくように声を掛け合い、研修を深めていきたいと考えている。

### (3) 第2回研修会指導演

#### 第2学年英語科学習指導演

平成28年11月17日 第5時限  
ティームティーチング

1) 単元名 Sunshine English Course2 My Project5 スピーチをしよう - こんな人になりたい

#### 2) 単元設定の理由

##### ①単元の価値

本単元では「スピーチをしよう～こんな人になりたい～」と題して、モデル文を通して英文の構成を知り、実際に原稿を仕上げるライティング活動と発表を行うスピーキング活動を行う。学習指導要領にもある、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように文と文のつながりなどに注意して書くこと」と「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」をねらいとしている。言語はコミュニケーションのための一手段であり、そのコミュニケーションは相手がいることで成り立つといった言語学習の基本を再確認し、そのための力を育成するのに最適である。また、「自分の身近な人や憧れの人について書く」というテーマは生徒

の自主性や創造性を引き出しやすい題材でもあり、普段、英語学習に消極的な生徒の意欲を高めるにも適していると考え。加えて、接続詞や不定詞、動名詞などといった今学期の既習事項を用いることで、各文法事項をより一層理解することに繋げることができると思われる。

#### ②単元の構成（単元分析）

本単元は、モデル文を読み、その構成を理解し、相手に伝わるためにはどのような文章構成を行えば良いかを知ることから始まる。スピーチ原稿の構想を練る際には、3部構成にして考えることとし、より分かりやすい原稿を作成することを目標とする。併せて、既習事項の接続詞、不定詞、動名詞にも触れ、自分のスピーチで使用できそうなものを確認させる。最終的には自分のスピーチ原稿の発表練習を行い、友だちの前で発表することで、既習事項の活用及び言語表現の力を育成することができる統合型の単元である。

#### ③生徒の実態

本学級の生徒は、学習したばかりの文法であれば、それを使用した文を書ける生徒が多いが、短文かつ難易度の低い英単語に偏る傾向にある。また、学習してから一定の期間が経つと、活用方法を忘れてしまい、定着していないことが多く見受けられ、英語運用力という点では非常に弱いことが覗える。「まとまりのある英文を書くこと」を苦手とする生徒が多く、ライティング力育成が大きな課題である。加えて、既習語句であっても英単語の発音に自信が持てない生徒が多く、適切な音声指導が必要である。

一方で、班内で男女問わず助け合い、アドバイスをし合うことができるといった強みを持っており、学び合いの場面を取り入れることで、より質の高い原稿作成・発表ができるようになる。

#### ④指導観

本単元では、「相手に伝わる」ことを目的として、原稿作成及び発表を行うことを第一の目的としていることを徹底して生徒に伝えた上で活動を進めていきたい。そのため、分かりやすい文章構成や音声・発表指導に重点を置きたい。特に、不定詞を使用し、自分の希望や行動の目的を述べることで、より具体的な文章を書くように指導していく。また、クラス全員が原稿を完成させ、発表練習まで行うことができるように、原稿作成・発表練習の各段階でグループ内での意見交換やアドバイスの場面を設定し、自分のスピーチに自信を持てるようにしていきたい。

### 3) 単元目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】自分の考えが伝わるように、積極的にスピーチ作成・練習をしようとしている。

【外国語表現の能力】自分の考えをスピーチ原稿にし、適切な音声・態度で発表することができる。

【外国語理解の能力】モデル文を読んで、文章内容・構成を理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】自分の考えが相手に正しく伝わるように、文構造や文章構成に注意して文章を書くことができる。

### 4) 単元の指導計画（全4時間）・・・評価計画は別紙

- |     |                  |        |
|-----|------------------|--------|
| 第一次 | モデル文の構成を理解する。    | ・・・1時間 |
| 第二次 | 自分のスピーチ原稿の構想を練る。 | ・・・1時間 |

- 第三次 原稿を書く。 . . . 1 時間
- 第四次 スピーチをする。 . . . 1 時間（本時）

5) 本時の価値

スピーチは相手がいて初めて成り立つものである。いかに相手に伝わりやすいスピーチができるかは、文章の内容だけでなく、発表の仕方が鍵を握る。発音、抑揚といった音声面と声の大きさ、スピード、アイコンタクトを含めた態度面の双方を大切にすることで、コミュニケーションに必要な力を育成することができる。と考える。

また、発表を聞き、それに対するコメントを述べることで、聞く側の態度も重要な役割を果たすことに気付かせることができる。

6) 本時の学び合い（課題追求）の意図

まずはグループ内で自分のスピーチを行うことで、個人練習では気付かなかった自身の課題に気付くやすくなると考える。発音が苦手な生徒にとっては一文が短い場合であっても、発音に自信を持ってないことが発表の態度面でマイナスに繋がることから、適切な発音の仕方に気付かせ、自信を持って発表に臨ませるようにしたい。また、教師のチェックを受けた後、自分の課題を達成するにはどうしたら良いかグループ内で共有することで、自分のことだけでなく仲間のことを考えながら行動できる態度の育成を目指したい。

7) 本時のねらい

相手に伝わるように、留意点に気をつけてスピーチをすることができる。

8) 基礎・基本の習得事項

- ①スピーチをする際の留意点を理解している。※留意点「発音、抑揚、声の大きさ、目線」
- ②正しい英語の発音で読むことができる。

9) 振り返りの方策

自分自身のめあての達成度を 5 段階評価で評価すると共に、記述で振り返る。

10) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点と◇評価
導 入	1. 英語の歌を歌う。	・授業の雰囲気作りを意識して元気よく歌わせる。
	2. 前時の学習を振り返る。	
展 開	3. 本時の目標を確認する。	・学習のめあてを示し、見通しを持たせる。
	相手に伝わるように、スピーチをすることができる。	
	4. スピーチをする際の留意点を確認する。	・スピーチの練習前に留意点を具体的に提示する。 「発音、抑揚、声の大きさ、目線」
	5. スピーチ練習	・注意点を基に個人練習を行う。

	<p>個人 → 教師のチェック → グループ 【学び合いの場面】</p> <p>6. 全体の前で発表を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人、教師のスピーチのチェックを受ける。</li> <li>事前に全員文のスピーチ原稿をコピーしておき、改善の手助けとなるようなアドバイスを記入して渡す。</li> <li>・グループ内で互いに発表を聞き合い、音声・態度面でのアドバイスをを行う。</li> <li>・スピーチチェックに合格した生徒は、グループ内の他の生徒への支援、手助けを行う。</li> <li>◇自分のスピーチ原稿を、適切な音声・態度で読むことができる。【外国語表現の能力】</li> <li>&lt;Cの生徒への手立て&gt;</li> <li>・時々、原稿を見ながらでも顔を上げてスピーチに取り組むように促す。</li> <li>&lt;Aの生徒への手立て&gt;</li> <li>・原稿を見ずに顔を上げ、発音・抑揚に気をつけながらスピーチをするよう促す。</li> <li>・指名された生徒はクラス全員の前でスピーチを発表する。時間があれば、多くの生徒を指名する。</li> <li>・スピーチを聞いて、ワークシートにコメントを記入し、何人かに発表をさせる。</li> </ul>
<p>ま と め</p>	<p>7. 本時の振り返りをする。</p> <p>8. 教師のまとめを聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的なめあての達成度をワークシートに記入させる。(5段階評価と記述) →回収</li> <li>・単元のまとめと今後の学習への展望について話す。</li> </ul>

(4) 第2回研修会記録

アドバイザー派遣事業 実施レポート	
西部学びの会	
代表 狩野 実	
1. 研修テーマ	学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日	平成 28 年 11 月 17 日 (木)
3. アドバイザー	杉江修治 教授 (中京大学)
4. 研修のまとめ	今回の研修では、次の2つの視点を定め、授業研究を行った。
<p>視点1 生徒が「課題が明確で、振り返りは適切だったか」</p> <p>視点2 生徒が「ねらいの達成に向けて、学び合い・高め合いができていたか」</p>	
事後の研究会では、上記 2 つの視点を中心に、様々な学校の先生とマトリクス法によるグ	

ループ討議を行い、①工夫・良かった点、②手立て・改善が必要なことについて8つのグループで話し合いを行った。その後、8グループの中から2グループを指名して発表し、全体で共有した。各グループの内容をまとめると以下の内容である。

①工夫・良かった点、さらに伸ばしたいこと	②手立て・改善が必要なこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが明確だった。</li> <li>・学習の流れが細かく丁寧に説明されていた。</li> <li>・4つの観点と評価規準が示されていてよかった。(ABCの規準が設定されていること、めあてに対して具体的な視点が示してあり、課題がよくわかり、この授業で自分が何を目標せばよいのかが明確だった。)</li> <li>・学び合いの雰囲気良く、生徒同士積極的に教え合う姿が見られた。</li> <li>・友人の発表に対して、4つの観点到に触れながらの感想があって良かった。</li> <li>・視聴覚機器の使い方が効果的で工夫されていた。</li> <li>・教師の評価言が多く、良かった。</li> <li>・最初にスピーチの良い例、悪い例を示したことが分かりやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りの時間の確保が必要である。(そのため、前時まででやっておくことがあったのではないか。)</li> <li>・全員発表させる方がよい。</li> <li>・グループでの話し合いの指示をより明確にするとよい。(話し合いの仕方、内容、アドバイスの視点の提示が必要)</li> <li>・指示が多く、説明の時間が長くなってしまっていた。</li> <li>・最初の個人練習は省き、グループでの学び合いにもっと時間をかけるべきだった。</li> <li>・途中で手本となるような生徒に発表をさせてみてはどうだったか。</li> <li>・グループ内で相互評価させてみてはどうだったか。</li> <li>・スピーチなのか？音読なのか？また、スピーチをすることなのか？スピーチを作ることなのか？</li> </ul>

アドバイザーの杉江先生からは、今回の授業について、次のような指導講評をいただいた。

- ・参加・協同を促す工夫があった。
- ・個人の取り組みに集中する姿が見られた。
- ・教師が手本を示すことは要求水準を上げることになり、良かった。
- ・スピーチの意義、学びの価値を伝えていて良かった。
- ・グループでの練習の仕方を指示しておくべきだった。
- ・先生の評価に基づいた学び合いができたのは良かった。
- ・一生懸命活動はしたが、スピーチがうまくなったという成功体験を持てたかどうか大切。
- ・全体発表の前に、先生からもらった評価を伝えてから発表すると、4観点到にしたがった工夫になった。

また、協同学習について「協同が支えるアクティブな学びー考え方と進め方」というテーマでお話いただいた。

○学びのマップづくり

- ・生徒一人ひとりに学びのマップ(学習課題、学習の筋道、学習の値打ち)を持たせて学習

に入ること。

- ・よい学習課題の条件は明確であることーゴールの明確化。
- ・本時・単元の確かな「振り返り」の必要性。
- ・明確な課題（集団課題）の設定や単元の見通しづくり。
- ・指導目標から学習目標を考えそれを達成できるための学習課題づくり。
- ・個人思考と集団思考を適切に組み合わせた授業の流れ、振り返りの工夫が必要であること。

○協同の仕掛けづくり

- ・学級の仲間全員の成長を目指す学級づくりを行うこと。

○授業における教師の役割

- ・教師は学びのコーディネータ、仕掛けづくりが大切であり、授業を教師主導から生徒主導へ転換すること。

- ・すべての生徒は成長意欲を持っていることを確信することが必要である。

また、校区の小学校の先生の参加も多かったので、協同学習について改めて共通理解できた。授業のスタイルを同じくすることは、生徒にとって安心感につながるだろうと考える。今後の小中連携にとっては有益だった。

生徒同士の「学び合い」は、仲間づくりはもちろん、学力面でもプラスに働くものであると考えている。今後もそれぞれの学校で「学び合い」の実践がさらに深まっていくように声を掛け合い、研修を深めていきたいと考えている。

### 3 1年の成果と課題

#### (1) 成果

- ・単元計画を示し、生徒に見通しを持たせた指導ができるようになってきた。
- ・本時目標や本時の授業の流れを伝えることができるようになってきた。
- ・本時目標を明確に提示できるようになってきた。
- ・各教科で単元目標・本時目標・学びの値打ちを伝えることができるようになってきた。
- ・学びの値打ちを伝えることで、生徒が興味関心を持ってその単元に向かうようになってきた。
- ・参加・協同を促す工夫が増え、生徒たちが個での取り組みに集中する場面や、生き生きと活動する場面が増えてきた。

#### (2) 課題

- ・昨年度までの、「1時間に少なくとも1回は学び合い（関わり合い）の場面を設定する」からのステップアップを目指し、「高め合い・深め合う場面設定の工夫」に取り組んだ今年度であったが、場面設定の必然性に課題が感じられ、活動はあるが深め合うレベルに到達できていない場面がある。
- ・学び合いに入る前に、何を、どのようにするかまで指示を明確にする必要がある。



- ・学習課題に対しての振り返りをさせることが十分にできなかった。
- ・振り返りをさせた後、次時の見通しを伝えることが十分にできなかった。

## 研究授業での配布資料等

### 1 国語科食レポのシナリオ

<p>いただきます！</p> <p>このカレーは、すごくおいしいですね。</p> <p>なんというか。すごいですね。</p> <p>なんて言えばいいんだろう。うん、おいしい。やばい。</p> <p>いくらでも食べられます。やばいです。おいしい！</p> <p>ごちそうさまでした！</p>
<p>いただきます！</p> <p>うーん！なめらか！舌触りがなめらかです。</p> <p>ルーがとろっとしているので、とても食べやすいですね。</p> <p>口に入れたときに、スパイスの香りがふわっと広がって、それなのに、ぴりっとした辛さはちやんとある。</p> <p>とても食べていて飽きない工夫がされているカレーですね。</p> <p>ごちそうさまでした！</p>

2人の教員が演じるDVDを作成。

## 言葉を集めよう学習確認プリント 授業用

年 組 番 氏 名

### 「言葉を集めよう」学習の流れ

#### 【1時間目】

【言語】【関・意・態】

- 一、学習の流れを知る
- 二、自分の好きな食べ物の紹介文を書く。  
▼特にルールはありません。好きな食べ物について、しっかり紹介をしてください。

#### 【2時間目】

【言語】【話す・聞く】【書く】【関・意・態】

#### ※研究授業【全ての先生があなたたちを見に来ます！】

- 三、二つの食レポを視聴して、その違いに気付く。  
▼班での話し合いの様子を見えています。
- 四、おいしさを伝えるための言葉をクラスみんなで集める  
▼「おいしい」と言わないで、おいしさを伝える言葉を考えます。  
▼見つけた言葉で短文を作ってみましょう。

#### ▼短文づくりは、班全員が理解できるようにすること。

- 五、集まった言葉の発表会をして、言葉を自分のものにする
- 六、集まった言葉を使って、自分の力で短文を書く。《評価テスト》  
▼出来上がった短文を、班や皆で読みあいをしましょう。

#### 【3時間目】

【関・意・態】【書く】【話す・聞く】

- 七、自分が書いた紹介文を推敲する。  
▼前の時間で手に入れた自分の言葉を使って、推敲をしてみましょう。
- 八、班の人たちから意見をもらう。
- 九、百字で、紹介文を完成させ、みんなで読み合う。  
▼出来上がった作品を、みんなで褒め合ひましょう。  
▼自己評価をしましょう。

### 【単元の目標】・・・つけてほしい力

- 【関心・意欲・態度】・図書や辞典などを利用し、興味をもって言葉を集めようとする。
- 【話す・聞く】・相手にわかりやすい話し方、場に応じた話し方ができる。  
・わかる人はわからない人にわかるように教え、わからない人はわかる人に積極的に聞いたりして、全員でしっかり話し合い活動をしている。
- 【書く能力】・書いた文章を自分で直したり、仲間のを直したりして、自分の表現に役立てることができる。
- 【言語についての知識・理解・技能】・今まで知らなかった言葉の類義語や、表現をする際に使える擬態語を理解している。  
・表現するためのことばの効果を理解し、言葉を自分のものになっている。

## これからすること

### 一、班内で協力して、自分の班の担当の観点についての言葉を、辞書を使って集める。【話す・聞く】【言語】

- \*「おいし」とを表す言葉を選ぶこと。
- \*班全員で取り組むこと。
- \*言葉調べマップを使うこと。

### 二、集めた言葉を使った短文作りをする。【話す・聞く】【言語】

- \*文例は、カテゴリーやなくてもよい。
- \*主語と述語をいれること。
- \*得意な人は、苦手な人のフォロー、教えあい、助けあいをする。
- \*全員参加が大切。

### 三、発表練習をする。【話す・聞く】

- \*発表者を考える。
- \*発表をするために大切なことを意識する。

つげてほしい力(こを覚えていきます)

・先生に頼らず、自分たちで解決する力

・全員参加で学び合う力

・一人にならなくてもまわりのようになれる力。

4 国語科：言葉集めを促す手冊から資料

## 言葉を集めよう学習確認プリント 授業用

年 組 番 氏 名

### 言葉調べマップ

#### 《温度》の観点で調べる班のみなさんは…

擬音語・擬態語の読本 274 ページ「暖かい」

擬音語・擬態語の読本 275 ページ「冷たい・寒い」

類語辞典で「わたかい」「つめたい」

#### 《見た目》の観点で調べる班のみなさんは…

類語辞典で

オノマトペ辞典 53 ページ「張る・ふくらむ」

擬音語・擬態語の読本 201 ページ「溶ける」

擬音語・擬態語の読本 166 ページ「ふくらむ」

擬音語・擬態語の読本 214 ページ「焼く」「煮る」

擬音語・擬態語の読本 170 ページ「くねる・曲がる」

擬音語・擬態語の読本 207 ページ「浮く」

#### 《食感》の観点で調べる班のみなさんは…

類語辞典で「やわらかい」と調べてみる

オノマトペ辞典 61 ページ「やわらかい」

オノマトペ辞典 39 ページ「食べる・かむ・なめる」

擬音語・擬態語の読本 281 ページ「柔らかい」

擬音語・擬態語の読本 134 ページ「広がる」「消える」

擬音語・擬態語の読本 43 ページ 44 ページ「食べる」「噛む」

#### 《味》の観点で調べる班のみなさんは…

類語辞典で「味わう」と調べてみる

擬音語・擬態語の読本 288 ページ「味」

#### 《量》の観点で調べる班のみなさんは…

類語辞典で「多い」「少ない」と調べてみる

擬音語・擬態語の読本 270 ページ「十分に・完全に」

オノマトペ辞典 62 ページ 63 ページ「多い・少ない」

言葉を集めよう確認プリント 授業用

年 組 番 氏 名

## 集めた言葉を発表しよう

ほく 私たちの班は、( ) についての観点を言葉を集めました。集めた言葉を読んでみます。

つや つてみてみると、文章として使える言葉もたくさんありました。

皆さんの中で、( ) の観点で、ついに繋がっていない言葉を言える人がいたら、教えてください。

(あった場合) 他にもありませんか？

(なかった場合) 僕たちは、つの中で、( ) もこの言葉を使って( ) といつ短文を作つてみました。みなさんも、この言葉たちを参考に、是非使つてみてください。

6 国語科：グループ発表の個別記録用紙

「おいしさ」を伝える言葉

<p>【食感】</p> <p>【温度】</p> <p>文例</p>	<p>文例</p>
<p>【量】</p> <p>【見た目】</p> <p>文例</p>	<p>文例</p>
<p>文例</p>	<p>文例</p>
<p>文例</p>	<p>文例</p>



8 国語科：振り返りシートの様式

--	--

次への課題・できるようになりたいこと・推敲にむけてやりたいこと

--	--	--	--

今日の授業の感想・振り返り・できるようになったこと

＊ふりかえりシート  
日時 年月日  
学習目標 【おいしいと言わないでおいしさを伝えよう】

言葉を集めよう学習プリント 授業用

氏名

9 英語科：教師による speech 評価票

Speech evaluation スピーチ評価			
pronunciation 発音	stress 強勢	volime of vioce 声の大きさ	Eye contact 目線
<p>発音 A 誤りがない B いくつか誤りがあるが理解できる C 意味が曖昧になるような誤りがいくつかある</p> <p>強勢 A 強勢に気をつけている B 強勢を意識しようとしている C 強勢を意識できていない</p> <p>声の大きさ A 十分な声量である B 聞き取ることはできる C 聞き取ることができない</p> <p>目線 A 原稿を見ずに相手の目を見てスピーチしている B 時々、原稿を見ながらスピーチしている C 原稿だけを見ながらスピーチしている</p>			



監修者

杉江 修治 中京大学国際教養学部教授

---

生き生きと学ぶ生徒の姿の追求  
—鳥取県中西部4中学校の挑戦  
(協同教育実践資料23)

---

2017年5月20日 第1刷発行

著者 鳥取県湯梨浜町立東郷中学校・鳥取県伯耆町立溝口中学校  
鳥取県南部町立南部中学校・鳥取県大山町立名和中学校

監修者 杉江修治

発行 一粒書房

〒475-0837 愛知県半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

---

編集・印刷・製本 (有)一粒社 (代表 宮原健太郎)

〒475-0837 半田市有楽町 7-148-1

TEL. 0569-21-2130

ISBN978-4-86431-607-1 C1337

協同教育実践資料 23

## 生き生きと学ぶ生徒の姿の追求



ISBN978-4-86431-607-1

C1337 ¥1500E

定価 1,500円+税